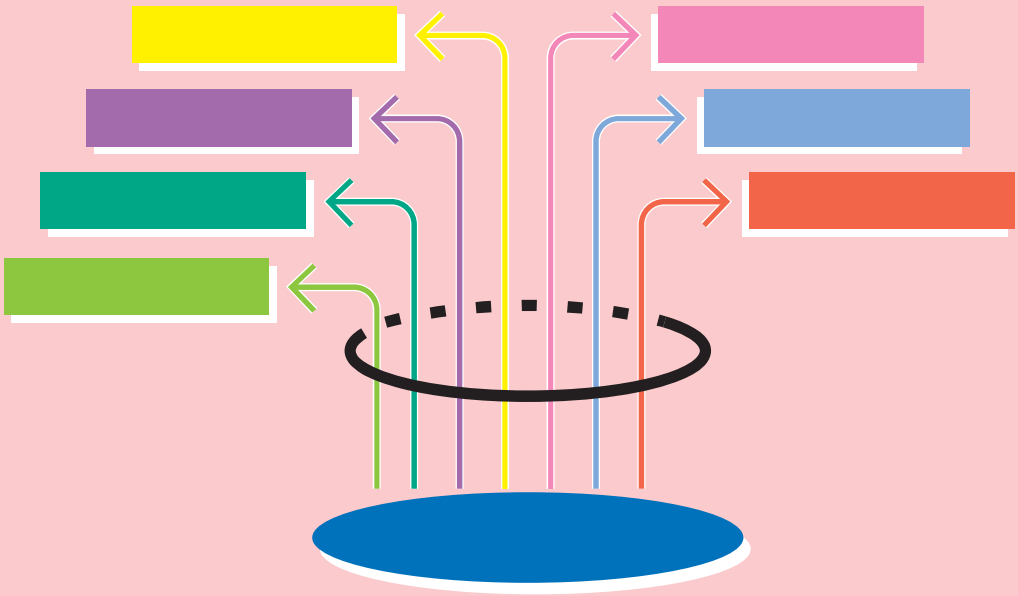
ガイダンス時に必ず持参すること

2023 （令和５年度）

全学教育科目　履修案内

Handbook for General Education Requirements



静岡大学大学教育センター

行 事 予 定 2023年度

学年開始	4月 1 日
入学式	4月 4 日
全学教育科目・教務ガイダンス	4月 5 日～4月 10 日
前学期　授業開始	4月 12 日
前学期　補講日（静岡キャンパス）	7月 15 日
（浜松キャンパス）	7月 15 日
前学期　授業終了	7月 24 日
前学期　試験	7月 25 日～7月 31 日
英語力確認テスト（TOEIC）	7月 27 日
英語力確認テスト追試験（TOEIC）	8月 17 日
後学期　授業開始	10月 2 日
静大祭　（静岡キャンパス）	11月 3 日～11月 5 日
（浜松キャンパス）	11月 11 日～11月 12 日
後学期　補講日（浜松キャンパス）	1月 24 日
（静岡キャンパス）	1月 24 日
後学期　授業終了	1月 29 日
後学期　試験	1月 30 日～2月 5 日
卒業式　（静岡キャンパス）	3月 23 日
（浜松キャンパス）	3月 21 日
学年終了	3月 31 日

休業日：

国民の祝日に関する法律に規定する休日
日曜日
土曜日（人文社会科学部の夜間主コースを除く。）

※　カレンダー形式の詳細な行事予定表は、裏表紙の裏面をご参照ください。

目　　次

新入生の皆さんへ …… 1

1　理念及びポリシー …… 2

2　学期と授業時間 …… 4

3　事務担当窓口 …… 4

4　全学教育科目と学部専門科目 …… 4

5　全学教育科目の科目区分 …… 5

6　全学教育科目の学部別授業科目一覧 …… 6

7　各学部の教養科目必要単位数 …… 21

8　履修登録から成績確認までの流れ …… 29

9　授業時間割枠 …… 34

10　全学教育科目の科目区分の概要説明 …… 36

11　全学教育科目の科目区分の履修方法詳細 …… 39

12　学務情報システムの利用について …… 46

13　情報基盤センター計算機実習室について …… 62

14　静岡大学全学教育科目規程 …… 63

15　教養科目の成績評価に関わる指針 …… 66

16　入学前既修得単位等に係る全学教育科目の取り扱い …… 67

17　本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ …… 68

18　留学生科目等に関する申合せ …… 70

19　TOEIC スコアのデータ登録に関する申合せ …… 71

20　特別教育プログラムの履修について …… 72

21　「数理・データサイエンス」教育プログラムについて …… 81

22　静岡キャンパス共通教育棟校舎配置図 …… 82

23　静岡キャンパス共通教育棟周辺掲示板 …… 83

24　浜松キャンパス建物配置図・教室名 …… 84

25　全学教育科目の学部別授業科目一覧（ＡＢＰ留学生コース） …… 85

26　各学部の教養科目必要単位数（ＡＢＰ留学生コース） …… 97

行事予定（概要） …… 表表紙の裏面

行事予定表 …… 裏表紙の裏面

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからいよいよ皆さんの静大生としての新しい生活がはじまります。勉学に課外活動に、また友人同士の楽しい語らいにと、ぜひ有意義な４年間をすごしてください。

このうち静岡大学での勉学について言うと、皆さんが学ぶ授業科目のおよそ４分の１～３分の１は、すべての学部の学生を対象とする「全学教育科目」と呼ばれる科目群です。この科目群は、それぞれの専門的な学問分野について学ぶ「学部専門科目」とは異なって、（１）大学生として学んで行く上で共通に身につけておく必要のある基礎的な知識・スキルや教養についての科目、（２）教員資格等の取得に必要な学部横断的な科目、（３）理工系学部学科で共通に求められる基礎的な知識についての科目から成っており、その大半を１、２年次に履修することになります。また、「全学教育科目」には、高度な英語力の修得を望む学生のための「英語特別教育プログラム」、グローバル人材育成を目指して開設された「ＡＢＰ特別教育プログラム（英語で行われる授業や海外研修を含む）」、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出すための「防災マイスター」や、静岡キャンパスに限定されていますが、大学４年間の学びをより意義深いものとすることを目指す「静岡大学アクティブラーナー特別教育プログラム」等も準備していますので、是非チャレンジしてみてください。

この「履修案内」はこれらの「全学教育科目」全体の構成と履修方法を説明するものですので、入学時に行われる履修ガイダンスを参考にしながら、注意深く読み、自分が履修しなければならない科目は何なのかをよく確認してください。

大学の授業は、高校までの授業よりも選択の幅が広く、「全学教育科目」のうちでも特に「教養展開科目」に分類されている科目群については、一定の制限はありますが、多くの科目のなかから自分の興味関心に基づいて選択することができ、また他学部の学生たちと肩を並べて勉強する機会を得ることもできます。個々の授業内容を紹介するシラバスを一覧すれば、それぞれの授業のねらいやどのようなテーマが扱われるのかを事前に知ることができるようになっていますので、ここで大学生活に不可欠な「正しく選ぶ」訓練をしてみてください。

大学での４年間を豊かなものにするためには、多くの授業のなかから自分にとって必要なものを「選び」、サークルや友人やゼミを「選び」、そして最終的には社会のなかで自分が進むべき道を「選ぶ」ことが皆さんには求められます。そしてこのように「正しく選ぶ」ためには、自分がいったい何者であり、何をしようとしているのかを知ることが必要です。しかしただ自分の内面を見つめていても、「本当の自分」を発見することはできません。これからの様々な出会いを大切にし、そのなかで「よく考えて選ぶ」営みを何度も繰り返すことによって、皆さんは少しずつ自分の真の姿を見つけ出していくことができるようになるでしょう。

大学教育センター長

1 理念及びポリシー

(1)静岡大学の理念と目標

理念「自由啓発・未来創成」

静岡大学は、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校（旧浜松高等工業学校）の統合（1949 年）と静岡県立農科大学の移管（1951 年）を経て誕生しました。統合前の前身校では、いずれも大正デモクラシー下の自由な社会の雰囲気を背景として、学生の主体性に重きをおく教育方針がとられましたが、なかでも浜松高等工業学校では、「自由啓発」という理念のもと、学生たちを試験や賞罰によって縛るのではなく、できる限り自由な環境のなかに置き、ひとり一人の個性を尊重することを通してその才能を発揮させることをめざす教育が行われました。

この理念は、教育だけでなく、なにごとにもとらわれない自由な発想に基づく独創的な研究、相互啓発的な社会との協働に不可欠であり、時代を越えて受け継がれるべきものです。静岡大学の学生・教職員は、このような認識の下で、教育、研究、社会連携・産学連携、国際連携の柱として、「自由啓発」の理念を引き続き高く掲げ、共に手を携えて地域の課題、さらには地球規模の諸問題に果敢にチャレンジするとともに、人類の平和と幸福を絶えず追求し、希望に満ちた未来を創り出す「未来創成」に全力を尽くします。

静岡大学は、以上のような意味での「自由啓発・未来創成」の理念のもと、静岡県に立地する総合大学として、地域の豊かな自然と文化に対する敬愛の念をもち、質の高い教育、創造的な研究による人材の育成を通して、人類の未来と地域社会の発展に貢献していきます。

教育の目標

○多様な文化と価値観を尊重する豊かな人間性とチャレンジ精神を有し、高い専門性と国際感覚を備えた、人類の未来と地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。

○上記の人材を育成するために、国際水準の質の高い教育を行うとともに、学生・教職員の協働のもと、学生が主体的・能動的に学習する教育を推進し、さらに、学生が地域づくりの一員として、自由闊達に地域の人々と交流し、学びあい、地域課題の解決に向け連携・協働する取組を進めます。

研究の目標

○真理を探究する基礎研究から技術開発や課題解決のための応用研究にわたる独創的な研究を推進し、研究成果を国際社会や地域社会及び産業界に還元することにより、人類の知及び学術文化の継承と発展に貢献します。

○地域の知の拠点として、多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、世界をリードする研究に取り組み、研究上の強みと特色のある分野では世界的研究拠点の形成を目指します。

社会連携・産学連携の目標

○社会の中の一員として、社会に開かれた教育研究を推進するとともに、社会が直面する課題に協働して取り組み、成果の発信と共有及び知と価値の共創を通して社会に貢献します。

○地域社会と学生・教職員が相互に啓発しあう関係を構築するとともに、地域との協働による課題解決を通して、地域社会の価値の創造と持続的な発展に貢献します。

○地域イノベーションをリードする人材の育成や産官学金連携による共同研究、ベンチャー企業の活動支援等を通して、地域の新産業・雇用の創出に貢献します。

国際連携の目標

○諸外国と学生・教職員の幅広い交流や留学生の積極的な受入れを通して、グローバルに活躍できる人材を育成し、大学の国際化を推進します。

○地域社会に根ざした国際連携を推進し、地域と手を携えながら、地域社会とアジア、そして世界とをつなぐ、人や文化・産業の橋渡しの役目を果たします。

大学運営の目標

○「自由啓発・未来創成」の理念のもと、教育、研究、社会連携・産学連携、国際連携の目標を達成するため、経営基盤の効率化と適正化を図り、学問研究の自由を尊重した透明性の高い大学運営を行います。また、国立大学としての社会的役割を果たすため、学生・教職員が持てる力を充分に発揮できる環境の維持に努めるとともに学内外からの意見や批判を積極的に受け止め、社会に開かれた大学を目指します。

（2）静岡大学 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

静岡大学は、教職員、学生の主体性の尊重と相互啓発の上に立ち、平和で幸福な未来社会の建設への貢献をめざす「自由啓発・未来創成」の基本理念を掲げ、教育・研究に携わっている。このようなビジョンのもとで、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成することが本学の教育目標であり、下記に示すそれぞれの資質・能力を身につけていることを学位授与の条件とする。

1　専門分野についての基本的な知識を習得し、これを社会の具体的文脈のなかで活用することができる。
2　外国語を含む言語運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけている。
3　多様性を認め、幅広い視点から物事を考え、行動することのできる国際感覚と深い教養を身につけている。
4　主体的に問題を発見し、自らのリーダーシップと責任のもとで、様々な立場の人々と協同して、その解決にあたることができる。

＜各学部の「学位授与の方針」については省略＞

（3）静岡大学 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

静岡大学は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、下記の方針に従って教育課程を編成し実施する。

1　全学教育科目においては、基礎的な学習方法、外国語の運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけるために「教養基礎科目」を、国際感覚と教養を身につけるために「教養展開科目」を、理系の基礎的知識習得や教職等の資格取得のために「理系基礎科目」及び「教職等資格科目」をおく。
2　専門科目においては、各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、それぞれの専門分野についての主体的な学びを促し、基本的知識・方法を身につけるための系統的な授業配置を行う。
3　自ら問題を発見し、その解決のために他者と協同して行動できるようにするため、学生参加型授業、フィールドワーク、実験・実習等の授業を配置すると共に、地域社会との交流や国際交流の機会を積極的に提供する。
4　すべての授業について充分な学習時間を確保すると共に、客観的な評価基準に基づく成績評価を行う。

＜各学部の「教育課程編成・実施の方針」については省略＞

2 学期と授業時間

(1) 学年、学期

学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日で終わる 1 年間をいいます。この 1 年間は前学期(前期)と後学期（後期）の二つの学期に分けられています。

・前 学 期： 4 月 1 日～9 月 30 日
・後 学 期：10 月 1 日～3 月 31 日
・通　　年：前学期と後学期にわたる授業について用います。

・半期授業：前学期または後学期の半年間で完了する授業科目です。
　　この授業の成績は、その学期の終わりに評価・判定されます。
・通年授業：通年にわたる授業です。
　　この授業の成績は後学期の終わりに評価・判定されます。

(2) 授業時間

1・ 2 時限	8 時 40 分～10 時 10 分
3・ 4 時限	10 時 20 分～11 時 50 分
5・ 6 時限	12 時 45 分～14 時 15 分
7・ 8 時限	14 時 25 分～15 時 55 分
9・10 時限	16 時 05 分～17 時 35 分
11・12 時限	17 時 50 分～19 時 20 分（夜間主）
13・14 時限	19 時 30 分～21 時 00 分（夜間主）

※ 1・2 時限の 90 分の授業を「１コマ」（ヒトコマ）といいます。

3 事務担当窓口

全学教育科目の授業に関する事務手続きは下記窓口で行います。また、履修に関する教務的な連絡は、静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは浜松教務課共通教育係掲示板の他、内容によっては学務情報システムからのメール連絡で行います。掲示及びメール通知に常に注意して、見落としのないようにしてください。(掲示板の場所は p. 82 から p. 84 参照)

［静岡キャンパス］　教務課教務係　　（共通教育Ａ棟２階）
［浜松キャンパス］　浜松教務課共通教育係　（Ｓ−Ｐｏｒｔ１階）
※ 窓口受付時間　8 時 30 分～12 時 30 分、13 時 30 分～17 時 15 分

4 全学教育科目と学部専門科目

本学における 4 年間のカリキュラムには、全学部の学生を対象に開設されている「全学教育科目」と各学部・学科（課程）の「学部専門科目」があります。これらの授業は、1 年次から 4 年次まで、学期ごとに履修するように配分されています。

この冊子では、「全学教育科目」の履修について説明しますので、各学部・学科（課程）の「学部専門科目」の履修については、各学部の「学生便覧」と「時間割」等を参照してください。

5 全学教育科目の科目区分

「全学教育科目」は、静岡大学全体に共通する教育理念・目標に基づいて教養教育と専門教育の有機的連関をもった四年一貫教育をねらいとして設定されています。大別すると、教養科目と専門科目に区分されます。

教養科目には、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための教養基礎科目、各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養を習得するための教養展開科目、留学生のための留学生科目、および教員免許等の資格取得に必要な教職等資格科目が設定されています。専門科目には、専門科目の内で全学に共通する教職等資格科目、および理系学部に共通する理系基礎科目が設定されています。

必修科目と選択科目等の種別があり、学部・学科（課程）ごとに履修の方法・ルールは異なりますので、本冊子の「全学教育科目の学部別授業科目一覧」(p. 6 から p. 20)、「各学部の教養科目必要単位数」(p. 21 から p. 28) および各学部の「学生便覧」等をみて、間違いのないように履修計画をたててください。(※ＡＢＰ留学生は p. 85 から p. 102 を参照してください。)

全学教育科目の区分

大区分	科目区分	小科目区分
教養科目	教養基礎科目	新入生セミナー
		数理・データサイエンス
		英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
	教養展開科目	教養領域Ａ（人文・社会科学）
		教養領域Ｂ（自然科学）
		学際領域Ａ（地域志向科目）
		学際領域Ｂ
	留学生科目	日本語
		日本事情
		ＡＢＰ基礎日本語
		ＡＢＰ基礎科目
		ＡＢＰインターンシップ
	教職等資格科目	教職教養科目
	日本語・日本文化研修科目	日本語研修科目
		日本文化研修科目
専門科目	教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ
		教職専門科目Ⅱ
		学芸員科目
	理系基礎科目	

＊日本語・日本文化研修科目は、非正規留学生（交換留学生・日研生）対象科目です。

6 全学教育科目の学部別授業科目一覧

○「必修・選択の別」の用語説明

「必　　修」：卒業するために必ず修得しなければならない科目

「選択必修」：複数の授業科目のなかから定められている単位数を必ず修得しなければならない科目

「選　　択」：必ず修得しなければならない科目ではないが、卒業に必要な単位に含まれる科目

(1)人文社会科学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	英語（夜間主コース）	英語演習	1	必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションA	1	必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションB	1	選択	演習	2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	初修外国語入門Ⅰ及びⅡと併せて同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	必修	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	2	
	初修外国語（夜間主コース）	初修外国語a	1	必修	演習	1	3科目とも同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語b	1	必修	演習	1	
		初修外国語c	2	必修	演習	2	

	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	2単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		*健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
	健康体育（夜間主コース）	*健康体育実技	1	選択	実技	1～4	
		*健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	夜間主コースに「キャリアデザイン」は開設しない。
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択	講義	1～3	夜間主コースに教養領域A（人文・社会科学）の科目は開設しない。
		歴史と文化	2	選択	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択	講義	1～3	
		法と社会	2	選択	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択	講義	1～3	
		心理学	2	選択	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択	講義	1～3	
		芸術論	2	選択	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	教養領域B（自然科学）の科目から2科目4単位必修
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際領域A（地域志向科目）	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A（地域志向科目）とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	学際領域A（地域志向科目）の科目から2単位必修
	学際領域B			選択	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会（情報・福祉を含む）」 「生命・人間（文化・芸術を含む）」 「科学・技術」
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*（中等）教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*（中等）発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*（中等）教育と社会	2	選択	講義	3～4	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。（健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位（*印、合計2単位）履修すること。）
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
4. 夜間主コース学生の「昼間コース開講科目」履修については、別に定める。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	(中等)教職入門	2		演習	1	
		特別の支援を必要とする子どもの理解	1		講義	2～3	
		教育課程論	1		講義	3	
		教育方法論	1		講義	3	
		教育とICT活用	1		講義	3	
		道徳指導論	2		講義	2～3	
		総合的な学習の指導法・特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導・進路指導	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	(中等)国語科教育法Ⅰ	2		講義	2	
		(中等)国語科教育法Ⅱ	2		講義	2	
		(中等)国語科教育法Ⅲ	2		講義	2	
		(中等)国語科教育法Ⅳ	2		講義	2	
		(中等)社会科教育法Ⅰ(公民)	2		講義	2	
		(中等)社会科教育法Ⅱ(地歴)	2		講義	2	
		(中等)社会科教育法Ⅲ(地歴)	2		講義	2	
		(中等)社会科教育法Ⅳ(公民)	2		講義	2	
		(中等)英語科教育法Ⅰ	2		講義	2	
		(中等)英語科教育法Ⅱ	2		講義	2	
		(中等)英語科教育法Ⅲ	2		講義	2	
		(中等)英語科教育法Ⅳ	2		講義	2	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習Ⅱ	2		実習	4	
		教育実習Ⅲ	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	
	学芸員科目	生涯学習概論	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	2	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	2～3	
		博物館教育論	2		講義	2～3	

(2)教育学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	初修外国語入門Ⅰと併せて同一言語を履修すること。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択必修	実技	1～4	選択必修科目は、1単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択必修	実技	1～4	
		*健康体育演習	1	必修	演習	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	2科目4単位必修 日本国憲法を含めて2科目4単位を履修すること。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	

	教養領域B (自然科学)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際領域A (地域志向科目)	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A(地域志向科目)とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	学際領域A(地域志向科目)の科目から2単位必修
	学際領域B			選択	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	必修	講義	1	
		*発達と学習	2	必修	講義	1	
		*教育と社会	2	必修	講義	2～4	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得のため、必ず履修しなければならない科目である。(健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位(*印、合計2単位)履修すること。)
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教職等資格科目	学芸員科目	生涯学習概論Ⅰ	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	3	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	2～3	
		博物館教育論	2		講義	2～3	

注意　学芸員資格を取得できる課程(専攻・専修)
　　学校教育教員養成課程(教育実践学専修)

(3)情報学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～3	左記3科目のうち、2単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～3	
		*健康体育演習	1	選択	演習	1～3	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～3	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	思想と芸術A	2	選択必修	講義	1～3	2領域からそれぞれ1科目合わせて2科目4単位必修
		思想と芸術B	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史A	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史B	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動A	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動B	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済A	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済B	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会A	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会B	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	

		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
		先端の技術	2	選択必修	講義	1～3	
		数学の応用	2	選択必修	講義	1～3	
	学際領域A （地域志向科目）	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A（地域志向科目）とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	学際領域A（地域志向科目）の科目から2単位必修
	学際領域B			選択	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会（情報・福祉を含む）」 「生命・人間（文化・芸術を含む）」 「科学・技術」
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*（中等）教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*（中等）発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*（中等）教育と社会	2	選択	講義	3～4	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。（健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位（*印、合計2単位）履修すること。）
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 学部横断セミナーとして開講する工学部のフィールドワーク科目「ものづくり・理科教育支援」の単位修得をした場合は、学際領域Aとして認定する。
4. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		線形代数学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	科学は情報科学科 行動は行動情報学科
		線形代数学Ⅱ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅱ	2	科学選必、行動選必	講義	1	
		グラフ理論	1	科学必修、行動選必	講義	1	
		符号理論	2	科学選必	講義	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	（中等）教職入門	2		演習	1	
		特別の支援を必要とする子どもの理解	1		講義	2～3	
		教育課程論	1		講義	3	
		教育方法論	1		講義	3	
		教育とICT活用	1		講義	3	
		総合的な学習の指導法・特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導・進路指導	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	（中等）情報科教育法Ⅰ	2		講義	3	
		（中等）情報科教育法Ⅱ	2		講義	3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習	2		実習	4	
		教職実践演習（中・高）	2		演習	4	
	学芸員科目	博物館概論	2		講義	1	
		生涯学習概論	2		講義	2	
		博物館経営論	2		講義	1～2	
		博物館資料論	2		講義	1～2	
		博物館資料保存論	2		講義	1～2	
		博物館展示論	2		講義	1～2	
		博物館教育論	2		講義	1～2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	1～2	

(4)理学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	2単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		*健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	教養領域A（人文・社会科学）の科目から2科目4単位必修
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	科学と技術	2	選択	講義	1～3	
	学際領域A（地域志向科目）	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A（地域志向科目）とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	学際領域A（地域志向科目）の科目から2単位必修
	学際領域B			選択	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会（情報・福祉を含む）」 「生命・人間（文化・芸術を含む）」 「科学・技術」

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*(中等)教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*(中等)発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*(中等)教育と社会	2	選択	講義	3～4	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位(*印、合計2単位)履修すること。)
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		数学Ⅰ(微分積分A)	2	PCBG必修	講義	1	Mは数学科 Pは物理学科 Cは化学科 Bは生物科学科 Gは地球科学科
		数学Ⅱ(線形代数A)	2	PCBG必修	講義	1	
		数学Ⅲ(微分積分B)	2	PC必修、BG選択	講義	1	
		数学Ⅳ(線形代数B)	2	PC必修、BG選択	講義	1	
		数学Ⅴ(統計)	2	PCBG選択	講義	2	
		数学Ⅵ(微分積分C)	2	PCBG選択	講義	2	
		物理学Ⅰ(力学)	2	MC選択、BG必修	講義	1	
		物理学Ⅱ(電磁気)	2	MCBG選択	講義	1	
		物理学Ⅲ(現代物理)	2	MCBG選択	講義	2	
		化学Ⅰ(物理化学A)	2	MP選択、BG必修	講義	1	
		化学Ⅱ(物理化学B)	2	MPBG選択	講義	1	
		化学Ⅲ(有機化学)	2	MPBG選択	講義	2	
		生物学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、G必修	講義	1	
		生物学Ⅱ(基礎B)	2	MPCG選択	講義	1	
		地球科学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、B必修	講義	1	
		地球科学Ⅱ(基礎B)	2	MPCB選択	講義	1	
		物理学実験	1	P必修、CBG選択	実験	2	
		化学実験	1	CB必修、PG選択	実験	1	
		生物学実験	1	B必修、PCG選択	実験	1～2	
		地学実験	1	G必修、PCB選択	実験	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	(中等)教職入門	2		演習	1	
		特別の支援を必要とする子どもの理解	1		講義	2～3	
		教育課程論	1		講義	3	
		教育方法論	1		講義	3	
		教育とICT活用	1		講義	3	
		道徳指導論	2		講義	2～3	
		総合的な学習の指導法・特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導・進路指導	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	(中等)数学科教育法Ⅰ	2		講義	2～3	
		(中等)数学科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		(中等)数学科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		(中等)数学科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		(中等)理科教育法Ⅰ	2		講義	2～3	
		(中等)理科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		(中等)理科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		(中等)理科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習Ⅱ	2		実習	4	
		教育実習Ⅲ	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	
	学芸員科目	生涯学習概論	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	2	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	2～3	
		博物館教育論	2		講義	2～3	
		博物館実習Ⅰ	1		実習	2～4	
		博物館実習Ⅱ	2		実習	2～4	

(5)工学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	必修	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	2	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	3～4	2単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	3～4	
		*健康体育演習	1	選択	演習	3～4	
	フィールドワーク	工学基礎実習	1	必修	実習	1	
		創造教育実習	1	必修	実習	1	
		ものづくり・理科教育支援	2	選択	演習	2～3	学部横断セミナーとして開講する。
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	2	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	思想と芸術A	2	選択必修	講義	1～3	教養領域A（人文・社会科学）の科目から2科目4単位必修
		思想と芸術B	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史A	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史B	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動A	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動B	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済A	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済B	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会A	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会B	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		世界のことばと文化	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数理の構造	2	選択	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択	講義	1～3	

		生命科学	2	選択	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択	講義	1～3	
		先端の技術	2	選択	講義	1～3	
		数学の応用	2	選択	講義	1～3	
	学際領域A (地域志向科目)	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A(地域志向科目)とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」
	学際領域B			選択	講義、演習又は実習	1～3	
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～3	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*(中等)教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*(中等)発達と学習	2	選択	講義	2～4	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位(*印、合計2単位)履修すること。)
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		微分積分学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	Mは機械工学科 Eは電気電子工学科 Dは電子物質科学科 Cは化学バイオ工学科 Sは数理システム工学科
		微分積分学Ⅱおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅰおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		電磁気学	2	MC(環境)必修 S選択	講義	2	
		現代物理	2	MED必修	講義	2	
		熱統計力学	2	EC(環境)必修 S選択	講義	2	
		工学基礎化学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		工学基礎化学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		基礎無機化学	2	D必修	講義	1	
		生物学Ⅰ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		生物学Ⅱ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		物理・化学実験	1	MEDC(環境) S必修	実験	2	
		化学・生物実験	1	C(バイオ)必修	実験	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	(中等)教職入門	2		演習	1	
		(中等)教育と社会	2		講義	3～4	
		特別の支援を必要とする子どもの理解	1		講義	2～3	
		教育課程論	1		講義	3	
		教育方法論	1		講義	3	
		教育とICT活用	1		講義	3	
		総合的な学習の指導法・特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導・進路指導	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	(中等)数学科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		(中等)数学科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	

(6)農学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	左記3科目のうち、2単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		*健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	教養領域A（人文・社会科学）の科目から2科目4単位必修
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数理の構造	2	選択	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択	講義	1～3	
		地球科学	2	選択	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択	講義	1～3	

	学際領域A （地域志向科目）	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A（地域志向科目）とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	学際領域A（地域志向科目）の科目から2単位必修
	学際領域B			選択	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会（情報・福祉を含む）」 「生命・人間（文化・芸術を含む）」 「科学・技術」
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*（中等）教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*（中等）発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*（中等）教育と社会	2	選択	講義	3～4	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。（健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位（*印、合計2単位）履修すること。）
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		数学概論A	2	Br必修	講義	1	Brは生物資源科学科、Alは応用生命科学科
		数学概論B	2	Br必修	講義	1	
		数学概論	2	Al必修	講義	1	
		統計学	2	Al必修	講義	1	
		物理学概論A	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論B	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論	1	Al必修	講義	1	
		化学概論A	2	Br必修	講義	1	
		化学概論B	2	Br必修	講義	1	
		化学概論	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学2A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1B	2	Al必修	講義	1	
		物理化学2B	2	Al必修	講義	1	
		生物学概論A	2	Br必修	講義	1	
		生物学概論B	2	Br必修	講義	1	
		生物学A	2	Al必修	講義	1	
		生物学B	2	Al必修	講義	1	
		物理学実験	1	Br必修	実験	1	
		化学実験	1	BrAl必修	実験	1	
		生物学実験	1	BrAl必修	実験	1	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	（中等）教職入門	2		演習	1	
		特別の支援を必要とする子どもの理解	1		講義	2～3	
		教育課程論	1		講義	3	
		教育方法論	1		講義	3	
		教育とICT活用	1		講義	3	
		総合的な学習の指導法・特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導・進路指導	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	（中等）理科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		（中等）理科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		農業科教育法Ⅰ	2		講義	2～3	
		農業科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習Ⅱ	2		実習	4	
		教職実践演習（中・高）	2		演習	4	

(7)グローバル共創科学部

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語C	2	選択	演習	2	
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語C	2	選択	演習	2	
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義） ※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	健康体育	健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	左記3科目のうち、2単位までを卒業単位として認める。
		健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	2科目4単位必修
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
		世界のことばと文化	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	選択	演習	1～3	

注意
1. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

7 各学部の教養科目必要単位数

(1)人文社会科学部

科目区分＼学科区分				社会学科	言語文化学科	法学科	経済学科	備考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	
			英語	3	3	3	3	
			初修外国語	2	2	2	2	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域B	4	4	4	4	
			学際領域A	2	2	2	2	
		小計		17	17	17	17	
	選択	教養基礎科目	英語	11	11	11	11	
			初修外国語					
			健康体育					
		教養展開科目	教養領域A・B					
			学際領域A・B					
		教職等資格科目	教職教養科目					
	合計			28	28	28	28	
専門科目	合計			76	76	70	78	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			20	20	26	18	
合計(卒業単位数)				124	124	124	124	

人文社会科学部夜間主コース

科目区分＼学科区分				法学科	経済学科	備考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	
			英語	2	2	
			初修外国語	4	4	
		教養展開科目	教養領域B	4	4	
			学際領域A	2	2	
		小計		17	17	
	選択	教養基礎科目	英語	7	7	
			初修外国語			
			健康体育			
		教養展開科目	教養領域A・B			
			学際領域A・B			
		教職等資格科目	教職教養科目			
	合計			24	24	
専門科目	合計			66	66	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	法学科・経済学科で開講する専門科目			34	34	専門科目の詳細は学部規則を参照
合計(卒業単位数)				124	124	

(2)教育学部

科目区分			学科区分	学校教育教員養成課程	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	
			数理・データサイエンス	3	
			英語	3	
			健康体育	2	
			キャリア形成科目	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	4単位のうち、日本国憲法2単位必修
			学際領域A	2	
		教職等資格科目	教職教養科目	6	
		小　計		23	
	選択	教養基礎科目	英語	2	2単位を超えて履修することを推奨する。
			初修外国語		
			健康体育		
		教養展開科目	教養領域A・B		
			学際領域A・B		
	合　　計			25	
専門科目	合　　計			90	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	教育学部の専門科目、及び教養科目で各々の必要単位数を超えた単位数			9	
合　計(卒業単位数)				124	

(3)情報学部

科目区分			学科区分	情報科学科	行動情報学科	情報社会学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	3	
			英語	3	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A	2	2	2	
			教養領域B	2	2	2	
			学際領域A	2	2	2	
		小　計		15	15	15	
	選択	教養基礎科目	英語	13	13	13	
			初修外国語				
			健康体育				
		教養展開科目	教養領域A・B				
			学際領域A・B				
		教職等資格科目	教職教養科目				
	合　　計			28	28	28	
専門科目	合　　計			86	86	86	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			10	10	10	
合　計(卒業単位数)				124	124	124	

(4)理学部

科目区分			学科区分	数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	3	
			英語	3	3	3	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A	4	4	4	4	4	
			学際領域A	2	2	2	2	2	
		小　計		14	14	14	14	14	
	選択	教養基礎科目	英語	14	14	14	14	14	
			初修外国語						
			健康体育						
		教養展開科目	教養領域A・B						
			学際領域A・B						
		教職等資格科目	教職教養科目						
	合　計			28	28	28	28	28	
専門科目	合　計			80	80	82	83	86	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			16	16	14	13	10	
合　計(卒業単位数)				124	124	124	124	124	

理学部(創造理学(グローバル人材育成)コース)

科目区分 ＼ 学科区分				数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	3	
			英語	3	3	3	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A	4	4	4	4	4	
			学際領域A	2	2	2	2	2	
		小　計		14	14	14	14	14	
	選択	教養基礎科目	英語	14	14	14	14	14	
			初修外国語						
			健康体育						
		教養展開科目	教養領域A・B						
			学際領域A・B						
		教職等資格科目	教職教養科目						
	合　計			28	28	28	28	28	
専門科目	合　計			90	90	90	93	92	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、創造理学コース科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			6	6	6	3	4	
合　計(卒業単位数)				124	124	124	124	124	

(5)工学部

科目区分＼学科区分				機械工学科	電気電子工学科	電子物質科学科	化学バイオ工学科	数理システム工学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	3	
			英語	5	5	5	5	5	
			フィールドワーク	2	2	2	2	2	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A	4	4	4	4	4	
		小　計		16	16	16	16	16	
	選択	教養基礎科目	英語	10	10	10	10	10	英語2科目を含むことを強く勧める。
			初修外国語						
			健康体育						
			フィールドワーク						
		教養展開科目	教養領域A・B						
			学際領域A・B						
		教職等資格科目	教職教養科目						
	合　　計			26	26	26	26	26	
専門科目	合　　計			98	98	98	100	96	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	教養科目,学部専門科目で必要単位数を超えた単位数			2	2	2	0	4	
合　計(卒業単位数)				126	126	126	126	126	

(6)農学部

科目区分＼学科区分				生物資源科学科	応用生命科学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	
			英語	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	
		教養展開科目	教養領域A	4	4	
			学際領域A	2	2	
		小　計		15	15	
	選択	教養基礎科目	英語	13	13	
			初修外国語			
			健康体育			
		教養展開科目	教養領域A・B			
			学際領域A・B			
		教職等資格科目	教職教養科目			
	合　　計			28	28	
専門科目	合　　計			81	84	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			15	12	
合　計(卒業単位数)				124	124	

(7)グローバル共創科学部

科目区分＼学科区分				グローバル共創科学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	
			数理・データサイエンス	3	
			英語	3	
			キャリア形成科目	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	
		小　計		13	
	選択	教養基礎科目	英語	7	
			健康体育		
		教養展開科目	教養領域A・B		
	合　計			20	
専門科目	合　　計			96	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由選択科目	専門科目及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			8	
合　計(卒業単位数)				124	

8 履修登録から成績確認までの流れ

（1）履修計画の立て方

(a) 全学教育科目の履修科目の選択方法

1) 「授業時間割枠」(p.34〜p.35) で、開講されている全学教育科目の科目区分と時間を確認します。

2) 別冊子の『2023（令和 5 年度）全学教育科目 授業時間割』を使い、それぞれの時間にどのような科目を履修できるか確認します。対象となっている学部、学年、学期、及びクラス指定などにも注意してください。

3) シラバス検索の WEB サイト（https://syllabus.shizuoka.ac.jp/）を参照して、第一回授業の前までに自分が取りたい授業の内容や、準備が必要なものを確認してください。

4) 履修する科目が決まったら、指定期間中に学務情報システムから履修登録を行います。正しく履修登録を行わないと、成績評価を受けることができません。

(b) 授業履修における基本的な注意事項

1) 授業科目名が同じものを 2 科目以上修得しても、卒業必要単位としては 1 科目しか認められません。また、合格済の科目は再度履修することができず、当初の評価を上げることはできません。

2) 同一年度・学期に同一の授業科目を 2 クラス以上履修登録することはできません。

3) 上位学年の時間割枠に開講されている科目は、履修できません。

4) 選択単位は開講されているすべての科目を履修できるとは限りません。

（2）履修登録の手続き

(a) 履修クラスの指定及び抽選等

科目によっては履修クラスが指定されている場合や、抽選が行われる場合があります。大きく以下のような決定方法がありますが、具体的な対象科目や条件は、別冊子の『2023（令和 5 年度）全学教育科目 授業時間割』を確認してください。

1) 授業開始前にクラス指定されるもの

学籍番号や学科等によりクラス指定される科目があります。自分のクラスは掲示板 (p.82〜p.84) や学務情報システムの授業時間割画面などで確認することができます。

2) 授業開始前に抽選で決定されるもの

学務情報システムの WEB 抽選機能、入学前に提出する調査票等により抽選される科目があります。

3) 特に指定がないもの

クラス指定が特にない科目は、対象となる学部、学年等の学生であれば、基本的に自由に履修することができます。なお、シラバスの受講要件欄に条件が指定されている場合もありますので、必ず確認をしてください

4) その他

初回授業時に教室抽選を行う科目、クラス分けテストで決定する科目等があります。

(b) 学務情報システムへの履修登録

1) クラス指定を確認した上、指定された期日までに学務情報システムに履修登録をしてください。事前に一括登録されている科目もありますが、間違いがないか念のため確認してください。

2) 所属学部の「教養科目」の表に掲載されていない他学部の教養科目については、卒業

単位に含めることはできません。

3) 履修登録期間は、抽選科目登録期間、一般科目登録期間の順で設定されています。１年次の後学期からは、「英語」、「教養領域科目」、「学際領域科目」等が WEB 抽選の対象科目となりますので、詳しくは７月頃に掲示される抽選履修登録の案内を確認してください。

4) 履修登録に誤りがあると成績評価が得られないことになります。特に同一名称の科目に複数のクラスが開講されている場合は、自分が出席しているクラス名や担当教員名と履修登録の内容に相違がないか、必ず確認をしてください。

(c) 履修上限単位数（ＣＡＰ制）

各学期に履修できる科目の単位数には上限が存在します。以下のようなルールにより設定されていますので、履修計画を立てる際にはご注意ください。

1) 単位数の合計は各学期 24 単位までとなります。（教育学部は 26 単位まで履修可能。）

2) 直前学期の GPA（後述）の値が 2.0 以上の場合は上記のプラス 2 単位まで、2.5 以上の場合はプラス 4 単位まで履修することができます。

3) 通年科目は各学期 2 分の 1 の単位数で計算されます。

4) 集中講義は上限単位の計算から除外されます。

5) 各学部で指定する教職等資格科目、又は例外扱いとなる特別な科目については、上限単位の計算から除外されます。

(d) オンライン授業科目の単位数

卒業までに履修することができるオンライン授業科目の単位数に上限を定めています。対面授業科目とオンライン授業科目の別は、同一科目であっても開講年度により異なる場合があります。開講年度ごとの「オンライン授業科目一覧」は別途お知らせがありますので、余裕をもった履修計画を立て、上限単位数を超えることなく授業科目を履修してください。

（３）授業の出席

(a) 授業における出欠席の取り扱い

授業は出席することが原則ですが、病気・怪我、忌引きのほか、正規の授業として行われる実習や留学等で欠席する場合や、学生担当副学長が特に認めた課外活動での欠席は、決められた手続きをとれば欠席扱いとしません。ただし、追加課題や補講への出席を免除するものではありません。手続きについては所属学部の学務（教務）係に問い合わせてください。

一方、就職活動等での欠席の対応は、授業担当教員の判断に委ねられています。授業シラバス等で明示されている許容欠席回数を確認し、必要なら担当教員にも相談して卒業要件に注意して判断してください。

(b) 休講について

担当教員が病気や出張等の理由で授業が休講となる場合がありますが、基本的に休講の連絡は学務情報システムに登録してあるアドレス宛にメールで届きます。

なお、事前の連絡がなく、授業開始時間を 30 分以上過ぎても担当教員が教室に現れないときは、その旨を静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは浜松教務課共通教育係までお知らせください。休講とするかどうか判断します。

（４）試験

(a) 定期試験

前学期・後学期の終わりには「定期試験」の期間が設けられます。

注 1)　「定期試験」の時間割は、通常授業の時間帯に行われるとは限りません。
（試験期間の時間割は、１週間前までに掲示されます。）
注 2)　出席状況が悪い場合には、受験資格を失う場合もあります。

(b) 追試験

次の理由のいずれかに該当して受験ができなかった場合には、試験日から 1 週間以内に「追試験」を静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは浜松教務課共通教育係に願い出ることができます。ただし、原則として事前に前述の係に連絡すること。

理由 1)　病気または怪我
（試験当日の容態についての診断書等が必要）
理由 2)　忌引　1 親等・2 親等の親族の死亡日から 1 週間以内の場合
（会葬の礼状等、事由を証明できる資料が必要）
理由 3)　その他、緊急な事由として大学教育センターが認めたもの
（事由を証明できるものが必要）

(c) 再試験

「定期試験」または「追試験」を受験したが不合格（「不可」）になった場合、担当教員の判断により「再試験」を行う場合があります。再試験の許可者および日程等は掲示で通知します。ただし、再試験に合格した場合の成績はすべて「可」となります。

(d) 試験における注意事項

試験の際は、学生証を机の上に提示し、携帯電話等（スマートウォッチ等のウェアラブル端末を含む）は電源を切りカバンへ入れてください。

(e) 不正行為の防止

定期試験等（小テスト、レポート等を含む。）において不正行為の事実が認められた場合は、訓告などの懲戒処分が課されるとともに、不正行為を行った科目が「不可」になるだけではなく、当該学期の履修科目のうち「不可」以外の科目の履修が全て取り消されるという厳しい措置が取られます。

以下のような行為は不正行為と判断されます。なお、5) と 6) に関しては、答案を見る等した学生のみならず、答案を見せる等した学生も懲戒処分を受ける可能性があります。

1)　他人の答案を覗き見たり書き写す行為
2)　試験に関連した内容の紙片を使用する行為
3)　持込の許可のない教科書・参考書等の書籍やノートなどを利用する行為
4)　論文やレポート等において、関連する著書・論文、インターネット上の情報を、引用であると明示することなく使用したり、他人が書いたレポート・著作物を自分のものとして提出する行為
5)　他の学生の試験、課題提出を助ける目的で、自分の答案やレポートを見せたりする行為
6)　レポート提出や授業の課題提出を代行したりする行為

（５）成績評価

(a) 成績通知表の確認

学務情報システムの成績情報参照画面から出力できます。

1)　成績の評価は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認められます。（秀：100～90 点、優：90 点未満～80 点、良：80 点

未満～70 点、可：70 点未満～60 点、不可：60 点未満）

2) 「不可」となった科目については不合格とします。これは、「成績通知表」によって学生に通知しますが、「成績証明書」には記載されません。

3) 不合格の場合は、同一授業科目（あるいは同じ科目区分の別科目）を再度履修（「再履修」）できます。

＊「再履修」とは、一度履修したものの「不可」となった科目（あるいは同じ科目区分の別科目）を次の年次（又は学期）で履修することを言います。

(b) 評価方式による成績報告時の標準得点について

教員が学務情報システムから成績登録をする際には、得点方式（0～100 点）と評価方式（秀・優・良・可・不可等）のいずれかを選択します。評価方式を使って報告された成績は、下記のようにそれぞれの評価に対応する標準得点へ換算された上で、GPA が計算されます。

評価	秀	優	良	可	不可
標準得点	95	85	75	65	30

(c) ＧＰＡについて

ＧＰＡ（Grade Point Average）は、各科目のＧＰ（Grade Point）を単位数に応じて加重平均した値で、在学中の成績評価の平均値を表します。静岡大学のＧＰＡは以下の計算式で算出されます。

ＧＰ＝（成績評点（数字）－５５）÷１０

※（但し、ＧＰの値が、0.5未満の場合は0.0とする。）

ＧＰＡ ＝ Σ（ＧＰ × 当該科目の単位数） ÷ 履修総単位数

成績証明書には、各科目のＧＰは小数第２位まで、ＧＰＡは小数第３位まで表示されます。表示上は端数が切り捨てられる形になりますが、ＧＰの小数第３位以下も含めた上でＧＰＡは算出されます。また、ＣＡＰ制の基準単位計算などの際は、特段の明記がない限り端数が四捨五入されることはありません。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はＧＰ算定の対象としません。また、各学部のカリキュラムで卒業要件科目でない科目もＧＰ算定の対象としません。

(d) 成績評価に関する疑義に対する手続き

1) 全学教育科目の成績評価に関して疑義がある場合は、静岡キャンパスは共通教育Ａ棟２階の教務課教務係、浜松キャンパスはＳ-Ｐｏｒｔ１階の浜松教務課共通教育係に申し出て、「成績評価に関する質問書」を提出してください。

※成績の記入ミスなど、明らかに授業担当教員の誤りと思われるものについては、学生から授業担当教員に直接問い合わせることも可能です。

2) 上記質問書の受付期限は、次学期の履修登録期間終了日まで（卒業判定等に係る前学期の成績評価については８月末日まで、後学期の成績評価については２月末日まで）です。

3) 対象科目の成績が進級等に影響する場合には、所属学部の学務（教務）係に手続きを行っている旨を速やかに申し出てください。

4) 質問書への回答は、提出後２週間以内に学生へ通知されます。この回答によっても成績評価に疑義がある学生は、「成績評価に関する申立書」を 1)の窓口に提出してください。

（６）単位認定

(a) 学外での授業の履修

静岡大学以外の教育施設で学修した科目等が単位認定されるものとして、留学、語学研修、共同授業、単位互換授業、放送大学があります。

全学教育科目における単位認定の詳細は、「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」（p. 68）を参照してください。

9 授業時間割枠

各学部の全学教育科目時間割枠は次の表のとおりとなっています。学部毎の枠内で授業を受けることとなっていますので、他学部の枠と間違えることのないよう注意してください。

令和5年度 全学教育科目授業時間割枠

○＝前期、△＝後期
情報処理・DS演習＝「情報処理・データサイエンス演習」

人文社会科学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○情報処理・DS演習（経）	○△初修外国語 △日本事情		○セミナー（経）
火		○△英語	○△健康体育（社言法）	○セミナー（言法） ○△健康体育（経）	
水	△学際領域A		○△初修外国語	○セミナー（社法） ○情報処理・DS演習（言経）	
木			○△日本語△学芸員科目 ○教職科目 △英語（再履修）		
金	○情報処理・DS演習（法）	○情報処理・DS演習（社）	○△英語	○情報処理・DS演習（社言）	○学芸員科目

教育学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○△健康体育	○セミナー ○情報処理・DS演習	
火	○△英語		○セミナー ○情報処理・DS演習	○セミナー ○情報処理・DS演習	
水	△教養領域A（日本国憲法）	○△教職教養科目			
木			○△日本語 △学芸員科目 △英語（再履修）		
金		○△英語		○学芸員科目	

理学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○（前半）セミナー（P） ○情報処理・DS演習（MCBS） △日本事情	○△理系基礎科目	
火	○△理系基礎科目	○△英語	△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○理系基礎科目
水	○(前半)セミナー(MCBS) ○情報処理・DS演習（PG） △学際領域A	○△健康体育	○（前半）セミナー（G） △理系基礎科目	△理系基礎科目	
木	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△日本語△学芸員科目 △（前半）教職科目 △英語（再履修）	△（前半）教職科目	
金	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△英語		○学芸員科目

農学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目
火	○△英語	○セミナー	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	
水		○△理系基礎科目	○△健康体育	○理系基礎科目	
木	○情報処理・DS演習 △理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△日本語 ○教職科目 △英語(再履修)		
金	○△理系基礎科目	○△英語	○理系基礎科目	○理系基礎科目	

グローバル共創科学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語		○セミナー △日本事情		
火	○△英語	○情報処理・DS演習			
水	△教養領域A		○△健康体育		
木			○△日本語 △英語(再履修)		
金		○△英語			

情報学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△学芸員科目 ○日本語				○学芸員科目 ○△理系基礎科目(科行)
火	△情報処理・DS演習	○セミナー △学際領域A		○△英語	
水		○△英語	○△健康体育(行・社) △(後半)理系基礎科目	○△健康体育(科)	○日本事情 △日本語
木				○△日本語	△英語(再履修) △学芸員科目
金	○理系基礎科目(科行)		○△初修外国語	○セミナー △理系基礎科目(科行)	

工学部　1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○日本語 ○セミナー(E) ○情報処理・DS演習(D)	○情報処理・DS演習(M) ○△理系基礎科目	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク ○△英語	○△英語
火	○セミナー(C) ○情報処理・DS演習(C)	○セミナー(MDCS) ○情報処理・DS演習(C) △教養領域A	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△英語
水	○△英語	○△英語	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○日本事情 △日本語
木	○セミナー(E) ○情報処理・DS演習(D) ○△理系基礎科目	○情報処理・DS演習(E) ○△理系基礎科目	○セミナー(E)	○△日本語	△英語(再履修)
金		○情報処理・DS演習(MS) △理系基礎科目	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	

10 全学教育科目の科目区分の概要説明

＜教養科目＞

(1) 教養基礎科目

この科目群に設定されている科目は、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目です。この科目群の内、「新入生セミナー」、「数理・データサイエンス」、「英語」、「初修外国語」、「健康体育」は、1 年次から（ただし、工学部生は初修外国語 2 年次から、健康体育 3 年次から）履修するように開講クラスを用意します。

① 新入生セミナー

大学生活と大学における学問・研究の基本的な進め方を体得することを目的として、1 年次前期に 1 クラス 15 人を目安として開講します。大学への導入・転換を図る科目です。

なお、工学部「新入生セミナー」は他学科クラスでの履修（再履修を含む。）はできません。

② 数理・データサイエンス

高度情報化社会の一員として必要とされる数理的知識やデータの活用力を修得することを目的とします。情報機器の基本概念や基本操作についても演習を通じて学びます。

1 年次前期必修科目の「数理・データサイエンス入門」は、授業動画を視聴して WEB 小テスト等への解答を行うフルオンライン形式の科目になります。成績は「合・否」で評価され、GPA の計算対象外、履修上限単位制度（CAP 制）の適用対象外となります。

なお、受講方法や日程等の詳細は、新入生ガイダンス時に配布される案内に従ってください。

③ 英語

英語のコミュニケーション能力と専門的な学習に必要な基礎力を養うため、必修科目に加えて、英語力のレベルと学習意欲の多様性に対応した多彩な選択科目を用意しています。履修方法は、p. 39 を参照してください。

④ 初修外国語

幅広い国際性と外国語コミュニケーション能力を備えるため、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、現代韓国語のコースを開設します。1 クラスの人数は 40 名を目安として開講します。履修の方法は p. 44 を参照してください。なお、グローバル共創科学部においては、初修外国語の単位を卒業単位に含めることはできません。

⑤ 健康体育

運動と健康などとの関係をより深く理解し、健康な生活を送る方法を身につけるとともに、豊かな生活を送るためのスポーツ技術を修得するため、健康体育実技は 1 クラス 40 名を目安として、健康体育演習は 1 クラス 80 名程度のアクティブラーニング型講義を含む演習として、工学部以外の学生には 1 年次から開講します。「健康体育」は、学部によっては選択科目ですが、健康な大学生活への導入と基本スキルの獲得を目的としていますので、1 年次開講の「健康体育（実技・演習）」は特殊な事情がない限り履修することを薦めます。

履修の方法は p. 45 を参照してください。

⑥ フィールドワーク

工学部では、ものづくりの基礎を実習することを主目的として 1～3 年次に開講します。

⑦ キャリア形成科目

職業意識や人生設計への問題意識を喚起するための 1 年次必修の講義科目です。「キャリアデザイン」は、授業動画を視聴して WEB 小テスト等への解答を行うフルオンライン形式の科目になります。4 年間の学生生活をどのように過ごしていくのか、将来を見据えながら考えていく科目です。成績は「合・否」で評価され、GPA の計算対象外となります。なお、工学部は

２年次必修となっています。

(2) 教養展開科目

広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目群です。1 クラス 120 人を目安（履修希望者が多数の場合にはこの限りではない）として開講します。

① 教養領域科目

各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養の習得をめざし、自らの専門を超えた学問分野への関心を喚起するための科目で、1～3 年次（時間割により 2～3 年次）に履修します。文系学生は理系科目、理系学生は文系科目を重点的に履修する「たすきがけ・クロス履修」のシステムが設定されています。

教育学部生は、文系・理系科目をバランス良く履修することが望まれます。

なお、人文社会科学部生が人文・社会分野の「日本国憲法」を履修した場合、教養科目の選択科目として扱われます。

② 学際領域科目

広く現代が提起している諸課題への問題意識を明確にし、広い視野から柔軟な思考力にもとづいて問題を発見・分析できる能力を育てるとともに、分野横断かつ学際的・複合領域にわたる知識をもとに、総合的に問題を解決しうる資質を身につけるための科目で、1～3 年次に履修します。５つのテーマ群が設定され、各年度の初めに授業科目が発表されます。演習形式の小人数クラスも開講されます。

また、学際領域Ａ（地域志向科目）では、地域社会の課題やその解決方法を学習します。講義型の授業だけでなく地域と連携したアクティブラーニング型の科目等もあります。学際領域Ａ（地域志向科目）についても、各年度の初めに授業科目が発表されます。時間割やシラバス等で確認してください。

なお、グローバル共創科学部においては、学際領域科目の単位を卒業単位に含めることはできません。

③ ABP 科目として指定された科目

教養展開科目の中には、例えば同じ「哲学」であっても ABP 留学生向けに開設されている「ABP-EN 哲学」、「ABP-JP 哲学」といった科目が存在します。

ABP 留学生の卒業要件や特別教育プログラム等では、これらの科目名の違いが考慮されることがありますが、特に指定がない限り「ABP-EN 哲学」、「ABP-JP 哲学」のいずれも普通の「哲学」と同一科目として扱われます。

具体的には、ABP 留学生以外の学生においては、「哲学」が卒業要件科目に含まれていれば「ABP-EN 哲学」の単位は卒業要件単位として認められますが、「哲学」・「ABP-EN 哲学」・「ABP-JP 哲学」から 2 科目以上履修しても、1 科目分しか、卒業要件単位として認められません。

ABP 科目として指定された科目の中には、対象者が留学生に限定されている科目もありますので、各年度の時間割やシラバス等で確認してください。

(3) 留学生科目

① 日本語・日本事情

外国人留学生（国費外国人留学生、外国政府派遣留学生及び私費外国留学生選抜又は外国人留学生特別入試アジアブリッジプログラム（学士課程）で入学した者）のために開講される科

目です。日本語の単位は英語、初修外国語、教養展開科目のいずれかに、日本事情の単位は学際領域科目に振り替えることができます。1 クラスの人数は当該年度の留学生等の数により違います。「各学部の教養科目必要単位数」（p. 21 から p. 28 ※ＡＢＰ留学生コースは p. 97 から p. 102）と p. 45 を参照してください。

② ＡＢＰインターンシップ

ＡＢＰ留学生とＡＢＰ４月特別教育プログラムの履修生が受講できます。

(4) 教職等資格科目

① 教職教養科目

教員免許を取得するための科目で、教育学部学校教員養成課程の学生は 1・2 年次必修です。同課程以外の学生は、免許の取得を希望する人だけが履修できます。1 クラスの人数は特に定めません。

＜専門科目＞

(1) 教職等資格科目

教職等の資格を取るための科目で、全学共通の科目だけが全学教育科目として開講されます。これらの科目は、資格取得を希望する者が履修できます。1 クラスの人数は特に定めません。それぞれの資格を取得するためには、この他にも学部専門で開講される科目の履修が必要ですので、各学部の「学生便覧」と「時間割」を参照してください。

① 教職専門科目Ⅰ、教職専門科目Ⅱ

教員免許を取得するための科目で、教育学部学校教員養成課程の学生に対しては学部専門科目として 1 年次から開講されます。「教育学部学生便覧」と「教育学部時間割」を参照してください。教育学部以外の免許取得希望者は全学教育科目の専門科目として 1 年次から履修できます。

② 学芸員科目

学芸員の資格を取得するための科目で、資格取得希望者は 1 年次から履修できます。

(2) 理系基礎科目

理系専門教育のための基礎知識と理系分野における教養を習得するための科目です。この目的から情（情報科学科、行動情報学科）・理・工・農学部の学生を対象に 1〜2 年次で開講されます。詳細は各学部の「学生便覧」を参照してください。

＜自由科目＞

上記の＜教養科目＞について各学部で履修すべき最低単位数（必修及び選択の合計）が定められていますが、＜自由科目＞単位数の枠内であれば、この最低単位数を越えて履修した＜教養科目＞を卒業単位数のなかに算入することができます。例えば人文社会科学部社会学科について言えば、外国語科目を中心的に履修したい場合、これを学科で定めた 20 単位すべてにあてることも可能です。また外国語科目に限らず、この＜自由科目＞の単位数に教養展開科目等、他の＜教養科目＞をあてることもできます。（＜自由科目＞の単位数は各学部・学科によって異なります。）

なお、この＜自由科目＞の単位数に所属学部及び他学部等の専門科目をあてることも可能であり、＜教養科目＞よりも専門科目を中心に履修することを希望する場合には、そのような履修計画を立てるようにして下さい（＜自由科目＞に算入できる専門科目については、一部制限があるので、各学部の便覧を参照）。

11 全学教育科目の科目区分の履修方法詳細

(1) 英語

本学の教養英語カリキュラムは学生の自主性を重視しており、1 年前学期より多くを選択科目として開講し、必修単位数を最小限にしています。すべての学部に共通する 3 単位分 (「英語コミュニケーション」「英語演習」) の必修科目以外は、自らの学習意欲に応じて選択科目を履修することができます (工学部のみ、「アカデミックイングリッシュ」が必修です)。選択科目の多くには履修条件が設定され、受講者のレベルに制限が設けられています。各自で学習プランを立てながら、履修可能な科目群の中から科目を選択し、自身の英語力を高めるように努めましょう。(※人文社会科学部夜間主コースのみ、カリキュラム体系が異なります。p. 43(f)を確認すること。)

(a) 1 年前学期履修クラスの決定

1 年前学期には原則として全員が必修科目「英語コミュニケーション」を履修します。指定された履修クラスを以下の日程で掲示しますので、必ず確認してください (「英語コミュニケーション」と同時に、1 年前学期に開講される選択科目のクラスも掲示されます)。

◎ 1 年前学期科目 履修クラス掲示日程

日時　令和 5 年 4 月 7 日 (金) 17 時
掲示場所　静岡キャンパス：共通教育 B 棟掲示板
　　浜松キャンパス：教養教育掲示板

1 年前学期の「英語コミュニケーション」は、3 レベル (上級／中級／初級) に分けられていますが、履修するクラスとレベルは、①大学入学共通テストの結果、または②プレースメントテストの結果に基づいて決定されます。大学入学共通テストで英語を受験していない学生は、以下の要領で実施するプレースメントテストを必ず受験してください。

実施日時：令和 5 年 4 月 3 日 (月) 10:30～12:00
実施場所：静岡キャンパス：共通教育 A 棟 202 室
　　浜松キャンパス：総合研究棟 24 室

※大学入学共通テストで英語を受験した新入学生は、プレースメントテストを受験することはできません。
※やむを得ない事情により大学での受験が難しい場合は、令和 5 年 3 月 30 日 (木) 13 時までに、教務課教務係 (054-238-4259) へご連絡ください。

(b) 教養英語科目履修の流れ

教養英語カリキュラムを効果的に学習するには、1 年次の必修科目「英語コミュニケーション」履修時より、併せて *TOEIC*® L&R IP 又は公開テスト (以下、「TOEIC」と省略表記されている場合も *TOEIC*® L&R IP 又は公開テストを指します。) を定期的に受験し、自身の英語力を客観的に確認する必要があります。また、自身の英語力が適切に反映されるよう、TOEIC 対策を行うことが望まれます。

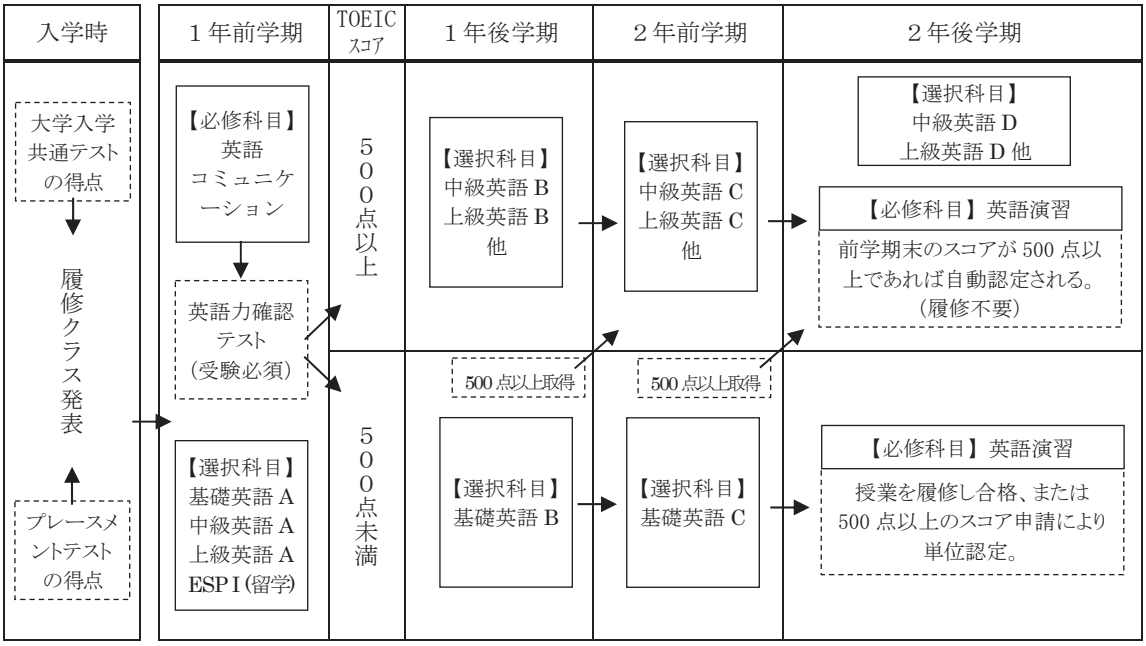
1 年後学期以降、TOEIC500 点未満の場合は、英語力の基盤を整える「基礎英語 B」や「基礎英語 C」のみが履修可能な選択科目となります。TOEIC500 点以上を取得すると、翌学期に 500 点以上を履修条件とする選択科目の履修が可能となり、科目の選択肢が増えます。

2 年後学期の抽選履修登録期間の開始前日までに TOEIC 500 点以上を取得することで、2

年後学期必修科目「英語演習」の単位が認定されます（下記(d)②[1]参照）。

「英語演習」の単位は、『「英語演習」を履修して合格すること』（下記(d)②[2]参照）あるいは『TOEIC500 点以上のスコアを申請すること』（下記(d)②[3]参照）によって修得できます。

入学時点からの履修の流れ



※上図に記載の選択科目は、必ずしも履修しなくても卒業可能です。

※TOEIC スコアによる選択科目履修の詳細は、「(e)「選択科目」の科目群（夜間主以外)」を参照。

(c) TOEIC スコアの登録方法

① 学内受験によるスコア

学内で行われる英語力確認テスト、及び静岡大学生活協同組合へ個別申込する TOEIC IP テストのスコアについては、採点結果が自動的に学務情報システムに登録されるため、学生が個別に窓口へ報告する必要はありません。学内 TOEIC では、試験日をスコア登録日とみなします[注 1]。なお、オンラインによる TOEIC IP テストは登録できません。

[注 1] 学籍番号、生年月日、性別いずれかのマークに誤りがあった場合は、学務情報システムにスコアが登録されません。該当者は各キャンパス教務窓口までスコアシートとともに速やかに申告してください。この場合、窓口へのスコアシート等提示日がスコア登録日となります。

② 学外受験によるスコア

学外で行われる TOEIC 公開テストのスコアは、各キャンパス教務窓口に公式認定証又はスコアシートを提示して報告を行ってください[注 2]。学外 TOEIC では、窓口への公式認定証等提示日をスコア登録日とします。

[注 2] 入学 1 年前の 4 月 1 日（ABP 留学生は 10 月 1 日）以降に受験したスコアのみが登録対象となります。それ以前のスコアは登録対象にはならず、「英語演習」の単位認定や、選択英語のクラス分け等に利用できません。

(d) 必修科目について（夜間主以外）

① 「英語コミュニケーション」＜1 年前学期＞

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とする必修科目です。この科目で

は、1 年前学期中に実施される「英語力確認テスト」（*TOEIC*® L&R IP テスト）の受験が義務付けられます[注 1] 。

「英語力確認テスト」が未受験の場合は、「英語コミュニケーション」の成績評価が「不可」となります[注 2]。（後学期には再履修生用クラスが用意されます。[注 3] ）

[注 1] 「英語力確認テスト」（*TOEIC*® L&R IP テスト）の受験料は、大学が負担する為、学生による支払いが免除されます。単位認定等によって単位修得済みの学生も受験することができます。当該試験の自主的な受験辞退による受験日の変更や受験料相当額の現金支給等はいたしません。

[注 2] 「英語力確認テスト」の未受験による不可の場合、以下の 2 条件を共に満たせば単位が認められます。

1) 「英語力確認テスト」翌日以降、1 年後学期の抽選履修登録期間の開始前日までに実施される *TOEIC*® L&R IP テスト又は *TOEIC*® L&R 公開テストを受験する。
2) 1 年後学期の抽選履修登録期間の開始前日までに「(c) TOEIC スコアの登録方法」により、上記 1)のスコアを登録し、各キャンパス教務窓口へ成績更新の申請を行う。

[注 3] 「英語コミュニケーション」の再履修における TOEIC 受験の扱いは、シラバスを参照すること。

② 「英語演習」＜2 年後学期＞

必修科目である「英語演習」の単位は、以下の 3 種類の方法で取得することができます。

［1］ 2 年前学期末の TOEIC スコアによる自動認定

2 年後学期の抽選履修登録期間の開始前日までにスコア登録された *TOEIC*® L&R で 500 点以上を取得すると、以下の表を基準として 2 年前学期末までに「英語演習」の単位が認定されます。（スコア登録の詳細は「(c) TOEIC スコアの登録方法」を参照）

事前に単位認定された学生は、「英語演習」を履修する必要はありません。また、この場合の「英語演習」は履修上限単位数の計算には含まれません。

「英語演習」履修免除および成績の自動登録基準	登録された TOEIC スコア 入学時点 ～ 2 年後学期 抽選履修登録期間 開始前日				
	650 点以上	600～645 点	500～595 点	500 点未満	未受験
	秀	優	良	要履修	要履修

※ 登録スコアが複数存在する場合は、最も高いスコアが採用されます。

［2］ 2 年後学期以降の「英語演習」履修による単位修得

2 年後学期の抽選履修登録期間の開始前日までに登録されたスコアが 500 点未満の場合、2 年後学期に開講される「英語演習」を履修します。

「英語演習」の成績評価は、以下の基準で行います。

「英語演習」		登録された TOEIC スコア 開講学期の抽選履修登録期間 開始日 ～ 同学期の試験期間 最終日				
		650 点以上	600～645 点	500～595 点	500 点未満	未受験
平常点	60%以上	秀	優	良	可	不可
	60%未満	秀	優	良	不可	不可

※ 登録スコアが複数存在する場合は、最も高いスコアが採用されます。

◇ 「英語演習」履修者の平常点の取扱い

「英語演習」以前に、「基礎英語 A」「基礎英語 B」「基礎英語 C」を合格した場合は１科目ごとに「英語演習」の平常点に 10%加算します。(例：「英語演習」授業での平常点 30%に加えて、「基礎英語 A」「基礎英語 B」「基礎英語 C」全てが合格の場合、平常点は 60%になります。)

欠席が 4 回以上の場合、平常点は 0 点として計算されます。平常点の具体的な内容については、初回授業時に担当教員が説明します。

◇ 「英語演習」履修者の TOEIC スコアの取扱い

「英語演習」の履修者において、当該「英語演習」開講学期の抽選履修登録期間開始日から同学期の試験期間最終日までに一度も TOEIC の受験かつ登録がない場合は、「英語演習」の成績評価が「不可」となります[注 1]。(但し、TOEIC 500 点以上取得の場合は、入学 1 年前から同学期の試験期間最終日までに受験かつ登録されたスコアを採用します。) 上記の期間の TOEIC スコアが複数存在する場合は、最も高い TOEIC スコアが採用されます。スコア登録の詳細は「(c) TOEIC スコアの登録方法」を参照してください。

「英語演習」履修者の成績評価に用いる TOEIC 試験は、学生自身で申し込み、受験料を支払う必要があります。事前に申込期間等を十分確認するようにしてください。

[注 1] TOEIC 未受験による不可の場合、以下の 3 条件を全て満たせば単位が認められます。

1) 平常点が 60%以上である。
2) 当該学期における試験期間の最終日後、翌学期の抽選履修登録期間の開始前日までに実施される *TOEIC*® L&R IP テスト又は *TOEIC*® L&R 公開テストを受験する。
3) 翌学期の抽選履修登録期間の開始前日までに「(c) TOEIC スコアの登録方法」により、上記 2)のスコアを登録し、各キャンパス教務窓口へ成績更新の申請を行う。

［3］２年後学期以降の TOEIC スコア個別申請による単位認定

2 年後学期の抽選履修登録期間の開始日以降に 500 点以上の TOEIC スコアが登録された場合には、各キャンパス教務窓口へ「単位認定申請書」を提出することで、「『英語演習』履修免除および成績の自動登録基準」と同じ基準で単位認定を行うことも可能です。学内 TOEIC ではスコアが自動的に登録されますが、「単位認定申請書」は別途提出が必要です。

なお、「単位認定申請書」を提出した場合、その申請されたスコアによる成績評価となり、後日に他のスコアによる再申請はできません。一方、［1］において２年前学期末までに自動認定された「英語演習」の成績評価については、新しい TOEIC スコアにより「単位認定申請書」を提出することで、一度限りより高い成績評価に更新することが可能です。

また、卒業判定や進級判定の単位に「英語演習」を含めるためには、判定対象学期の試験期間最終日までに「単位認定申請書」を提出してください。

③ （工学部のみ）「アカデミックイングリッシュ」

工学部のみ「アカデミックイングリッシュ」が必修科目です。工学部以外の学部では、「アカデミックイングリッシュ」は選択科目です。工学部の学生を対象とした「アカデミックイングリッシュ」は学科ごとに開講枠が異なりますので、詳細は各年度授業時間割冊子を確認してください。

(e) 「選択科目」の科目群（夜間主以外）

選択科目については、下表の科目別履修条件を満たしている場合、それぞれの科目を履修することができます[注 1]。TOEIC スコアによる履修条件がある科目は、入学１年前以降に受験し、その科目の履修登録期間開始日[注 2]の前日までに「(c)TOEIC スコアの登録方法」により登録された TOEIC スコアのうち、最も高い得点を使い履修の可否が決まります。

受講者多数の場合には抽選を行います。希望のクラスを必ず受講できるとは限りませんが、1年後学期については用意された2枠のうち最低でも1枠は受講できるよう配慮されてます。(2枠とも抽選に外れた場合には、各キャンパス教務窓口に相談してください。)

	前学期		後学期	
	履修条件	科目名	履修条件	科目名
1年	「英語コミュニケーション」初級	基礎英語A	TOEIC 500点未満	基礎英語B
	「英語コミュニケーション」中級	中級英語A	TOEIC 500点台	中級英語B 総合英語ⅠA
	「英語コミュニケーション」中級以上	ESPⅠ(留学)	TOEIC 500点以上	ESPⅡ(地域)
	「英語コミュニケーション」上級	上級英語A	TOEIC 600点以上	上級英語B 総合英語ⅡA
2年	TOEIC 500点未満	基礎英語C	TOEIC 500点台	中級英語D 総合英語ⅠC
	TOEIC 500点台	中級英語C 総合英語ⅠB		
	TOEIC 600点以上	上級英語C 総合英語ⅡB	TOEIC 600点以上	上級英語D 総合英語ⅡC アカデミックイングリッシュ[注5]
3年	TOEIC 600点以上	ビジネスイングリッシュ		
	TOEIC 700点以上	総合英語Ⅲ		

集中 [注3] [注4]	TOEIC 600点以上	英語インテンシブ　A/B/C/D　(1～2年)
	なし	英語海外研修　A/B　(1～4年)

[注1] クラスごとに設定された履修条件は、個々のシラバスで確認すること。
[注2] 定期開講の科目は各学期の抽選履修登録開始日、集中開講の科目は各科目の履修登録開始日。
[注3] 集中講義「英語インテンシブ」はA/B(偶数年度)とC/Dで(奇数年度)で隔年開講されます。
[注4] 特定期間に集中開講する科目については、履修登録期間が学期中に掲示されます。
[注5] 工学部対象の「アカデミックイングリッシュ」は必修科目ですので上記とは運用が異なり、履修条件はありません。

(f) 人文社会科学部夜間主コースのカリキュラム

以下の5科目7単位までが卒業単位として認められます。「英語演習」(夜間主用)、「英語コミュニケーションA」、「英語コミュニケーションB」は夜間主コースの学生のみ受講できます。

必修科目 (2科目2単位)
「英語演習」(夜間主用：1単位)、「英語コミュニケーションA」(1単位)
選択科目 (3科目5単位まで)
「英語コミュニケーションB」(1単位)
「英語海外研修A」(2単位)、「英語海外研修B」(2単位)

(g) *TOEIC*® L&R IP テストの申込

TOEIC IPは団体特別受験制度（IP：Institutional Program）により、静岡大学のキャンパス内で受験ができるTOEICテストです。

1年前学期中に行われる「英語力確認テスト」(*TOEIC*® L&R IPテスト）は、大学が受験料を負担した上での全員受験であるため、学生による申し込みは不要ですが、それ以外の毎年複数回実施されるTOEIC IP試験は、静岡大学生活協同組合の窓口で指定期間中に各自申し込みを

する必要があります。(試験日や申込期間は静岡大学生活協同組合の Web サイト等を参照)

TOEIC スコアは本学の英語カリキュラムの他、就職活動等でも多く利用されるため、各自で計画的に受験してください。

(h) その他の注意事項

① (必修科目・選択科目にかかわらず)「英語演習」を除くすべての英語科目の授業において、4 回以上欠席した場合には成績評価を「不可」とすることが共通ルールで規定されています。

② 本学以外の教育施設で授業を受講した場合や、外部試験で一定の成績を収めた場合に、教養英語科目の単位が認定されます。本履修案内 p. 68「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」を参照すること。

③ 英語を母語または第一言語とする留学生については、英語科目の履修は原則できません。

(2) 初修外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、現代韓国語)

(a) 以下の 1 年次科目(クラス指定)は、学部・学科によって履修形態が異なりますので、全学教育科目および各学部のガイダンスには必ず出席してください。

人文社会科学部

前期:初修外国語入門Ⅰ・Ⅱ(必修)2 単位

後期:初修外国語Ⅰ・Ⅱ(選択)4 単位

教育学部、情報学部、理学部、農学部

前期:初修外国語入門Ⅰ(選択)1 単位

後期:初修外国語入門Ⅱ(選択)1 単位

(工学部は 2 年次から選択科目として履修します。グローバル共創科学部では卒業単位になりません。)

(b) 1 年次から履修が始まる工学部以外のクラス分けは、初修外国語に関する「履修言語選択申請書」に基づき行われますので、指定されたクラスで履修してください。クラス分けの結果は、英語と同じ p. 39 の日時と場所で発表されます。グローバル共創科学部は、初修外国語科目を履修しても卒業単位になりません。「履修言語選択申請書」を提出しても、クラス分けの対象にはなりません。

(c) 2 年次以降の選択科目は学部によって履修方法が異なりますので、全学教育科目および各学部のガイダンスでよく理解してください。

(d) 初修外国語は、初修外国語入門Ⅰ→同Ⅱ→初修外国語Ⅰ→同Ⅱ→同Ⅲ→同Ⅳ、という順序で学習する想定で、徐々に難易度が上がります。各科目の履修にあたっては、原則として直前レベルの科目を履修済み、もしくは直前レベルの科目修得と同等の語学力を有することが求められます。

(e) 留学生が、自分の言語(母語または第一言語)を履修することは原則できません。

(f) 複数の初修外国語の履修について

教育学部、情報学部、理学部、農学部については、在学中に複数の初修外国語を履修した場合、「初修外国語入門Ⅰ」及び「初修外国語入門Ⅱ」に限り、別の科目として扱い、教養選択科目の単位として卒業単位に含めることができます。人文社会科学部は入門科目に限らず、別言語の科目は別科目として教養選択科目の単位として認め、卒業単位に算入します。なお、異なる初修外国語を追加して履修を希望する場合、クラス人数等の制約があるので授業の時に担当教員に申し出てください。

(3) 健康体育

健康体育科目には、1 年次から履修できる（工学部は 3 年次から）「健康体育実技Ⅰ（前学期）」、「健康体育実技Ⅱ（後学期）」、「健康体育演習（前後学期）」と、2 年次から履修できる実技を主とした「スポーツⅠ（前学期）」、「スポーツⅡ（後学期）」があります。健康体育科目は、原則として、授業回数のうち、４/５以上の出席が必要です。また、学部・学科によって履修形態が異なりますので、授業科目一覧表を参照してください。

(a) 健康体育の履修およびクラス分けについて

「健康体育実技 I」、「健康体育実技Ⅱ」、「健康体育演習」のクラス分け方法については、別冊子の『2023（令和 5 年度）全学教育科目 授業時間割』を参照してください。

(b) スポーツの履修およびクラス分けについて

「スポーツ I」、「スポーツⅡ」のクラス分けは、別冊子の『2023（令和 5 年度）全学教育科目 授業時間割』を参照してください。

なお、「スポーツ I」、「スポーツⅡ」を履修できるのは、原則として「健康体育実技 I」または「健康体育実技Ⅱ」を 1 単位以上修得している者とします。

(4) 日本語・日本事情・ＡＢＰインターンシップ

「日本語」については一定以上の日本語力を有していると授業担当者が認定した場合を除いて、「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」の３科目は留学生全員が履修することとします。なお、日本語科目の履修を希望しない場合は、必ず授業担当者の認定を受けてください。

「日本事情」は、学際領域科目の単位として振替えることができます。

「ＡＢＰインターンシップ」は、ＡＢＰ留学生コースの学生とＡＢＰ４月特別教育プログラムの履修生が受講できます。ＡＢＰ留学生コース以外の学生が履修した場合は教養展開科目（ただし、ＡＢＰ科目として指定された科目を除く）の単位として振替えることができます。

取り扱いの詳細は、「留学生科目等に関する申合せ」（p. 70）を参照してください。

12 学務情報システムの利用について

アクセスの方法

学務情報システムを利用する際は、以下のURLからトップページにアクセスしてください。

https://gakujo.shizuoka.ac.jp

学務情報システム内の学生向け機能は、全て学外から利用することができます。学内ネットワークからの利用に限定されている静大IDの確認画面等については、以下の方法でアクセスしてください。

〔学内ネットワークからのアクセス方法〕

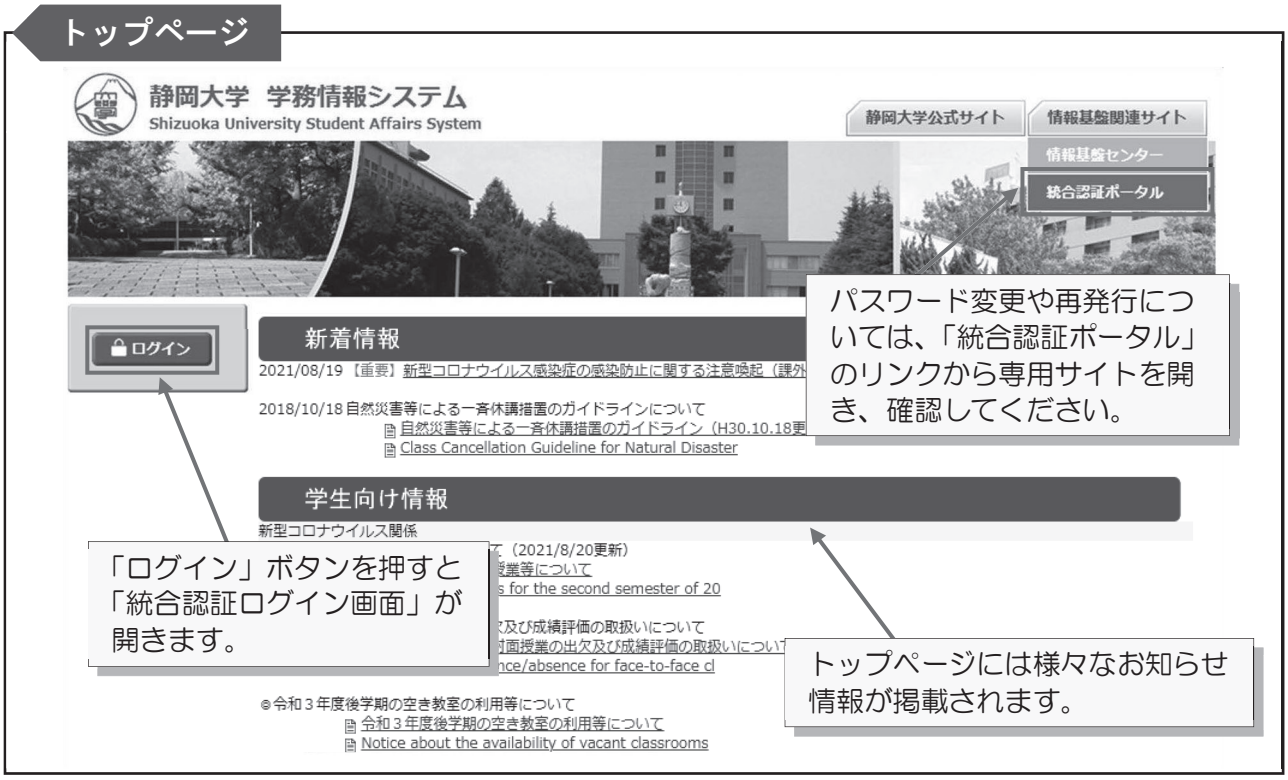
(1) 情報基盤センター実習室のＰＣ
(2) 教室等にある有線の情報端末コンセント
(3) 学内にある無線ＬＡＮのアクセスポイント（WRL-SUCCES-S3）
(4) 研究室等に設置されているＰＣ

〔スマートフォンの対応について〕

学務情報システムはＰＣブラウザでの使用に対して動作保証がされておりますが、スマートフォンからも基本的機能の利用が可能です。また、「一般講義履修登録」、「集中講義履修登録」、「学内アンケート」の各機能は、スマートフォン専用画面から利用できます。

トップページには履修登録に関係する重要なお知らせ等が掲載されますので、システムの利用時には一通り内容を確認してください。また、システムの操作マニュアル等のファイルもアップロードされていますので、適宜参照願います。

トップページ



・学務情報システムの操作方法について疑問や質問がある場合には、各学部の学務（教務）係の窓口にまずお問い合わせください。
・不測のシステム停止が発生してトップページ自体が閲覧できなくなった際は、静岡大学公式WEBサイトの「在学生の皆様」のページにて情報を提供します。また、レポート締切等がある場合にはシステムが復旧し次第、教員から期限の延長等についてメール連絡を行います。

ログイン

パスワードは、統合認証用「静大ID アカウント通知書」に記載の内容を入力してください。

統合認証ログイン画面

・ログインが成功すると、学務情報システムに登録されているメールアドレスに「○月○日○時○分にあなたのIDで学務情報システムにログインしました。」という内容のメールが送信されます。
・ログイン時に利用環境を登録しておくと、普段と異なる利用環境からログインが行われた場合のみ、ログイン通知メールが送信されるようになります。

〔統合認証からのログアウトについて〕

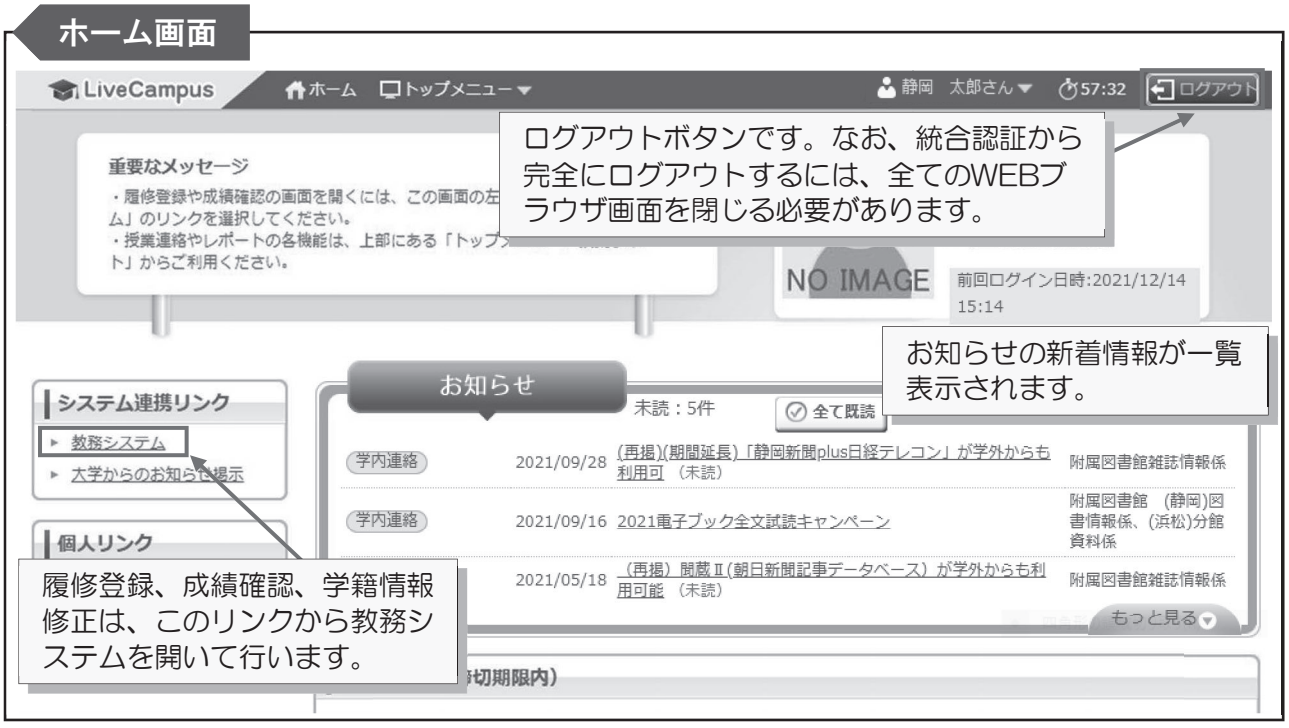
統合認証でログインをした際は、学務情報システム上のログアウトボタンを押しても、認証情報がWEBブラウザのCookie上に残ったままになるため、パスワード入力無しで再ログインができてしまいます。（ログイン後４時間が経過するまで有効です。）

統合認証からも完全にログアウトするためには、全てのWEBブラウザ画面を一度閉じる必要がありますのでご注意ください。

ホーム画面

ログイン直後のホーム画面には、新着情報や教務システムへのリンクが配置されています。

ホーム画面



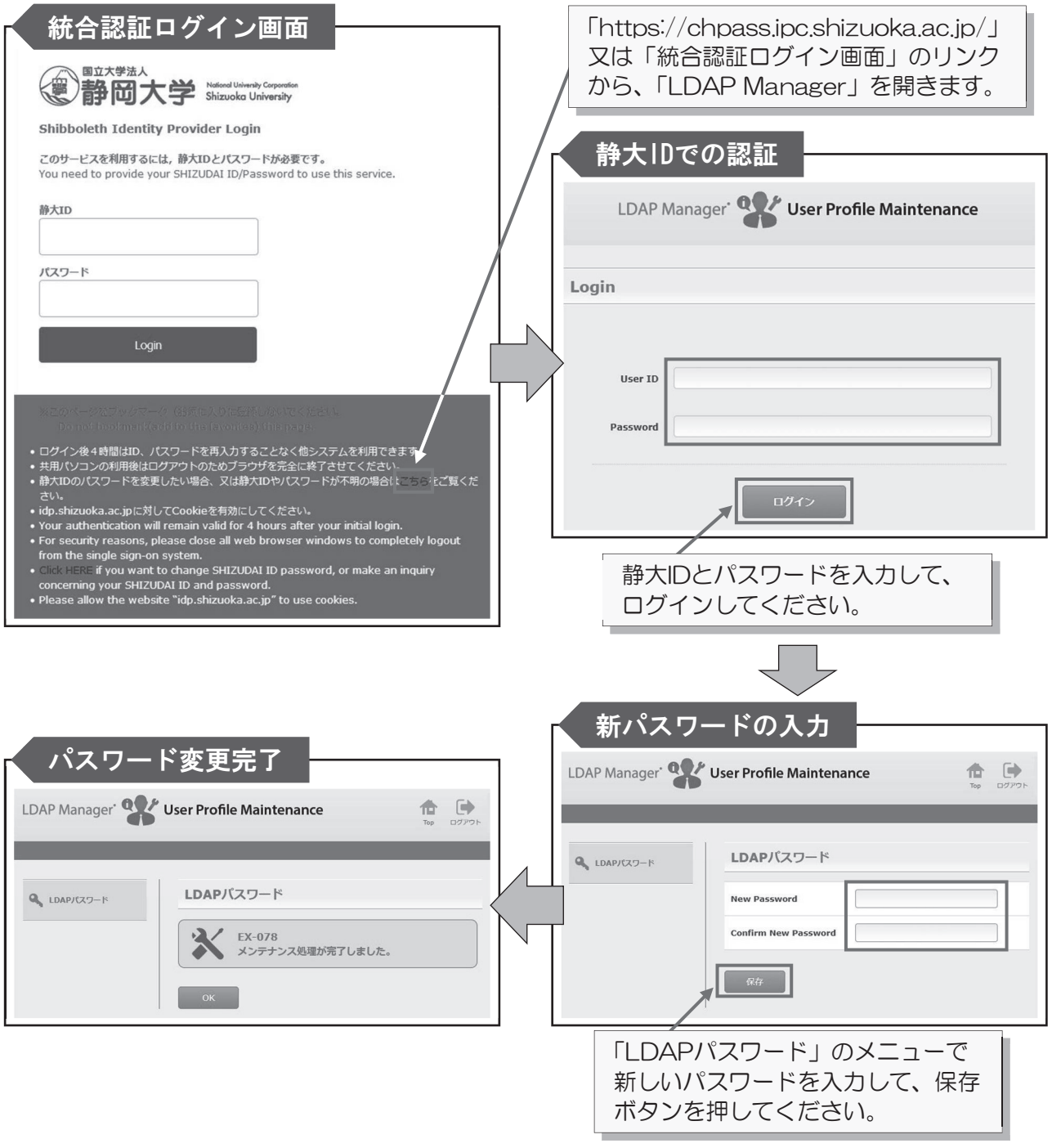
パスワード変更

アカウント通知書に記載の統合認証パスワードは、早めにオリジナルのパスワードに変更してください。設定の際は下記の項目に留意してください。

・パスワードには、個人が特定できる情報や辞書に載っている単語、他の者が推測できるような言葉は使用しないでください。
・パスワードに有効期限はありませんが、定期的に更新を行うことを推奨します。

統合認証パスワードを変更する場合

統合認証パスワードは、以下の流れで変更することができます。変更画面は学外からアクセスすることも可能です。



■ 統合認証パスワードを忘れた場合

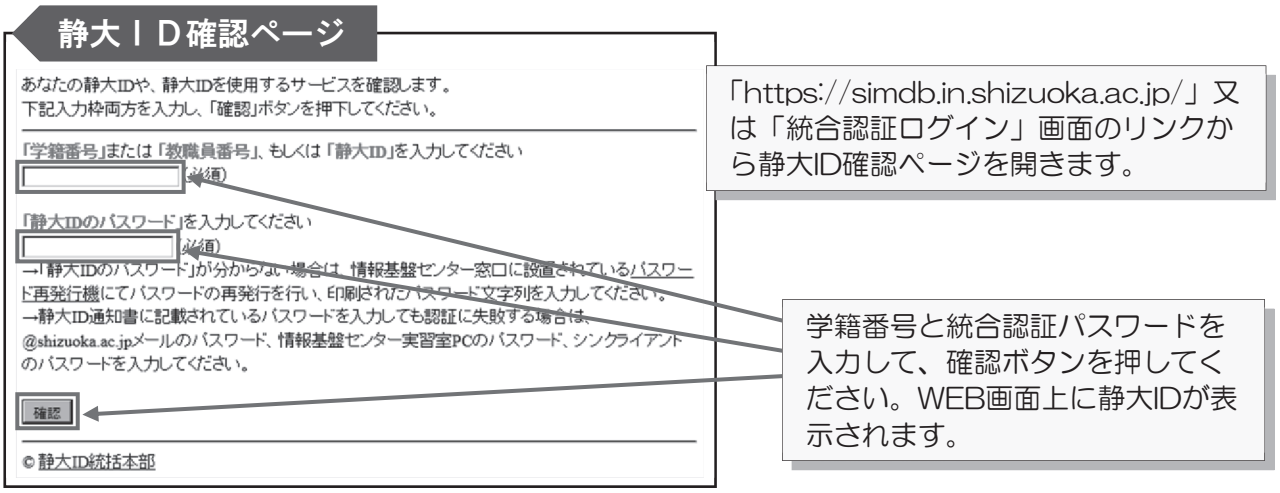
統合認証のパスワードを忘れてしまった場合は、下記の場所に設置されているパスワード自動再発行機にIC学生証をかざすことで、新しいパスワードの通知を受取ることができます。

キャンパス	パスワード自動再発行機の設置場所
静岡地区	・共通教育Ｌ棟１階　情報基盤センター静岡オフィス
浜松地区	・創造科学技術大学院棟２階　情報基盤センター浜松オフィス

・上記の端末を使うことで、統合認証パスワードが新しいランダムな文字列で書き換えられます。

■ 統合認証アカウント(静大ID)を忘れた場合

自分の静大IDを忘れてしまった場合は、学内限定の下記WEB画面から確認することができます。



■ 統合認証を利用する主なサービス

サービス	機能の説明	認証ＩＤ	補足情報
学務情報システム	履修登録や成績確認など様々な機能を提供しています。	[静大ID]	https://gakujo.shizuoka.ac.jp/portal/
図書館システム	貸出状況の確認等の機能をオンラインで利用できます。	[静大ID]	https://opac.lib.shizuoka.ac.jp/cgi-bin/portallogin.cgi
無線LAN（eduroam）	本学の統合認証アカウントを使い、他の学術機関でも無線LANが利用可能になる国際的な接続サービスです。	[静大ID]@shizuoka.ac.jp	eduroam経由での接続では学内ネットワーク限定のサービスは利用できません。
無線LAN（WRL-SUCCESS-S3）	本学が提供する無線LAN環境に接続することができます。	[静大ID]	学内限定のサービスを利用しない時は、eduroam経由の接続を推奨します。
Office365	大学が配付するアドレス宛ての受信メールを確認する場合等に利用します。	大学配付アドレス（2018年度以降の入学生）	https://portal.office.com/ パスワードは統合認証と同じです。
WWP.in	学内専用ウェブサイトを開設できます。	[静大ID]	https://wwp.in.shizuoka.ac.jp/
実習室PC	情報基盤センター実習室に設置されているPCにログインできます。	[静大ID]	共通教育L棟計算機実習室、工学部7号館計算機実習室１、工学部5号館計算機実習室３

※一部のサービスでは、静大IDに所定の識別子を付加したものを認証IDとして利用します。

教務システムの概要

履修・成績関係の情報確認や、学生の連絡先を登録する機能等は、「教務システム」上の各画面で行います。ログイン直後のホーム画面から「教務（成績・履修）」のリンクを選択すると、新規ウィンドウで下記の「教務システムメニュー画面」が開きます。

次ページ以降に主な機能の詳細が記載されていますが、各機能を利用する際はこのメニュー画面から該当のリンクを選択することになります。

〔各システムの名称について〕

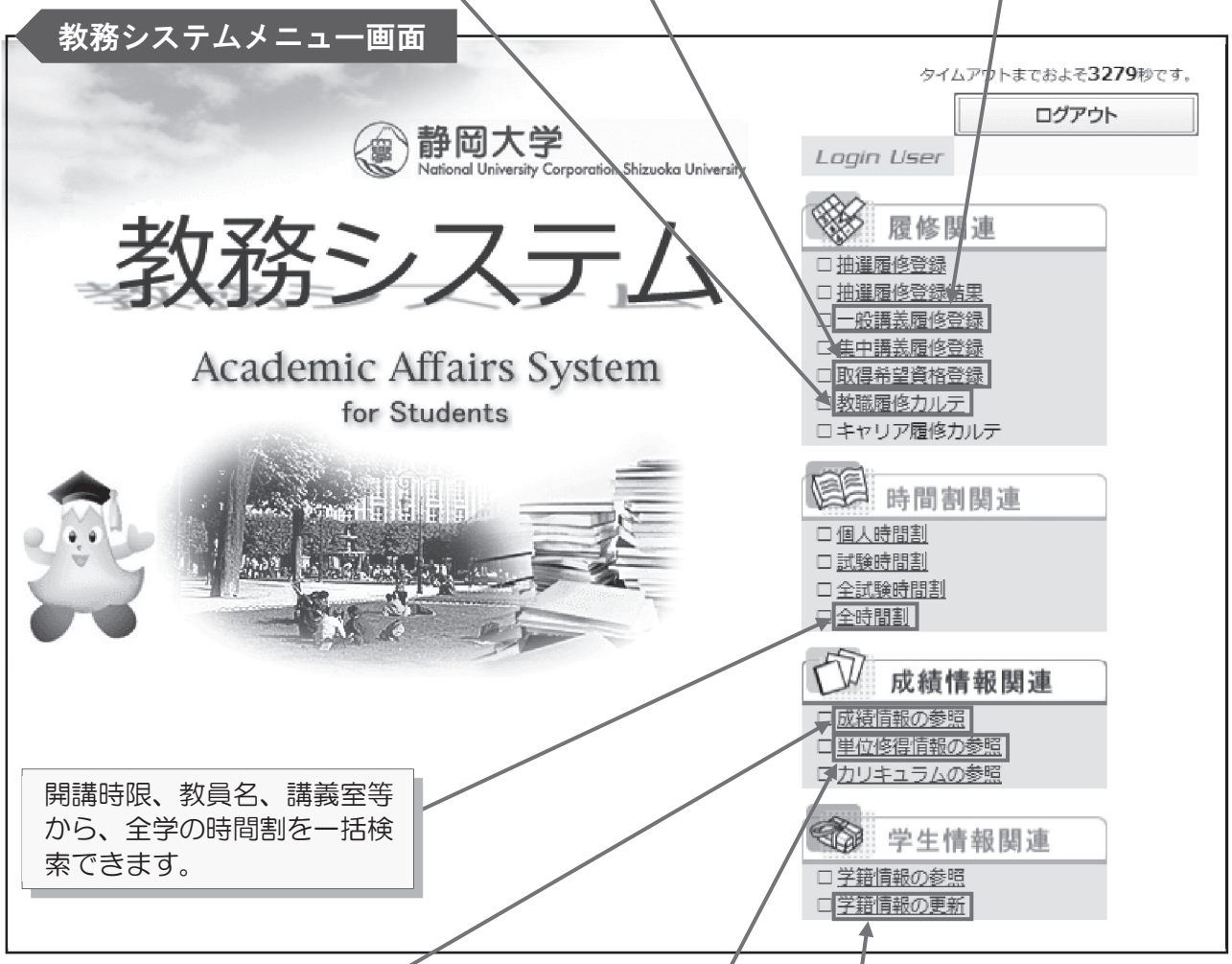
「学務情報システム」という用語は、教務システム・授業支援システムを含めた総称として使用しています。履修登録・成績確認・学籍情報修正等は「教務システム」、各授業のレポート提出等は「授業支援システム」といった形でサブシステムに分かれています。

なお、ログイン直後に表示されるポータル（入口）画面は、「授業支援システム」の一部となっています。

教員免許状取得希望者は、教職履修カルテの入力が必要です。

ここで希望資格登録を行うと、「単位修得情報の参照」画面で資格ごとの要件単位を確認できます。

WEB抽選を行わない定期開講授業を履修登録する画面です。履修取消期間中の取消作業も同じ画面で行います。



開講時限、教員名、講義室等から、全学の時間割を一括検索できます。

各履修科目の成績評価はこのリンクから確認できます。

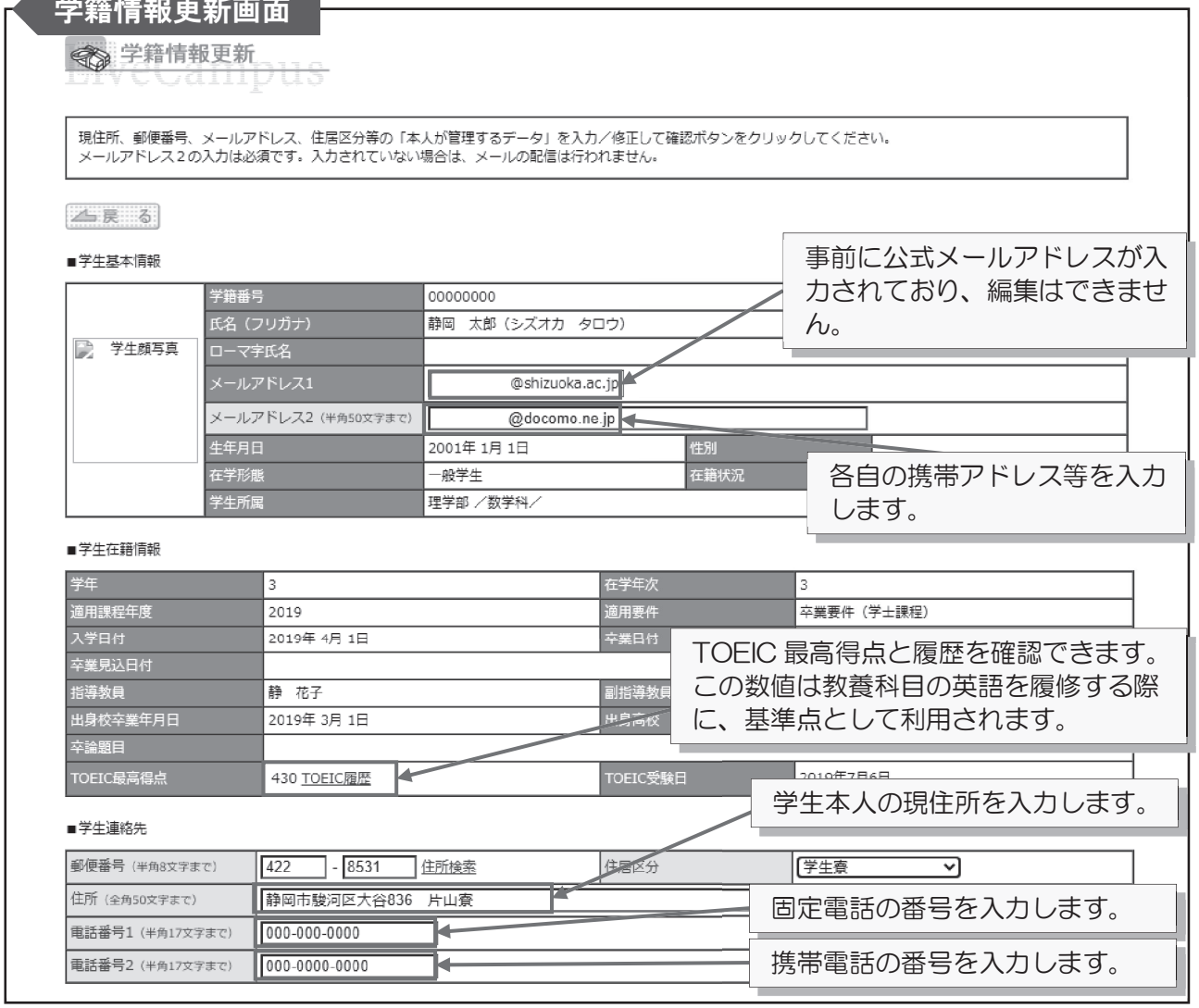
卒業要件・資格要件単位の修得状況は、ここから確認します。

メールアドレス等の登録・修正は、このリンクから行います。

学籍情報の更新

履修登録を行うためにはメールアドレス、現住所、電話番号の登録をする必要があります。メールアドレスは２種類の入力欄があり、メールアドレス１には静岡大学が各学生に配付する公式メールアドレスが事前登録されており、受信メールはOffice365のOutlookから確認することができます。メールアドレス２には、各自の携帯電話等のアドレスを設定してください。登録されたメールアドレスには、システムから大学からの休講情報など重要なお知らせが送信されます。

学籍情報更新画面



確認ボタンを押して登録を確定させると、メールアドレス２へ更新通知メールが送信されます。しばらく待ってもメールが届かない場合は、アドレスに入力ミスがないか、迷惑メールフィルタの設定に問題がないか確認してください。通知メールの送信元アドレスには、「@adb.shizuoka.ac.jp」や各教員のアドレスとして「@ shizuoka.ac.jp」等が使われますが、基本的に「shizuoka.ac.jp」で終わります。

メールアドレス、現住所、電話番号に変更が出た際は、各自で最新の情報に更新してください。

〔安否情報システムについて〕

「静岡大学安否情報システム」は大規模な地震等が発生した時に、各学生が静大のWEBサイトへ現在の所在地や健康状態を登録し、親や大学が安否を確認できるようにするためのシステムです。　【 URL： https://anpi.ipc.shizuoka.ac.jp/ 】

地震発生後、携帯電話等に登録用ＵＲＬがメール送信されますが、この宛先には学務情報システムの「メールアドレス２」が使用されています。安否情報システムとは１日１回の頻度でデータ連携を行っています。

一般講義履修登録

WEB抽選をしない定期開講授業の履修登録は、「一般講義履修登録」のリンクから行います。なお、集中講義については各学部で指定する登録期間中に「集中講義履修登録」のリンクで履修登録をしますが、操作方法は基本的に一般講義と同様なので、説明は割愛します。

また、WEB抽選対象科目は「抽選履修登録」のリンクから志望順位の登録を行います。１年次の後期以降に、該当する学部でのみ実施されますので、別途掲示される案内を参照してください。基本的に抽選科目の登録は、非抽選科目の登録期間の前に行われます。

履修登録期間中の操作

「一般講義履修登録」は前学期（前学期分と通年分）及び後学期毎に予め決められた履修登録期間に行います。以下の手順を参考に、各自で締切日までに忘れずに登録を行ってください。

1．システム登録をする前に、シラバス（授業概要）、時間割、履修の手引き等により、まずどの科目を履修するか決めておきます。

- 本学の多くの授業は９０分１コマを基本に行われますので、履修科目の曜日とコマを調べておいてください。なお、「コマ」は「時限」の２つ分に相当し、例えば「火曜２コマ」と「火曜3・4時限」は同じ意味になります。
- 外国語や健康体育等の科目では、１つの科目名に複数のクラスが立てられています。それぞれのクラス分けは掲示板等に案内されていますので、正しいクラスを選んで登録してください。クラス名を誤ると履修登録忘れと同様にみなされ、試験に合格しても単位が認定されないことがあります。

2．システム上の各コマ（開講曜日時限）の鉛筆ボタンをクリックして、開講されている科目のリストから履修したい科目を選択します。１年次の必修科目等では、あらかじめ履修科目が一括登録されている場合もあります。

3．上記の処理を履修登録するすべての科目に対して繰り返し行います。各コマに科目が黄色で表示されれば、その時点で履修登録済みになります。履修登録期間中であれば、何度でも追加・取消が可能です。

4．すべての登録が終わったら、「戻る」ボタン等で画面を閉じてください。履修データはコマ毎に独立して登録処理されますので、全体的な最終確認ボタンはありません。

- 病気等の理由により履修登録期間中に登録できない場合は、事前に所属学部の学務（教務）係の窓口へ連絡してください。
- 他学部の専門科目もWEB登録できますが、学務（教務）係窓口で配付される「他学部授業履修届」を別途提出する必要があります。

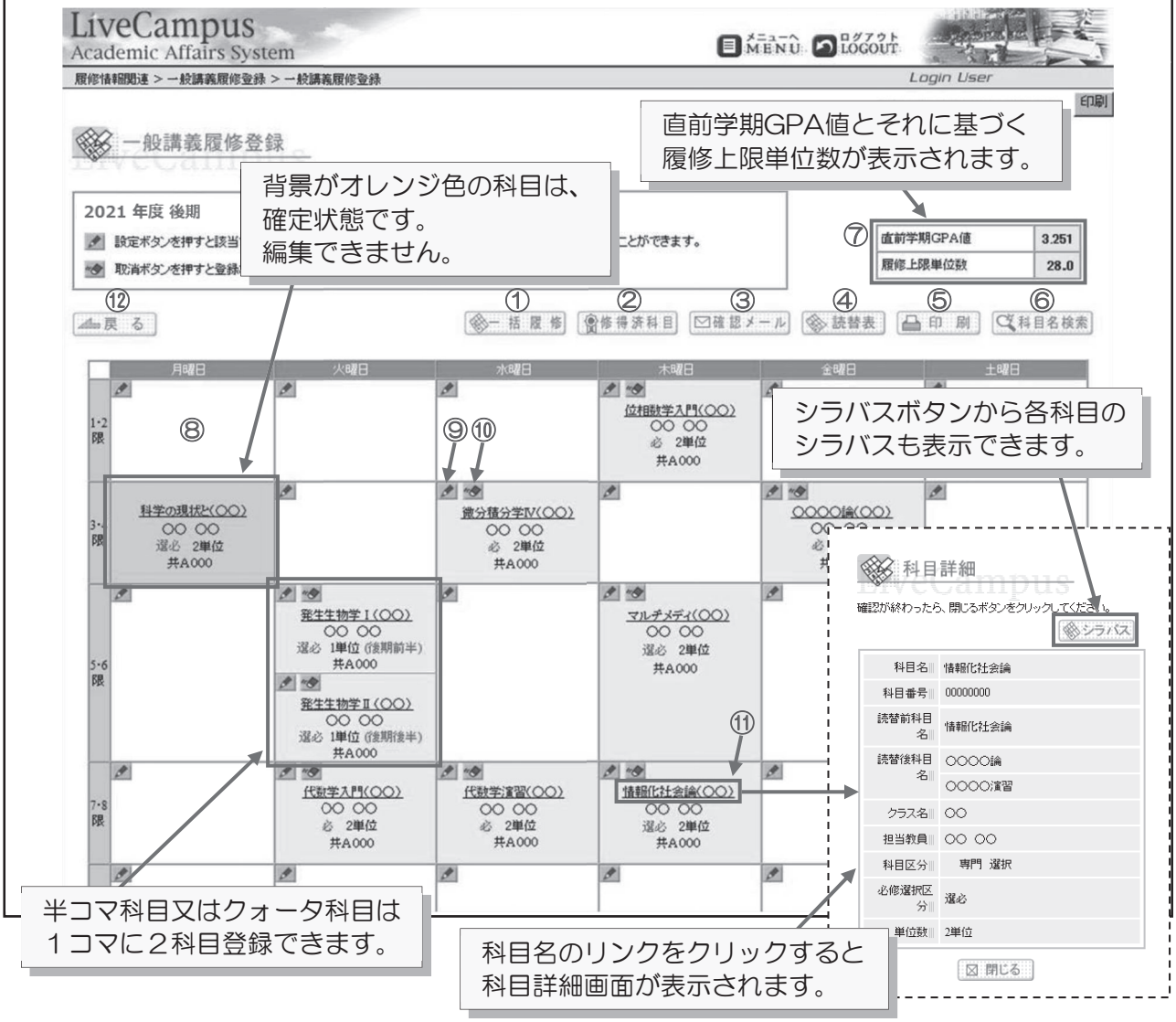
〔ＣＡＰ制について〕

学部生はCAP制（履修登録上限制）が適用され、半期毎に登録できる総単位数がシステム上で制限されるようになっています。

上限単位は直前学期のGPA値により変動し、具体的な数値は「一般講義履修登録」画面の右上に表示されています。上限を超える単位を選択しようとすると、「登録」ボタンを押した際にエラーが出ます。

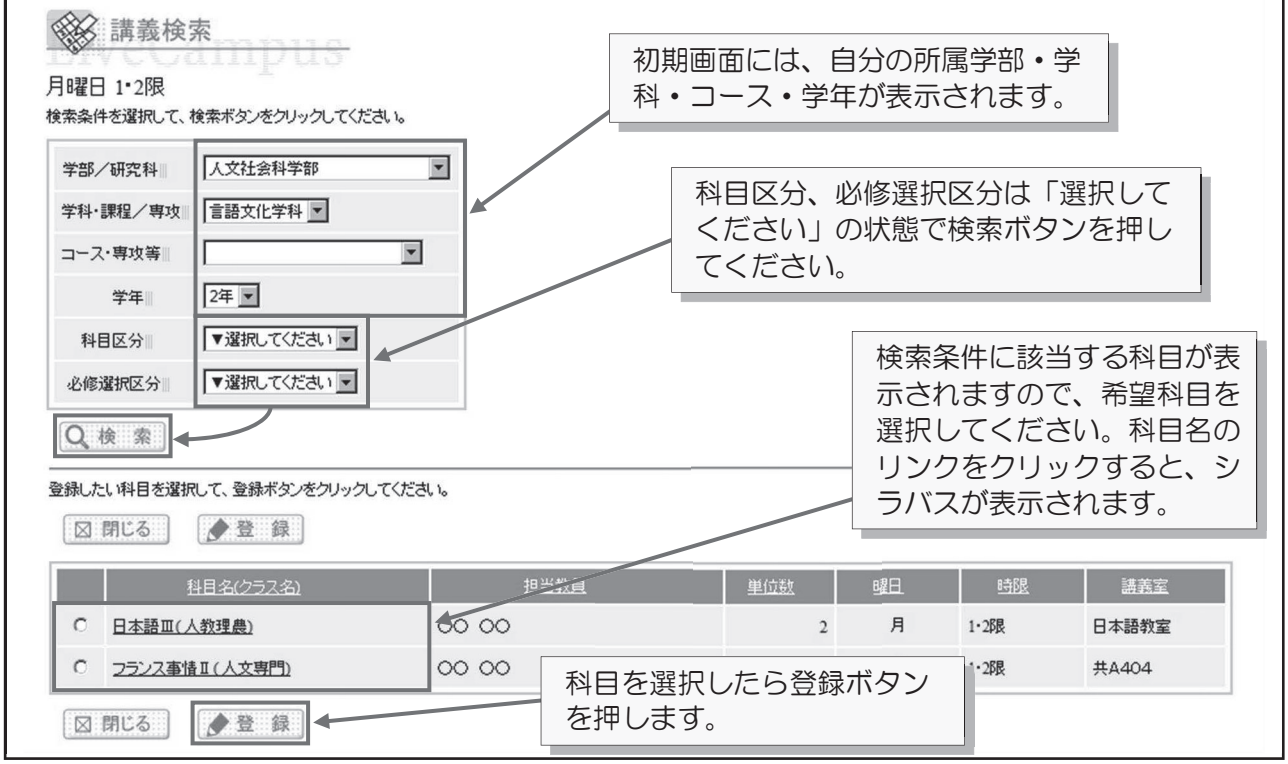
表示されている上限単位数等に不明な点がある場合は、所属学部の学務（教務）係の窓口へ申し出てください。

一般履修登録画面



項目名	説　明
①　一括履修	必修科目を一括して履修登録できます。
②　修得済科目	単位修得済の科目を一覧表示します。
③　確認メール	登録されているメールアドレスのいずれかに履修確認メールを送信します。
④　読替表	全学共通の読替表がＰＤＦファイルで参照できます。
⑤　印刷	履修登録した科目の履修確認表をＰＤＦファイルで出力します。
⑥　科目名検索	全てのコマの開講科目を検索・登録します。
⑦　履修上限単位数	履修上限単位数を超えて登録しようとすると、エラーメッセージが表示されます。
⑧　コマ	履修登録中の科目を表示します。 空白：履修中の科目がないコマ（曜日時限）です。 黄色：履修登録済みの科目です。取消・追加ができます。半コマ科目（１時限のみ）又はクォータ科目の場合、前半と後半の組み合わせであれば同一コマ内に両方登録することが可能です。 オレンジ色：履修確定している科目です。取り消すことはできません。
⑨　鉛筆ボタン	該当するコマの開講科目を検索・登録します。講義検索画面が表示されますので、検索条件を設定して履修登録したい科目を検索・登録します。
⑩　消しゴムボタン	履修登録科目を取り消します。科目の登録をやり直す場合は該当コマの消しゴムボタンをクリックして登録済みの科目を削除します。
⑪　授業科目名	授業科目名をクリックすると科目詳細画面が表示されます。
⑫　戻る	全ての履修科目の登録が完了した場合や途中保存する場合にクリックします。

講義検索画面

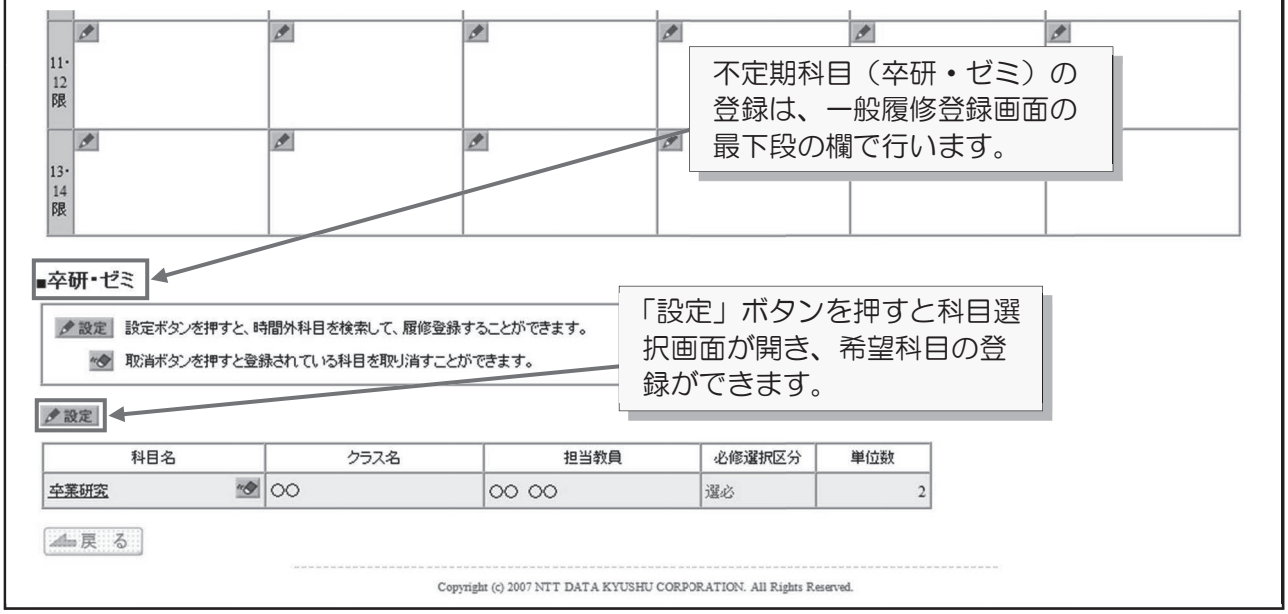


・対象学年以外の科目も検索することができますが、登録ボタンを押した際にエラーが表示されます。なお、シラバスの学年表示は、便宜上最低学年のみが記載されています。
・既に単位修得済の科目については、検索結果一覧に表示されません。

■ 不定期開講科目の登録

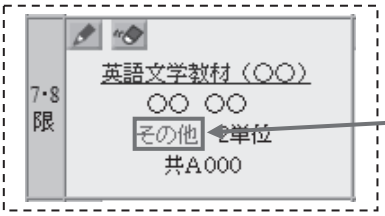
卒業研究やゼミのような、集中講義ではない不定期開講科目は、コマ毎の鉛筆ボタンではなく「一般講義履修登録」画面の最下段にある「設定」ボタンから行います。

不定期科目登録画面



■ 卒業要件外の科目

科目区分が「その他」になっているものは、カリキュラム外科目であり、そのままでは卒業要件として利用できません。新旧カリキュラム読替表等で対応科目があれば、単位修得のタイミングで読替先科目に置き換えられます。履修登録の段階で、読替対応科目があるか十分注意をしてください。

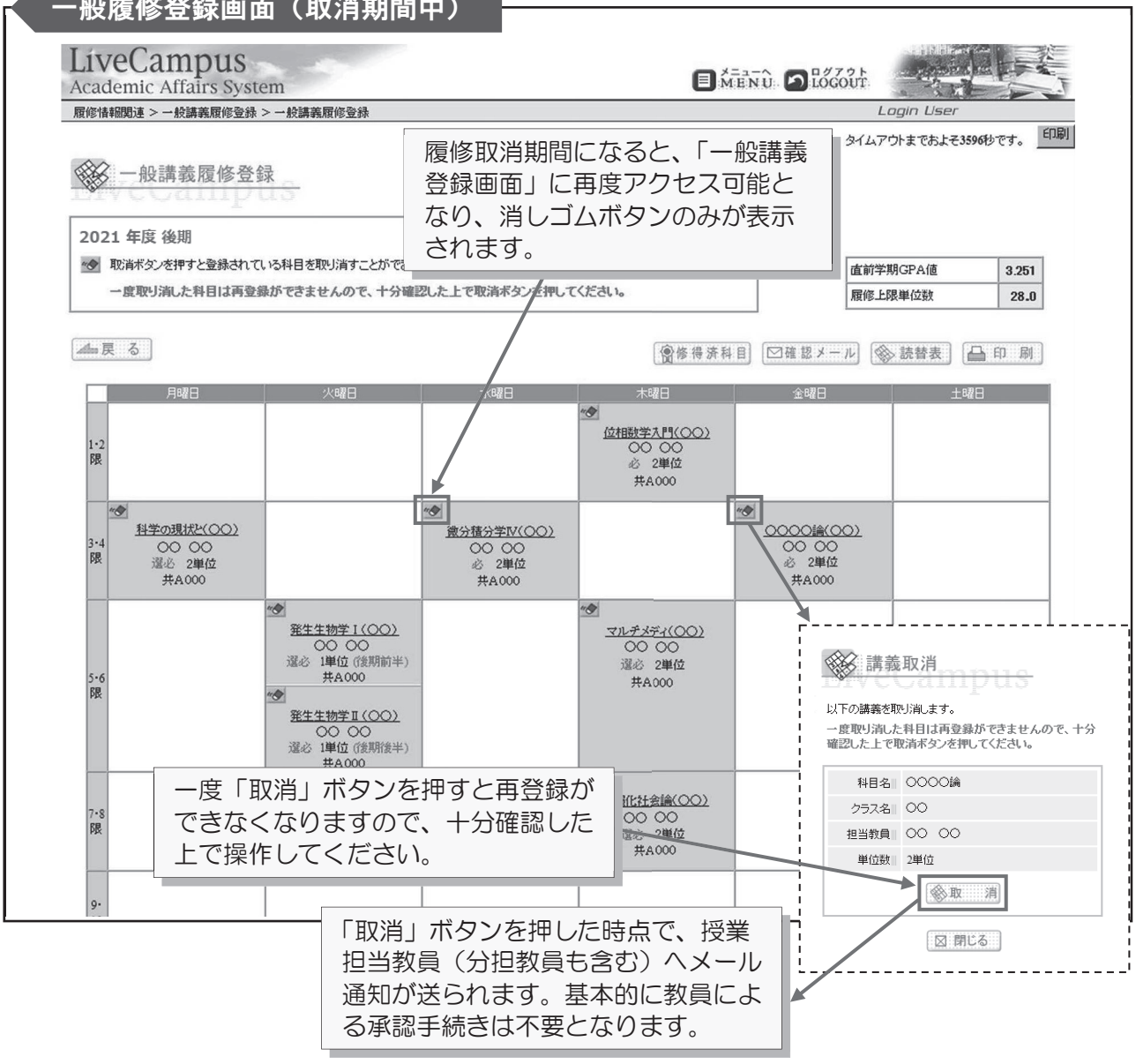


履修登録画面で単位数の左側にある区分表示が、「必」「選必」「選択」でなく「その他」になっている場合は卒業要件外科目となります。

■ 履修取消期間中の操作

各学期の授業開始１カ月後頃に履修取消期間が設定されており、掲示板等で案内されます。この期間中に限り、学務情報システムから登録済の履修科目を各自で削除することが可能です。継続履修する意思のない科目を削除することで、「不可」の評価でGPA値を下げることを回避できます。

一般履修登録画面（取消期間中）



履修取消期間になると、「一般講義登録画面」に再度アクセス可能となり、消しゴムボタンのみが表示されます。

一度「取消」ボタンを押すと再登録ができなくなりますので、十分確認した上で操作してください。

「取消」ボタンを押した時点で、授業担当教員（分担教員も含む）へメール通知が送られます。基本的に教員による承認手続きは不要となります。

成績情報の参照

成績は授業担当教員が成績報告を行った後に、所属学部の学務（教務）係で公開処理をして、初めて参照可能になります。新学期の履修登録期間の開始前までに、各自で成績の確認を行ってください。

成績情報参照画面

LiveCampus
Academic Affairs System

メニューへ MENU　ログアウト LOGOUT

成績情報関連 > 成績情報の参照 > 成績情報参照

Login User

タイムアウトまでおよそ3345秒です。 印刷

成績情報参照

学籍番号: 00000000　学生氏名: 静岡 太郎

評価別単位 | 印刷 | 学部内GPA | 学科等内GPA | 年別単位

戻る

卒業要件

科目名	担当教員名	科目区分	必修選択区分	単位	評価	得点	科目GP	取得年度	報告日	試験種別
新入生セミナー	○○　○○	新入生セミナー	必	2	秀	95	4.00	2021	2021-09-01	
数理・データサイエンス入門	○○　○○	数理ＤＳ	必	1	合	80		2021	2021-09-01	
情報処理・データサイエンス演習	○○　○○	数理ＤＳ	必	2	秀	90	3.50	2021	2021-09-01	
英語コミュニケーション	○○　○○	英語　必修	必	2	秀	95	4.00	2021	2021-09-01	
初修外国語（現代韓国語）入門Ⅰ	○○　○○	初修外国語	選必	1	優	85	3.00	2021	2021-09-01	
初修外国語（現在韓国語）入門Ⅱ	○○　○○	初修外国語	選必	1	優	85	3.00	2021	2021-09-01	

各科目の評価とあわせて、得点及びGPが表示されます。

評価別単位

確認が終わったら閉じるボタンをクリックしてください。

秀	6
優	25
良	49
可	28
合	2
認定	0
合計	110

閉じる

評価毎の合計単位数を一覧表示します。

GPA

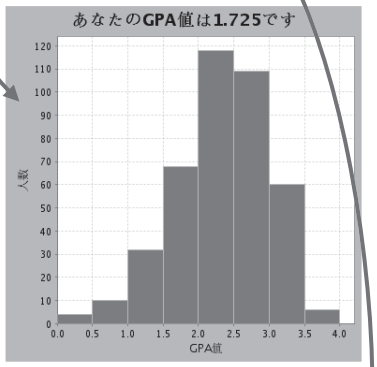
確認が終わったら、閉じるボタンをクリックしてください。

GPAグラフは、同一学部、同一学年の学生を対象として分布を集計しています。

	3年
値	1.725
前期 GPA値	1.852
後期 GPA値	1.845
前期 GPA値	1.701
後期 GPA値	1.835
前期 GPA値	1.553
最終GPA算出日	2013年 02月 06日

同一学部・同一学年における、GPA値の人数分布をグラフ表示します。

あなたのGPA値は1.725です



閉じる

学期毎のGPA値を一覧表示します。

成績通知表

PDF

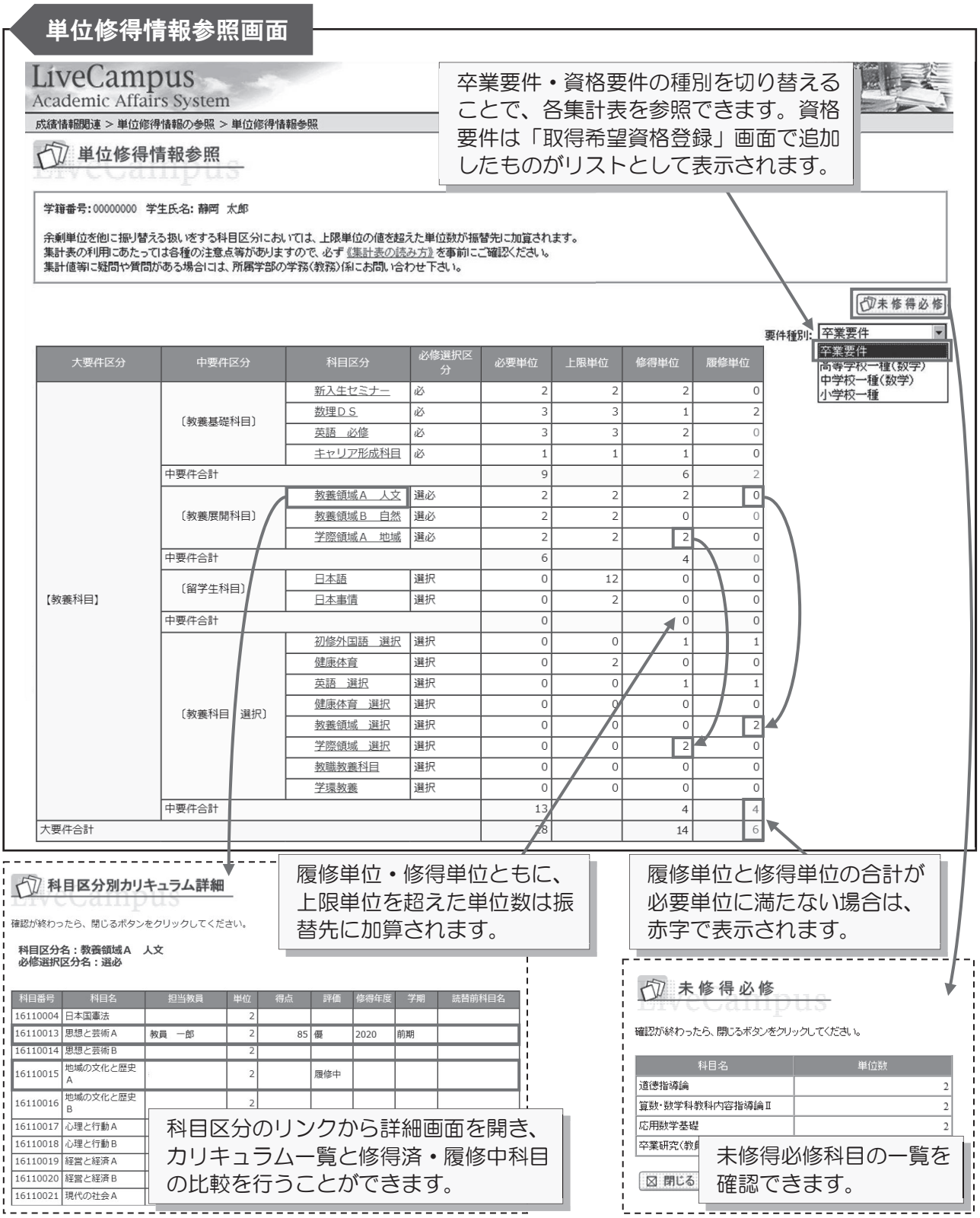
履修中科目や過去の不合格科目も含めた成績通知表を、PDF形式で出力します。学部によっては、定期的にこの様式により、成績を保証人へ郵送しています。

単位修得情報の参照

卒業要件・資格要件それぞれについて、要件区分毎の修得済単位数を確認することができます。必要な単位を正しく修得しているかを簡単に調べることができますが、卒業・資格単位の確認は基本的に学生便覧を使って行うようにし、WEBの集計単位数はあくまで二重チェック用として捉えてください。

・「教養科目選択」等、余剰単位を他の科目区分に振替える処理についても、反映済みの数値で表示されます。振替元の単位数は、移動した分減算されています。
・学部の運用によっては、この画面を参照できない設定にしている場合があります。

単位修得情報参照画面



大要件区分	中要件区分	科目区分	必修選択区分	必要単位	上限単位	修得単位	履修単位
【教養科目】	〔教養基礎科目〕	新入生セミナー	必	2	2	2	0
		数理ＤＳ	必	3	3	1	2
		英語 必修	必	3	3	2	0
		キャリア形成科目	必	1	1	1	0
	中要件合計			9		6	2
	〔教養展開科目〕	教養領域A 人文	選必	2	2	2	0
		教養領域B 自然	選必	2	2	0	0
		学際領域A 地域	選必	2	2	2	0
	中要件合計			6		4	0
	〔留学生科目〕	日本語	選択	0	12	0	0
		日本事情	選択	0	2	0	0
	中要件合計			0		0	0
	〔教養科目 選択〕	初修外国語 選択	選択	0	0	1	1
		健康体育	選択	0	2	0	0
		英語 選択	選択	0	0	1	1
		健康体育 選択	選択	0	0	0	0
		教養領域 選択	選択	0	0	0	2
		学際領域 選択	選択	0	0	2	0
		教職教養科目	選択	0	0	0	0
		学環教養	選択	0	0	0	0
	中要件合計			13		4	4
大要件合計				28		14	6

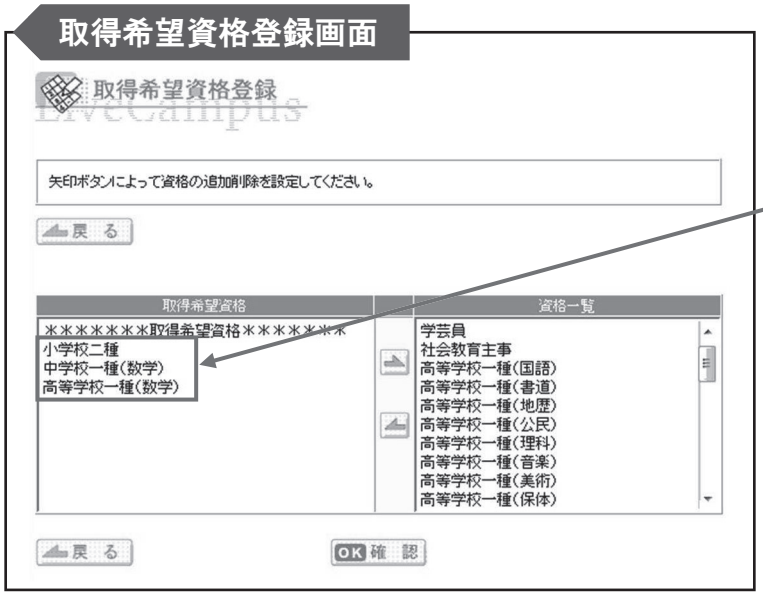
科目番号	科目名	担当教員	単位	得点	評価	修得年度	学期	読替前科目名
16110004	日本国憲法		2					
16110013	思想と芸術A	教員 一郎	2	85	優	2020	前期	
16110014	思想と芸術B		2					
16110015	地域の文化と歴史A		2		履修中			
16110016	地域の文化と歴史B		2					
16110017	心理と行動A							
16110018	心理と行動B							
16110019	経営と経済A							
16110020	経営と経済B							
16110021	現代の社会A							

科目名	単位数
道徳指導論	2
算数・数学科教科内容指導論Ⅱ	2
応用数学基礎	2
卒業研究(教員	

取得希望資格登録

学務情報システムでの取得希望資格の登録は、教職履修カルテへの希望免許種の表示や、「成績情報参照」、「単位修得情報参照」の各画面における要件種別の選択リストに反映されます。

取得希望資格登録画面



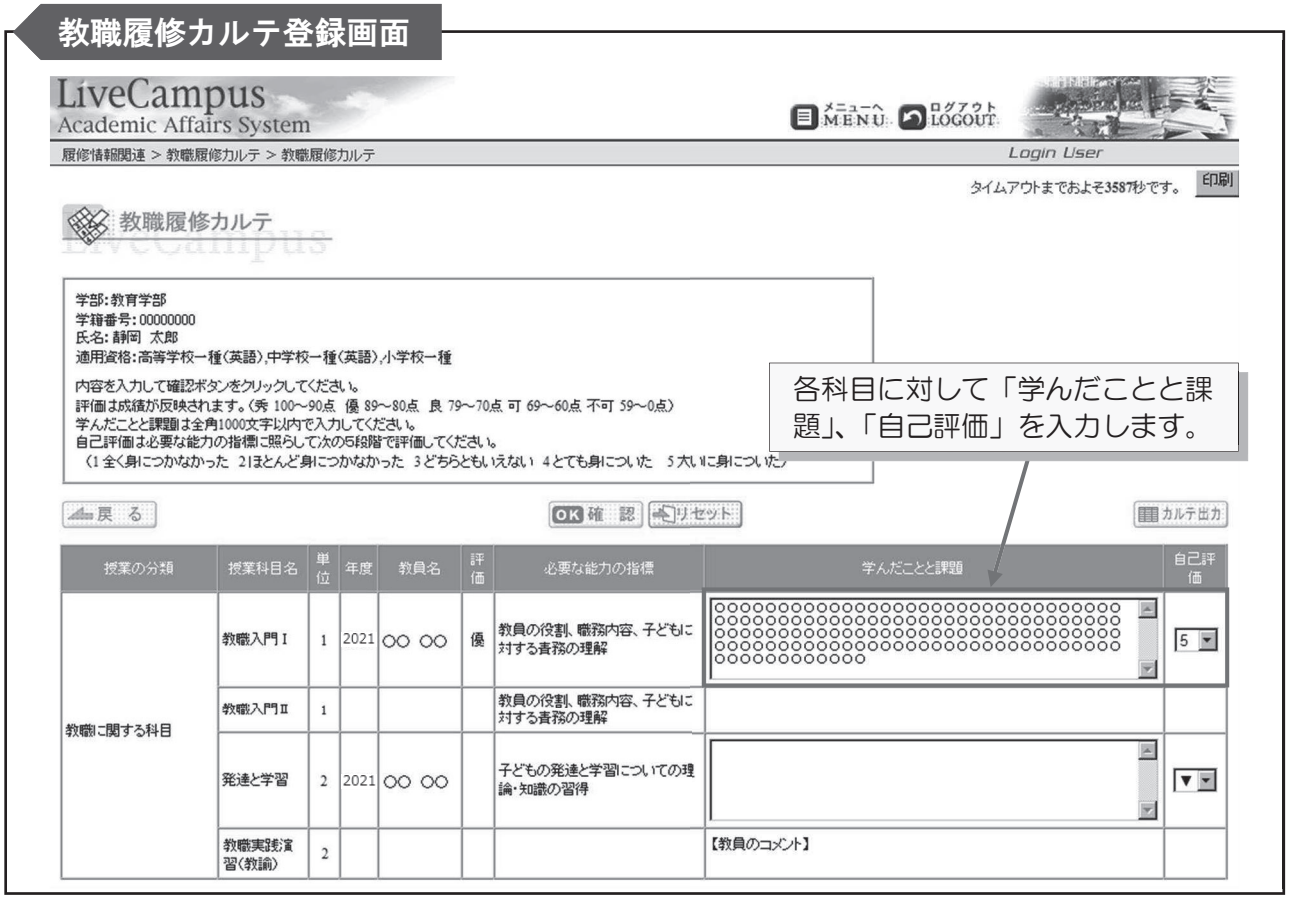
右側の資格一覧から希望資格を選んで左側に移動、「確認」ボタンを押して確定させます。

・システムへの登録可能期間は学部により異なります。期間外の止むを得ない登録・修正は各学部の学務（教務）係にご相談ください。

教職履修カルテ登録

教員免許状取得希望者は、４年次に開講される「教職実践演習」に使用する「教職履修カルテ」を作成する必要があります。教職履修カルテは「教職に関する科目」の必修や「各教科教育法」などを対象とし、それぞれの科目で「学んだことと課題」と「自己評価」を入力します。

教職履修カルテ登録画面



各科目に対して「学んだことと課題」、「自己評価」を入力します。

■ 教職履修カルテの入力時期

教職履修カルテの作成は下記の流れで行いますので、締切日までに忘れず入力をしてください。

《履修登録》
対象となる教職科目の履修が確定した時点からカルテの入力が可能になります。

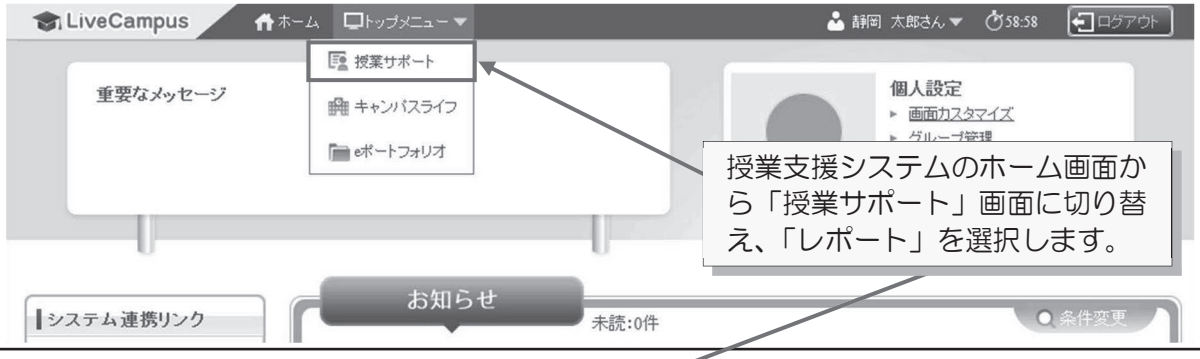
《授業終了》
授業終了後速やかに学んだことと課題・自己評価欄を記入します。内容は当該授業の評価には影響しません。

《各年度末》
各科目のカルテは授業開講の年度内であれば修正可能です。締切り後はシステムからの編集ができません。

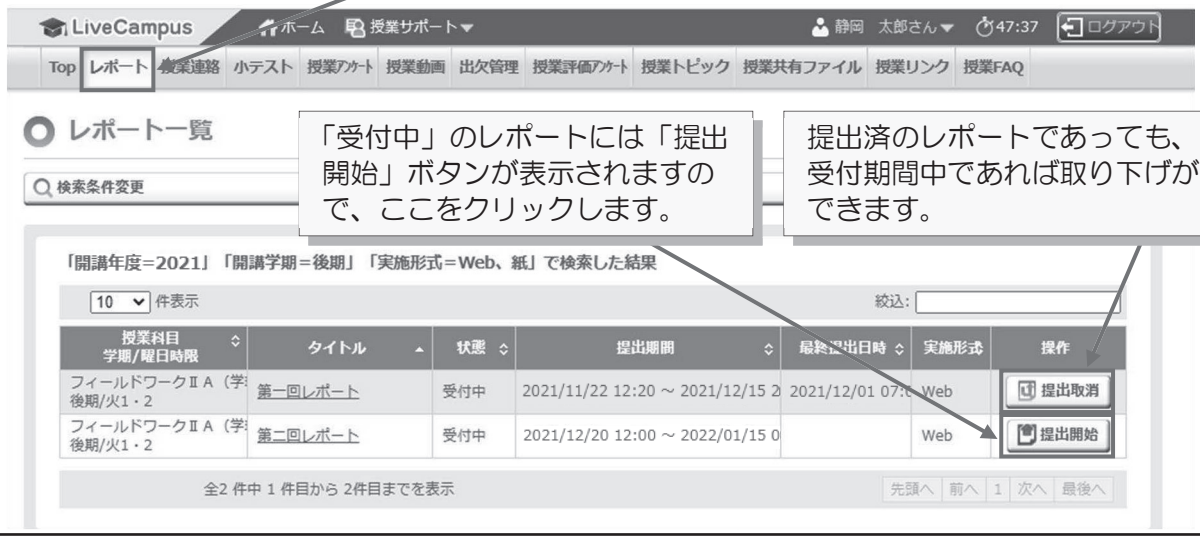
授業レポートの提出

授業担当教員から学務情報システムによるレポート提出の指示が出された場合は、以下のような手順でファイルのアップロードを行ってください。

授業サポート画面への切替



レポート一覧画面



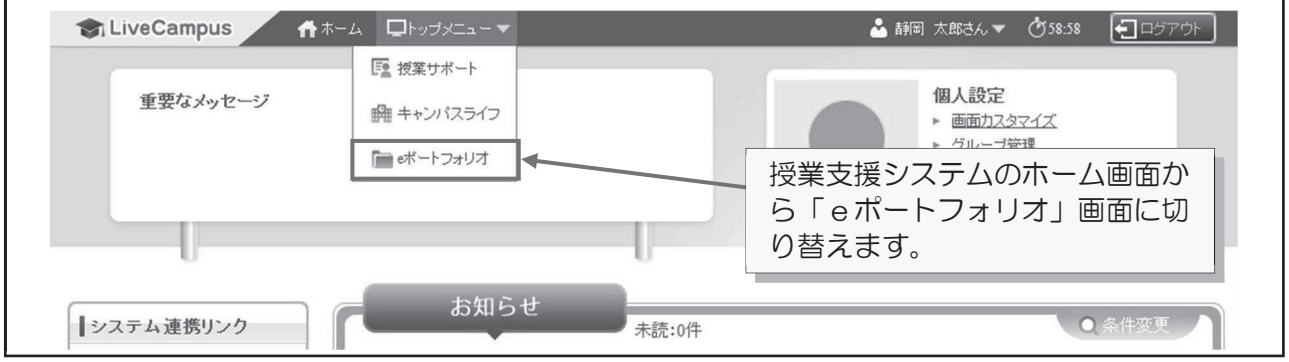
レポート提出画面

・授業によってはレポート以外に、小テスト、授業アンケート等の機能を利用することがありますが、これらの操作画面も「授業サポート」メニューの上部に並んだ各ボタンから遷移する流れとなります。

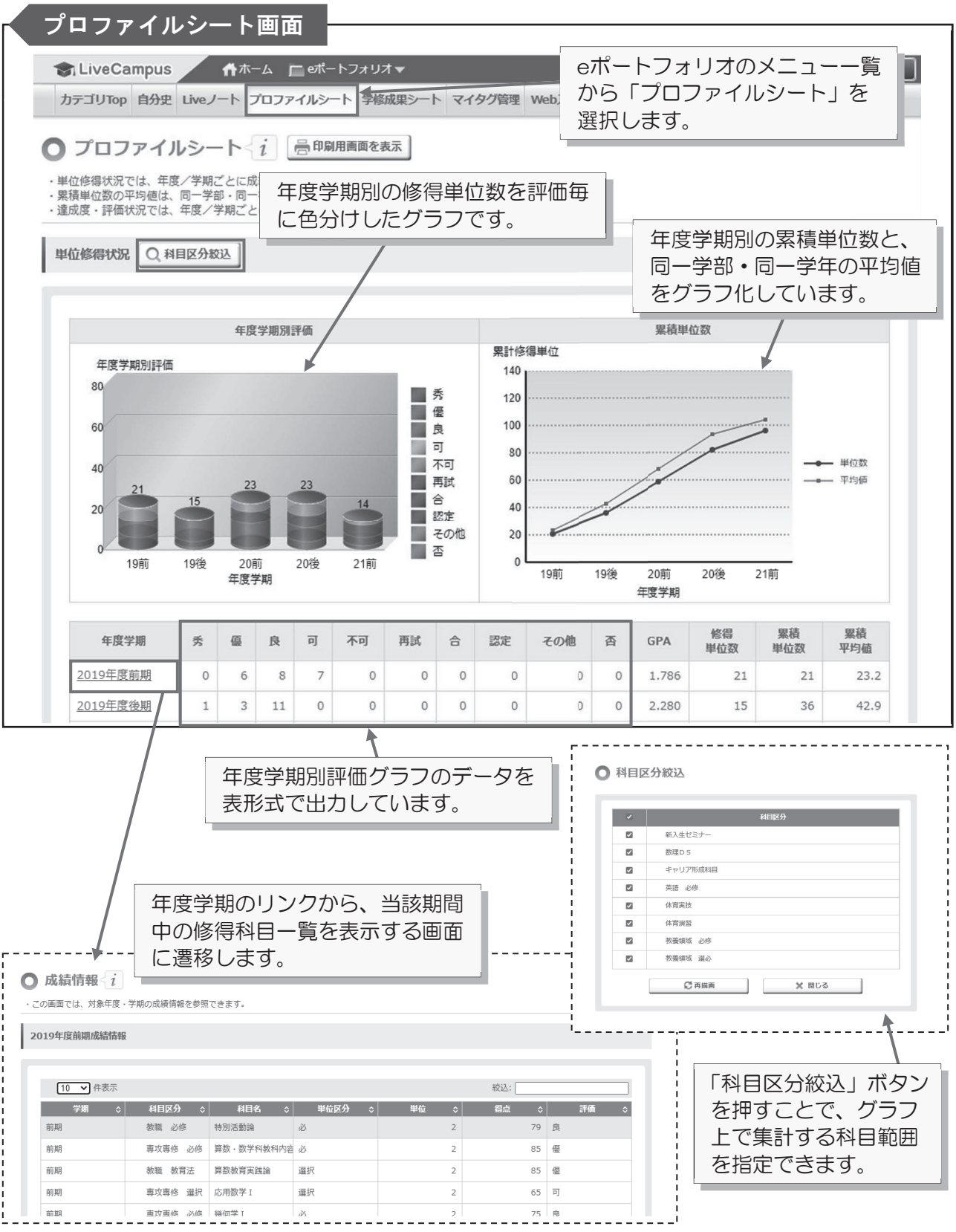
成績経年グラフの参照

授業支援システムの一部である「eポートフォリオ」の画面上で、単位修得状況の経年グラフを確認することができます。年度別の評価別単位数も表示されますので、適宜参考にしてください。

ｅポートフォリオ画面への切替



プロファイルシート画面



eポートフォリオのメニュー一覧から「プロファイルシート」を選択します。

年度学期別の修得単位数を評価毎に色分けしたグラフです。

年度学期別の累積単位数と、同一学部・同一学年の平均値をグラフ化しています。

年度学期	秀	優	良	可	不可	再試	合	認定	その他	否	GPA	修得単位数	累積単位数	累積平均値
2019年度前期	0	6	8	7	0	0	0	0	0	0	1.786	21	21	23.2
2019年度後期	1	3	11	0	0	0	0	0	0	0	2.280	15	36	42.9

年度学期別評価グラフのデータを表形式で出力しています。

年度学期のリンクから、当該期間中の修得科目一覧を表示する画面に遷移します。

「科目区分絞込」ボタンを押すことで、グラフ上で集計する科目範囲を指定できます。

〔ポートフォリオシステムについて〕

本システムは学生自らが学修成果を管理・点検するための各種機能を提供します。これらの機能を利用することで、大学での学びや就職活動に向けた取り組みを自己管理するとともに、指導教員等が定期的にレスポンスを返すやり取りが可能となります。

ポートフォリオ機能の操作概要については、学務情報システムのトップページ等に公開されている別冊子をご参照ください。

13 情報基盤センター計算機実習室について

情報基盤センター実習室は、研究・教育利用を目的とした全学の共同利用施設ですので、学生の皆さんも大いに利用してください。計算機実習室の教育用端末は、全学生が利用できるコンピュータです。

(1) 利用上の注意事項

計算機実習室の利用にあたっては、下記の点に注意してください。

① 教育用端末の利用には、別途配布される静大ＩＤとパスワードが必要となります。
② 図書館と同じように静粛にマナーを守って利用してください。
③ 計算機実習室内での飲食は厳禁です。

(2) 各計算機実習室の利用時間等

キャンパス	室　名	PC 台数 (2023/4 現在)	利用時間（平日）	備　考
静岡	共通教育Ｌ棟 計算機実習室１	60 ※72	8:30～21:00 木曜のみ 8:30～17:00	休業期間は利用時間の変更や閉室になることがあります。 休日は終日閉室です。
	共通教育Ｌ棟 計算機実習室２	50	8:30～21:00 木曜のみ 8:30～17:00	
	共通教育Ｌ棟 計算機実習室３	50	8:30～21:00 木曜のみ 8:30～17:00	
	共通教育Ｌ棟 計算機実習室４	24	8:30～21:00 木曜のみ 8:30～17:00	
	共通教育Ｌ棟 計算機実習室５	50	8:30～17:00	
	共通教育Ｌ棟 アクティブラーニングルーム	10	8:30～21:00 木曜のみ 8:30～17:00	
浜松	工学部７号館 計算機実習室１	65 ※28	8:30～18:00	
	工学部５号館 計算機実習室３	100	8:30～18:00	

・各計算機実習室は、授業で使用している場合を除き、上表の時間帯で利用できます。
・授業での利用状況及び利用時間については、情報基盤センターの下記 Web サイトに掲載されている「計算機実習室カレンダー」で確認してください。（https://www.cii.shizuoka.ac.jp/）
・2023 年 10 月より静岡・浜松地区の計算機実習室１の PC 台数が変更されます。
※は 2023/10 変更後の PC 台数。

(3) 問い合わせ窓口

計算機実習室の利用にあたって不明な点は、下記の窓口までお問い合わせください。

・静岡キャンパス：共通教育Ｌ棟１階　情報基盤センター静岡オフィス
・浜松キャンパス：創造科学技術大学院棟２階　情報基盤センター浜松オフィス

14　静岡大学全学教育科目規程

（趣旨）

第１条　この規程は、国立大学法人静岡大学学則(昭和 24 年 12 月 21 日制定) 第 31 条の規定に基づき、大学教育センター（以下「センター」という。）が開設する授業科目（この規程において「全学教育科目」という。）に関し、必要な事項を定める。

（全学教育科目の実施）

第２条　全学教育科目は、全教員の責任と協力の下に全学で行う。

２　前項の全学教育科目に係る教育の企画、運営及び実施については、センターがこれに当たる。ただし、次条に規定する日本語・日本文化研修科目に係る教育の企画、運営及び実施については、国際連携推進機構がこれに当たる。

（全学教育科目の区分）

第３条　全学教育科目の区分は、次のとおりとする。

大区分	科目区分	小科目区分
教養科目	教養基礎科目	新入生セミナー
		数理・データサイエンス
		英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
	教養展開科目	教養領域Ａ
		教養領域Ｂ
		学際領域Ａ
		学際領域Ｂ
	留学生科目	日本語
		日本事情
		ＡＢＰ基礎日本語
		ＡＢＰ基礎科目
		ＡＢＰインターンシップ
	教職等資格科目	教職教養科目
	日本語・日本文化研修科目	日本語研修科目
		日本文化研修科目
専門科目	教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ
		教職専門科目Ⅱ
		学芸員科目
	理系基礎科目	

（授業科目及び単位数）

第４条　学部ごと対象となる全学教育科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

（単位の計算）

第５条　各授業科目の単位は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修を考慮して、次に定める基準により計算する。

(1)　講義については、1 時間の授業に対して 2 時間の授業時間外の学修を必要とするものとし、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2)　演習については、授業の内容により、1 時間の授業に対して 2 時間又は 0.5 時間の授業時間外の学修を必要とするものとし、15 時間又は 30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3)　実験、実習及び実技については、授業の内容により、1 時間の授業に対して 0.5 時間の授業時間外の学修を必要とするときは 30 時間、授業時間外の学修を要しないときは 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

(4) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、複数の方法の併用により授業を行う場合は、その組み合わせに応じ、次表の学修時間により計算した総学修時間数が 45 時間となる授業をもって 1 単位とする。

授業の種類	授業 1 時間当たりの学修時間
講義	3 時間
演習	授業の内容により 1.5 時間又は 3 時間
実験、実習及び実技	授業の内容により 1 時間又は 1.5 時間

（履修要件）

第 6 条　学生が履修すべき教養科目の単位数は、別表Ⅱのとおりとする。

2　学生は、前項の定めにより授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（履修手続）

第 7 条　学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに、所属する学部に届け出なければならない。

（試験及び単位の認定）

第 8 条　試験は、学期末又は学年末に行う。学期を単位としない授業科目については、随時行う。

2　授業科目の単位の認定は、試験その他の方法により行う。

3　前条に定める手続を経ない授業科目については、単位の認定を行わない。

4　病気その他やむを得ない事由で試験を受けることのできなかった者は、センターが別に定める手続きにより追試験を受けることができる。

（成績評価）

第 9 条　成績評価は、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」の評語で表し、「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。

2　前項の規定のほか、授業科目によっては、「合」及び「否」の評語で表すことができることとし、「合」を合格とし、「否」を不合格とする。

（入学前の既修得単位等の取扱い等）

第 10 条　学生が、入学前の既修得単位等の認定等を大学教育センター長に願い出たときの教養科目の取扱いは、センターが別に定める。

（編入学等の単位の取扱い）

第 11 条　編入学、転入学又は再入学を許可された者の教養科目の修得単位の取扱いは、センターが別に定める。

（科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生）

第 12 条　全学教育科目を受講する科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生に関し必要な事項は、センターが別に定める。

（日本語・日本文化研修科目）

第 13 条　第３条に規定する日本語・日本文化研修科目の授業科目、単位数及び履修要件は、別表Ⅲのとおりとする。

（補則）

第 14 条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、センターが別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2　静岡大学共通科目規程は、廃止する。

3　静岡大学専門科目（基礎）に関する規程は、廃止する。

4　平成 17 年度以前に入学した学生については、この規程(第 9 条を除く。)にかかわらず、なお従前の例による。

＜平成 19 年～令和４年の附則は省略＞

附　則

1　この規程は、令和５年４月１日から施行する。

2　令和４年９月 30 日以前に入学した学生については、この規程による改正後の静岡大学全学教育科目規程の規定に関わらず、なお従前の例による。

別表Ⅲ（第13条関係）

教養科目（日本語・日本文化研修科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	授業形態	難易度	備　考
日本語・日本文化研修科目	日本語研修科目	日本語初級Ⅰ	10	演習	初級前半	原則として、左記6科目を同一学期に全て履修すること。なお、再履修は原則認めない。
		日本語初級Ⅱ	1	演習		
		日本語初級Ⅲ	1	演習		
		日本語初級Ⅳ	1	演習		
		日本語初級Ⅴ	1	演習		
		日本語と文化	1	演習		
		日本語中級Ⅰ	2	演習	中級後半	原則として、左記10科目を同一学期に全て履修すること。なお、再履修は原則認めない。
		日本語中級Ⅱ	2	演習		
		日本語中級Ⅲ	2	演習		
		日本語中級Ⅳ	2	演習		
		日本語中級Ⅴ	2	演習		
		日本語中級Ⅵ	2	演習		
		日本語中級Ⅶ	2	演習		
		日本語中級Ⅷ	2	演習		
		日本語中級Ⅸ	2	演習		
		日本語中級Ⅹ	2	演習		
		日本語1A-S（入門）	4	演習	初級前半	
		日本語1A-F（入門）	4	演習		
		日本語2A-S（基礎）	3	演習	初級後半	
		日本語2A-F（基礎）	3	演習		
		日本語3A-S（読解・文法）	1	演習	中級前半	
		日本語3A-F（読解・文法）	1	演習		
		日本語3B-S（聴解・語彙）	1	演習		
		日本語3B-F（聴解・語彙）	1	演習		
		日本語3C-S（作文・話し方）	1	演習		
		日本語3C-F（作文・話し方）	1	演習		
		日本語3D-S（総合）	1	演習		
		日本語3D-F（総合）	1	演習		
		日本語4A-S（読解・文法）	2	演習	中級後半	
		日本語4A-F（読解・文法）	2	演習		
		日本語4B-S（聴解・語彙）	2	演習		
		日本語4B-F（聴解・語彙）	2	演習		
		日本語4C-S（作文・話し方）	2	演習		
		日本語4C-F（作文・話し方）	2	演習		
		日本語4D-S（総合）	2	演習		
		日本語4D-F（総合）	2	演習		
		日本語5A-S（総合）	2	演習	上級	
		日本語5A-F（総合）	2	演習		
		日本語5B-S（総合）	2	演習		
		日本語5B-F（総合）	2	演習		
	日本文化研修科目	日本文化研修	2	演習	初級後半～	

注意

1．日本語・日本文化研修科目は、特別聴講学生（大学間又は部局間交流協定に基づく交換留学生に限る。）及び科目等履修生（日本語・日本文化研修留学生に限る。）対象の科目であり、日本人学生の履修は認めない。

2．受講を特別に許可された正規留学生が履修した場合は、原則として卒業単位にはならない。ただし、「留学生科目等に関する申合せ」により読替えが認められた場合は、この限りでない。

15 教養科目の成績評価に関わる指針

平成 14 年 12 月 5 日

制定の目的

授業担当教員（非常勤講師を含む。以下同じ。）が以下の各項目を念頭におき、成績評価の透明性・厳正性の向上に努めることを目的とする。

1　成績評価は、授業科目の目的・目標に照らして、その達成度について行われるものである。したがって、各授業科目について、その目的や到達目標を明確にすることが重要である。

2　成績評価は、各授業科目の目的・目標に沿って行われるものであるとともに、教養教育全体として円滑かつ効果的に実施されるものでなければならない。

3　教養教育の効果を高めるため、厳格かつ説明可能な成績評価を実施する。

4　各授業科目の成績評価は、授業担当教員の責任において行う。

5　授業担当教員は、履修学生に評価の基準を明確に示したうえで、その基準に沿って評価する。

6　同一授業科目の成績評価については、授業担当教員によって成績評価の極端なばらつきが生じないように、分科会は成績評価の基準設定に努める。

特に、学生が選択できないクラス指定の授業科目の成績評価基準については、成績評価方法も含めてできる限り共通化の方向を検討する。

7　授業担当教員は、学生の学習意欲の促進や学習指導に努める。

8　授業担当教員は、受講生の出席を把握するよう努める。

16　入学前既修得単位等に係る全学教育科目の取り扱い

令和３年６月３日制定
大学教育センター運営委員会
令和４年１０月６日一部改正

全学教育科目規程第 10 条に関する入学前の既修得単位の取り扱い及び入学前の既修得単位等の単位の認定に関する規程第８条に関する必要な事項について、次のように定める。

１　教養科目の既修得単位の申請及び審査等の手順は、次のとおりとする。

(1) 申請の窓口

学生は、以下の書類を、教務課教務係又は浜松教務課共通教育係の窓口へ所定の期日までに提出する。

①　既修得単位認定申請書（本学指定用紙）
②　成績証明書（英語の外部試験の成果については、合格証、スコアシート）
③　修得した科目の授業内容が分かるもの（シラバス・講義概要等）

(2) 審査等の手順

①　授業計画実施専門委員会で申請資料を審査し、大学教育センター運営委員会で承認する。審査に際して必要な場合は、申請科目に関係する科目部と協議する。
②　教務課は、大学教育センターで承認された審査結果を、学生に通知する。

２　全学教育科目に含まれる専門科目の既修得単位に係る手続きは、入学前の既修得単位等の単位の認定に関する規程（以下「入学前単位認定規程」という。）に基づき、各学部において処理する。

３　１年次に入学した者で、教養科目の単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位及び認定科目の範囲等は、次のとおりとする。

(1) 大学又は短期大学等の教育課程で修得した単位（入学前単位認定規程第２条第１項）

①　新入生セミナー、数理・データサイエンス入門、キャリアデザインの各科目、及びフィールドワーク、学際領域 A・B の各科目区分は認定対象から除く。
②　放送大学の科目については、「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」の定める特別聴講学生の単位認定基準に従い認定する。この場合、①の科目区分への単位算入もできる。
③　教職教養科目については認定課程を有する大学及び認定課程を有する短期大学（専攻科を含む）において、本学の科目と同区分の教員免許用科目として修得したものに限る。
④　本学の平成１８年度以降のカリキュラムで修得した教養科目は、修得した科目全部を認定の取扱科目とし、新しく入学する学部学科等のカリキュラムに応じて単位数を計上する。
⑤　専門科目から教養科目への単位認定は原則できない。
⑥　成績評価は、本学で修得した科目を同一名称の科目として認定する場合は、修得した時点の評価をそのまま利用し、それ以外の場合は「認定」の評価とする。

(2) その他の学修（入学前単位認定規程第２条第２項）

①　英語の外部試験（実用英語検定、TOEIC(R) L&R、TOEFL 及び IELTS(Academic)の成果の認定）に基づく単位の認定については、「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」の定めによる。

４　本取り扱いは、令和４年１０月入学者から適用する。

17 本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ

平成12年 2月 3日　制定
大学教育センター運営委員会
令和 5年 2月 2日　一部改正

学則第３４条第１項（他の大学等における授業科目の履修）及び第３５条第１項（大学以外の教育施設等における学修）による単位の認定について、全学教育科目の取り扱いを次のように定める。

１．国際連携推進機構を通して語学研修等に参加した学生が、留学先大学又は国際連携推進機構が発行した修了証明書を添えて申請した場合、以下のとおり単位を認定する。

⑴ Intensive Language Program, University of Nebraska at Omaha (ILUNO)を修了した学生及びアルバータ大学 International Visiting Student Program (IVSP)を修了した場合は、「英語海外研修 A」、「英語海外研修 B」、「英語インテンシブ A」、「英語インテンシブ B」、「英語インテンシブ C」、「英語インテンシブ D」、「アカデミックイングリッシュ」のうちの未修得２科目４単位として認め、評価は「秀」とする。

⑵ 国際連携推進機構が指定するイギリス春季短期英語研修を修了した場合は、「英語海外研修 A」、「英語海外研修 B」のうちの未修得１科目２単位として認め、評価は「認定」とする。

⑶ 国際連携推進機構が指定するオンライン英語研修を修了した場合は、「英語インテンシブ A」、「英語インテンシブ B」、「英語インテンシブ C」、「英語インテンシブ D」のうちの未修得１科目２単位として認め、評価は「認定」とする。

⑷ 国際連携推進機構が指定する英語圏以外の語学研修を修了した場合は、「初修外国語Ⅰ」、「初修外国語Ⅱ」、「初修外国語Ⅲ」、「初修外国語Ⅳ」、学際領域Ｂ「ＡＢＰ海外研修Ⅲ」のいずれか１科目２単位として認め、評価は「認定」とする。なお、初修外国語の言語は語学研修の言語とする。

⑸ 国際連携推進機構が指定する英語圏以外のオンライン語学研修を修了した場合は、「初修外国語Ⅰ」、「初修外国語Ⅱ」、「初修外国語Ⅲ」、「初修外国語Ⅳ」のいずれか１科目２単位として認め、評価は「認定」とする。なお、初修外国語の言語は語学研修の言語とする。

⑹ 大学間交流協定に基づいて、６ヶ月以上１年未満の留学を修了した場合は、６ヶ月相当の場合は学際領域A「海外交換留学プログラムⅠ」、「海外交換留学プログラムⅡ」のいずれか１科目２単位、１年相当の場合は２科目４単位として認め、評価は国際連携推進機構が発行した修了証明書に記載の評価とする。

⑺ 上記⑴～⑹で対象となる語学研修等の修了および申請により専門科目の単位が認定された場合には、当該語学研修等の修了に基づく教養科目の単位認定は申請できない。

２．以下の外部試験において所定のスコアを収めた学生の申請に基づき、以下に掲げる教養科目の英語科目群のうち所定の単位を認め、評価は「秀」とする。

	「英語コミュニケーション」及び「英語演習」の計３単位分まで	左の科目に「総合英語Ⅲ」を加えた計５単位分まで
実用英語技能検定試験	準１級	１級
TOEIC(R) L&R	730 点以上	875 点以上
TOEFL-PBT, TOEFL-ITP	550 点以上	600 点以上
TOEFL-iBT	80 点以上	100 点以上
IELTS（Academic）	6.0 以上	6.5 以上

⑴　入学１年前の４月１日（ABP 留学生は 10 月１日）以降に受験したスコアを有効とし、公式な証明書の提出が必要である。また、英語力確認テストとして行う TOEIC(R) L&R IP テストについては、適用しない。

⑵　同一基準による認定は１回限りとし、上位基準で追加申請する場合には、既認定単位を合算する。

⑶　TOEIC 以外の外部試験において所定のスコアを収めた学生が申請時に特に希望する場合は、上記５の表に基づき、TOEIC スコア 731 点又は 881 点の「みなし得点」を学務情報システムに登録する。

3．「英語演習」について、以下のとおり TOEIC(R) L&R のスコアにより単位を認定する。

スコア	650 点以上	600～645 点	500～595 点
成績評価	秀	優	良

⑴ ２年次後学期「英語演習」の履修登録開始前の時点で、別に定める方法（『全学教育科目履修案内』の「英語」頁に掲載。⑵も同様。）で登録されたスコアが上表に該当する場合は、自動的に一括単位認定を行う。

⑵ 上記⑴の時点以降、別に定める方法で上表に該当するスコアが登録された場合は、学生の申請に基づき単位を認定する。

⑶ 上記⑴で認定された評価について、新しいスコアにより学生が再申請することで、より高い成績評価へ一度限り更新することができる。この場合、申請した年度学期の単位として新評価を認定し、旧評価は「その他」に変更するものとする。

4．ふじのくに地域・大学コンソーシアムに関連する各授業について、以下のとおり単位を認定する。

⑴ 静岡県西部地区「共同授業」を受講し、修得した単位については、その授業科目を学際領域Ｂの単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。

⑵ 単位互換事業提供科目「ふじのくに学」を受講し、修得した単位については、その授業科目を学際領域Ａの単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。なお、留学生を対象にした「ふじのくに学」は、ABP 留学生コースの学際領域Ａ、グローバル・アジア特別教育プログラムの学際領域Ａの単位としても認める。

⑶ 広域単位互換協定先（南大阪地域大学コンソーシアム等）の授業を受講し、修得した単位については、その授業科目を学際領域Ａの単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。

5．放送大学の特別聴講学生として放送大学の講義を受講し、単位認定試験に合格した学生は、受講科目を教養科目として読替えて単位を認め、評価は「認定」とする。なお、授業科目の読替表等詳細は別途指示する。

6．UMAP（アジア太平洋大学交流機構）を基盤とする SDGs オンライン協働学習プログラムの枠組みにより UMAP 参加大学の提供科目を受講し、修得した単位については、４単位までその授業科目を ABP 科目（英語）として指定された学際領域Ｂの単位とし、評価は「認定」とする。

7．上記１から６のいずれにも当てはまらず、本学在籍期間中に協定校で修得した科目を本学の単位として認定する場合は、学生の申請に基づき、個別審議して可否を判断する。なお、５段階評価とすべき明確な理由がない場合は、評価は基本的に「認定」とする。

8．単位認定の審査手続きは、以下のように取り扱う。

⑴ 上記３に該当するものは、授業計画実施専門委員会での審議は行わず、本申合せの規定に基づき単位を認定する。

⑵ 上記１から６（３を除く）に該当するものは、授業計画実施専門委員会での審議により単位を認定する。

⑶ 上記７に該当するものは、大学教育センター運営委員会での審議により単位を認定する。

9．単位認定に伴う成績評価等は、以下のように取り扱う。

⑴ 単位修得済み科目への認定申請を行い成績評価を変更することは、３⑶の場合を除き認められない。

⑵ 単位認定対象と同一科目を履修中の場合は、開講学期の試験期間末日までに申請が行われていれば、履修中科目を原則として削除する。なお、審査手続中に履修中科目の成績が合格となった場合等においては、履修中科目を卒業判定外の区分へ移動させる。

この申合せは、令和５年４月１日から実施する。

18　留学生科目等に関する申合せ

平成 24 年 11 月８日制定
大学教育センター運営委員会
令和５年２月２日一部改正

この申合せは、静岡大学全学教育科目規程別表Ⅰ（第 4 条関係）及び別表Ⅲ（第 13 条関係）に規定する、留学生科目及び日本語・日本文化研修科目の修得単位の振替、読替及び履修に関し、必要な事項を申し合わせる。

１　留学生科目（日本語）について
(1)　留学生科目のうち、「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅵ」の６科目は留学生対象の科目とし、修得した単位は英語（１単位科目及び２単位科目）、初修外国語（１単位科目及び２単位科目）又は教養展開科目（ただし、ＡＢＰ科目として指定された科目を除く）の単位として振替えることができる。ただし、英語及び初修外国語の１単位科目に振替える場合は、日本語２単位をもって１単位分とする。
(2)　一定以上の日本語運用能力を有していると授業担当者が認定した場合を除いて、留学生は「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅲ」の３科目を履修するものとする。（履修を希望しない場合は、必ず授業担当者の認定を受けなければならない。）なお、留学生が履修を希望した場合でも、当該留学生が高度な日本語運用能力（母語又は第一言語レベル）を有していると授業担当者が認定した場合、受講を認めない場合がある。
(3)　留学生以外の学生は履修できない。ただし、授業担当者が履修の必要性を特に認めた場合は、留学生以外の日本語運用能力が低い学生も履修することができるが、修得した単位は、卒業単位に含めることはできない。

２　留学生科目（日本事情）について
(1)　留学生科目のうち、「日本事情」は、原則として留学生対象の科目とし、修得した単位は学際領域ＡまたはＢの単位として振替えることができる。
(2)　授業担当者が特に認めた場合は、留学生以外の学生も履修することができ、修得した単位は、学際領域Ｂの単位として振替えることができる。

３　留学生科目（ＡＢＰインターンシップ）について
留学生科目のうち「ＡＢＰインターンシップ」は留学生対象の科目とし、ＡＢＰ留学生コース以外の学生が履修した場合、修得した単位は教養展開科目（ただし、ＡＢＰ科目として指定された科目を除く）の単位として振替えることができる。

４　留学生科目（日本語、日本事情）からの特に認められた場合の単位振替えについて
(1)　１及び２の規定に関わらず、ＡＢＰ留学生コースの学生に対し、学部教務委員会が特に認めた場合は、「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅵ」及び「日本事情」の単位を、ＡＢＰ基礎日本語又はＡＢＰ科目として指定された教養領域科目の単位として振替えることができる。
(2)　前項によりＡＢＰ基礎日本語の１単位科目に振替える場合は、日本語２単位をもって１単位分とする。

５　日本語・日本文化研修科目について
(1)　別表Ⅲに規定された科目は特別聴講学生（大学間又は部局間交流協定に基づく交換留学生に限る。）及び科目等履修生（日本語・日本文化研修留学生に限る。）対象の科目とするが、授業担当者等が特に認めた場合は、正規留学生も履修することができる。ただし、卒業単位にはならない。
(2)　前項の規定に関わらず、ＡＢＰ留学生コースの学生が「日本語中級Ⅰ」～「日本語中級Ⅹ」を履修した場合は、修得した各科目の単位（２単位）を、対応する「ＡＢＰ基礎日本語Ⅰ」～「ＡＢＰ基礎日本語Ⅹ」の単位（１単位）として、それぞれ読替えるものとする。

附　則（令和５年２月２日改正）
１　この申合せは、令和５年４月１日から実施する。
２　令和４年９月３０日以前に入学した学生については、改正後の申合せの規定に関わらず、なお従前の例による。

19 TOEIC スコアのデータ登録に関する申合せ

平成２５年９月５日　制定
令和２年２月６日　一部改正
大学教育センター運営委員会

1. 学務情報システムに登録する TOEIC スコアは、入学１年前の 4 月 1 日(ABP 留学生は 10 月 1 日)以降に当該学生が受験したものを有効とし、学生本人の申告に基づき、本学学務部教務課（以下、教務課）において登録することを原則とする。

2. 但し、静大生協主催の *TOEIC*(R) L&R IP テストおよび英語力確認テストについては、教務課において一括登録する。これに関連して、以下の細則を設ける。

(1) 学務情報システムへの登録が完了した後、教務課は学務情報システムからその旨を学内連絡として学生宛にメールで通知する。
(2) 静大生協主催の *TOEIC*(R) L&R IP テストの場合、学籍番号、生年月日、性別いずれかのマークに誤りがあった際は、当該学生の TOEIC スコアは学務情報システムに登録しない。
(3) 英語力確認テストの場合、学籍番号、生年月日、性別いずれかのマークに誤りがあった際は、教務課で修正して TOEIC スコアを学務情報システムに登録する。
(4) 一括登録に関わる誤登録の修正や未登録データの登録は、学生の申請に応じて、教務課に保存する元データと照合の上で行う。登録データの修正後、教務課は英語科目部にその旨を通知する。また、登録データの修正が履修科目の成績に関わる場合、翌学期の履修登録開始前日までの申請を当該科目の成績に反映するものとする。

3. 学務情報システムに登録されていない TOEIC スコアについては、科目の成績評価や選択科目の履修条件等、学務情報システム上の取り扱いには使用しない。

4. 特別な理由により、学務情報システムに「みなし得点」を登録する場合は、正規の得点と区別するため、登録する得点の下一桁を１点とする。

5. 本申合せは令和２年度入学生より適用する。

20 特別教育プログラムの履修について

1．特別教育プログラムとは、所属する学部や学科等の授業科目にとどまらず、自身の専攻（主専攻）以外に、興味や関心のある特定のテーマに沿った科目を体系的に学ぶ制度です。

2．現在静岡大学で履修できる全学教育科目に関係する特別教育プログラムは、下表のとおりです。特別教育プログラムは希望学生が任意で履修する選択制で、それぞれについて修了認定に必要な要件を下表及びプログラム別の科目表で定めてあります。

3．いずれの特別教育プログラムについても、下表の修了要件の他に、「所属する学部の卒業要件を満たすこと」が修了認定されるために必要です。

4．特別教育プログラムの修了が認められると「特別教育プログラム修了証書」が授与されます。「特別教育プログラム修了証書」は、主専攻の他にも特定の学習テーマに基づいた科目群を履修したことを外部に証明するものです。

5．特別教育プログラムで修得した科目の多くは、卒業単位に含めることができます。詳細は所属学部の規則を確認してください。

(1)英語特別教育プログラム		
1	概要	留学や英語が頻繁に使われる国内外の企業に就職を希望する等、高度な英語力の習得を望む学生のためのプログラムです。教養英語必修科目を含め、開講されている多くの教養英語科目を履修し、英語圏への留学準備や英語資格試験対策も行います。
2	受講対象学部等	全学部
3	必要単位数	１２単位以上
4	修了要件	修了には以下の条件を満たす必要単位数（合計 12 単位以上）が必要です。 ・必修科目「英語コミュニケーション」（2 単位）を含む。 ・必修科目「英語演習」（1 単位）を含む。 ・必修科目「総合英語Ⅲ」（2 単位）を含む。 ・以下の選択必修科目の中から 4 単位以上を含む。 「ESP Ⅰ」(2 単位)、「ESPⅡ」(2 単位)、「アカデミックイングリッシュ」(2 単位）、「ビジネスイングリッシュ」(2 単位)、「英語インテンシブ A/B/C/D」(2 単位)、「海外英語研修 A/B」（2 単位） ＊卒業要件としての教養英語科目の選択・必修区分と本プログラム修了要件としての選択・必修区分は異なります。
5	申請方法	学務情報システムの「申請受付」機能から申請。
6	問い合わせ先	（静岡）教務課教務係　：　054-238-4259 （浜松）浜松教務課共通教育係　：　053-478-1006
(2)グローバル・アジア特別教育プログラム		
1	概要	静岡大学では、社会のニーズに応えるグローバル人材を育てる取り組みとして「アジアブリッジプログラム（ABP）」を実施しています。本プログラムは ABP の一環として、幅広い視野と国際的な感覚を身につけた学生を育てるためのプログラムです。 （ＡＢＰ＝Asia Bridge Program） 詳細は以下のサイトをご参照ください。 https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/student/abp-minor/

2	受講対象学部（人数）	全学部（１学年合計 60 名程度とする）
3	必要単位数	１５単位
4	履修要件	修了には、以下の条件を満たす必要単位数(15 単位) 以上の修得が必要です。 (1)①ABP 科目として指定された、教養領域 A・B の科目(英語)から 4 単位以上、学際領域の科目(英語、または日本語)から 4 単位以上、②指定された英語科目から 0 単位以上を履修し、合計 12 単位以上 (2)海外研修科目から 2 単位以上 (3)「ABP 修了研究」1 単位
5	修了要件	修了には、必要単位数（１５単位）の修得が必要です。
6	申請方法	所定の申請書を国際課（静岡・浜松）へ提出。
7	問い合わせ先	国際課　：　054-238-3065 global@adb.shizuoka.ac.jp
(3)静岡大学アクティブラーナー特別教育プログラム		
1	概要	本プログラムは、キャリア形成に関する科目を体系的に学修することによって自律的キャリア形成に向けた知識を獲得し、履修学生が大学 4 年間の学びをより意義深いものとすることを目指すプログラムです。現代社会についての知識を持ち、自分のキャリア形成を社会との関係の中で捉えられるようになることも目標としています。
2	受講対象学部等	静岡キャンパスの学部
3	必要単位数	６単位以上
4	修了要件	指定された講義・演習科目および実習・インターンシップ科目の単位修得（計 6 単位以上）と、キャリアに関するイベントの参加（計 120 分以上）、小論文課題の提出が必要です。 ※開設科目に変更が出た場合は、各年度に開催される本プログラムのガイダンス等で読替表を提示します。
5	申請方法	学務情報システムの「申請受付」機能から申請。
6	問い合わせ先	教務課教務係　：　054-238-4259
(4)防災マイスター		
1	概要	静岡大学防災マイスター称号制度は、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出すために 2011 年度に立ち上げられました。このプログラムでは、静岡県を含む広い地域で危惧される南海トラフ地震をはじめとする自然災害に対する科学的な知識を有し、それに基づいて災害時に自己や他者の生命と災害後の生活を守る上で有用な最低限の防災知識・スキルを獲得すること、また教育学部にあっては、それを学校安全の推進に活用できる能力を獲得することを目標としています。 本プログラムは防災総合センターが中心となり、所定の科目を履修し授与を申請した学生に「静岡大学防災マイスター」の称号を与えるものであり、静岡･浜松両キャンパスで実施され、2021 年度までに 129 名が「静岡大学防災マイスター」の称号を得ています。 なお、本プログラムの修了（称号取得）とともに、静岡県の認定講座（例年２月中旬／半日程度）を受講することにより、静岡県知事認証「ふじのくに防災マイスター」の称号を得ることができます。
2	受講対象学部等	全学部

3	必要単位数	１２単位以上
4	修了要件	必修科目４単位、選択必修科目４単位以上、選択科目４単位以上の合計１２単位以上の取得と、修了レポートの提出と合格が認定条件となります。
5	申請方法等	「静岡大学防災マイスター授与にかかる単位取得計画書（様式 1）」と「申請者登録用紙」を添付してメールにて提出 メールアドレス：meister.office.shiz@shizuoka.ac.jp
6	ガイダンス	４月上旬と１月下旬に開催されますので、取得を希望される方は参加してください。 （防災総合センターHP、学務情報システムで案内周知）
7	問い合わせ先	（静岡）防災総合センター（大学会館１階）：054-238-4502 メールアドレス：meister.office.shiz@shizuoka.ac.jp （浜松）メールアドレス：bousai-hama@shizuoka.ac.jp 対象科目等に関する最新情報は、下記サイトをご参照ください。 https://www.cnh.shizuoka.ac.jp/education/
(5)ABP4月特別教育プログラム（ABP4月）		
1	概要	各学部の課程で専門性を養うとともに、ABP 独自のカリキュラムによって、日本の産業やグローバル企業の経営、社会で求められるコミュニケーションスキルを学びます。国際交流活動や企業インターンシップ、大学が提供する就職支援活動などで、卒業後にグローバル人材として活躍するための知識とスキルを獲得することを目指すプログラムです。
2	受講対象学部	全学部
3	修了要件	①所定の科目の単位修得とともに、②ABP 日本就職コースへの登録、③毎年度１回以上の国際交流活動参加
4	履修要件	私費外国人留学生選抜によって各学部に入学した私費外国人留学生
5	申請方法	入学年度初めに国際連携推進機構が実施する当該プログラムのガイダンスに出席し所定の申請書を国際課（静岡・浜松）へ提出
6	問い合わせ先	国際課　：　054-238-3065
(6)国際日本学副専攻プログラム		
1	概要	グローバル化する世界で活躍するための基礎――国際的・相対的視点で見た日本の社会・文化・政治・経済に関する知識、および自身の専門分野に関する知識を英語で理解し発信する力――を身につけるためのプログラムです。（多くの科目は、人文社会科学部の専門科目として開講されます。）
2	受講対象学部	全学部
3	修了要件	必要単位数１８単位。*TOEIC*® L&R 730 点以上（もしくは他の外部英語試験の同等の資格）。
4	履修要件	*TOEIC*® L&R 550 点以上
5	申請方法	所定の申請書を人文社会科学部学務係へ提出 学務情報システムの「申請受付」でも申請可能
6	履修科目	履修科目については、以下のサイトをご参照ください。 https://www.hss.shizuoka.ac.jp/about/sub_course/
7	問い合わせ先	人文社会科学部学務係：054-238-4485

（1）英語特別教育プログラム

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	必要単位	履修年次	備　考
教養基礎科目	英語	英語コミュニケーション	2	必修	演習	3単位	1	
		英語演習	1	必修	演習		2	
		基礎英語A	1	選択	演習	0単位～	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習		1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習		2	
		中級英語A	2	選択	演習		1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習		1	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語C	2	選択	演習		2	
		中級英語D	2	選択	演習		2	
		上級英語A	2	選択	演習		1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習		1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語C	2	選択	演習		2	
		上級英語D	2	選択	演習		2	
		総合英語ＩA	2	選択	演習		1	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ＩB	2	選択	演習		2	
		総合英語ＩC	2	選択	演習		2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習		1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡB	2	選択	演習		2	
		総合英語ⅡC	2	選択	演習		2	
		総合英語Ⅲ	2	必修	演習	2単位	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択必修	演習	4単位以上	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択必修	演習		1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択必修	演習		2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（工学部はTOEIC要件なし）
		ビジネスイングリッシュ	2	選択必修	演習		3	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		英語インテンシブA	2	選択必修	演習		1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義） ※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブB	2	選択必修	演習		1～2	
		英語インテンシブC	2	選択必修	演習		1～2	
		英語インテンシブD	2	選択必修	演習		1～2	
		英語海外研修A	2	選択必修	演習		1～4	
		英語海外研修B	2	選択必修	演習		1～4	
合計						12単位以上		

（２）グローバル・アジア特別教育プログラム

区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	履修年次	必要単位	備　考
ABP科目*	教養領域A	哲学 (Philosophy)	2	選択必修	1～3		ABP科目として指定された教養領域A、教養領域Bの科目（英語）から4単位以上、学際領域の科目（英語・日本語どちらの科目も履修可能）から4単位以上、左記英語科目から0単位以上を履修し、計12単位以上履修すること。 ※開講される科目は年度により異なる場合がある。 英語で開講される科目は、TOEIC550点以上取得者が履修できる。 *ABP＝Asia Bridge Program
	（人文・社会科学）	歴史と文化 (History and Culture)	2	選択必修	1～3		
		ことばと表現 (Language Arts)	2	選択必修	1～3		
		法と社会 (Law and Society)	2	選択必修	1～3		
		経済と社会 (Economy and Society)	2	選択必修	1～3		
		国際社会と日本 (International Society and Japan)	2	選択必修	1～3		
		現代の社会(Contemporary Japanese Society)	2	選択必修	1～3		
		心理学 (Psychology)	2	選択必修	1～3		
		地域と文化 (Region and Culture)	2	選択必修	1～3		
		芸術論 (Aesthetics)	2	選択必修	1～3		
		思想と芸術A(Art and Ideology A)	2	選択必修	1～3		
		思想と芸術B(Art and Ideology B)	2	選択必修	1～3		
		地域の文化と歴史A(Culture and History A)	2	選択必修	1～3		
		地域の文化と歴史B(Culture and History B)	2	選択必修	1～3		
		心理と行動A(Psychology and Behavior A)	2	選択必修	1～3		
		心理と行動B(Psychology and Behavior B)	2	選択必修	1～3	4単位以上	
		経営と経済A(Management and Economics A)	2	選択必修	1～3		
		経営と経済B(Management and Economics B)	2	選択必修	1～3		
		現代の社会A(Contemporary Society A)	2	選択必修	1～3		
		現代の社会B(Contemporary Society B)	2	選択必修	1～3		
	教養領域B	数学の世界 (Introduction to Mathematics)	2	選択必修	1～3		
	（自然科学）	数理の構造 (The Structure of Mathematics)	2	選択必修	1～3		
		物理の世界 (Introduction to Physics)	2	選択必修	1～3		
		自然と物理 (Nature and Physics)	2	選択必修	1～3		
		化学の世界 (Introduction to Chemistry)	2	選択必修	1～3		
		生活の科学 (Sciences of Living)	2	選択必修	1～3		
		生命科学 (Life Science)	2	選択必修	1～3		
		生物と環境 (Life and the Environment)	2	選択必修	1～3		
		地球科学 (Earth Science)	2	選択必修	1～3		
		進化と地球環境 (Evolution and the Earth's Environment)	2	選択必修	1～3		
		科学と技術 (Science and Technology)	2	選択必修	1～3		
	学際領域A・B	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。		選択必修	1～3	4単位以上	
英語科目	英語	ESP Ⅰ（留学）	2	選択必修	1	0単位以上	ビジネスイングリッシュは、TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択必修	3		
海外研修科目	英語	英語海外研修A	2	選択必修	1～4	2単位以上	ABP海外研修Ⅰ・Ⅱは、TOEIC550点以上取得者が履修できる。
		英語海外研修B	2	選択必修	1～4		
	学際領域A	ABP海外研修Ⅰ	2	選択必修	2～4		
	（地域志向科目）	ABP海外研修Ⅱ	2	選択必修	2～4		
		海外交換留学プログラムⅠ	2	選択必修	1～4		
		海外交換留学プログラムⅡ	2	選択必修	1～4		
	学際領域B	ABP海外研修Ⅲ	2	選択必修	2～4		
		海外大学交流研修Ⅰ	2	選択必修	3		
修了認定科目	学際領域A（地域志向科目）	ABP修了研究	1	必修	3～4	1単位	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
合計						15単位以上	

注意
1. 上記科目のうち、卒業単位となる科目は所属学部規則の定めるところによる。
2. TOEIC得点による履修制限は、各学期開始前の履修登録期間前日までに学務情報システムに登録されている得点を対象とする。
3. 授業科目名が同じものを2科目以上修得しても、卒業単位としては1科目しか認められない。
（例：学務情報システムでの表示名である「哲学」、「ABP-EN 哲学」、「ABP-JP 哲学」は全て同じ科目であり、卒業単位として認められるのは、いずれか1科目のみ。）

（３）静岡大学アクティブラーナー特別教育プログラム（静岡キャンパス在学生対象）

区分	科目名	単位数	授業形態	年次	開講区分	備考1
必修 （講義・演習科目）	キャリアデザイン	1	講義	1	全学教育科目 （キャリア形成科目）	1単位必修
	小　計	1単位				
選択必修 （実習・インターンシップ科目）	インターンシップの理論と実践	2		2～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	左記選択必修から１単位以上必修
	各学部インターンシップ科目	1～2		2～4	各学部インターンシップ科目	
	サービスラーニング	2		2～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	
	コミュニティサービスラーニング	1		2～4	グローバル共創科学部 （グローバル系科目）	
	小　計	1単位				
選択必修 （講義・演習科目）	地域産業とキャリア	2	講義	1～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	左記選択必修から、4単位以上必修
	ジェンダーからみる現代社会	2	講義	1～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	
	高等教育と入試広報	2	講義	2～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	
	金融機関窓口からみる地域経済	2	講義	2～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	
	地域連携プロジェクト型セミナー	2	演習	2～4	全学教育科目 （学際領域Ａ）	
	小　計	4単位				
選択必修 （課外活動）	学内外のキャリアに関するイベント（セミナー、ガイダンス、企業説明会等）への参加			1～4	特別教育プログラム・課外活動	キャリアに関するイベントへの参加（計120分以上）
	小論文　※1			1～4	特別教育プログラム・課外活動	小論文課題を提出
	小　計	キャリアに関するイベントへの参加（計120分以上）と小論文課題の提出				
合計		講義・演習科目および実習・インターンシップ科目の単位修得（計6単位以上）及びキャリアに関するイベントへの参加（計120分以上）と小論文課題の提出				

※1 「自分自身のキャリア形成と所属学部における学びがどのように関わるか」を記載したレポートを提出

（４）防災マイスター

【静岡キャンパス】

区分	授業科目	単位	履修年次	対応学部等	必要単位	備　考
必修	大規模自然災害の科学	2	2	全学教育科目（静岡）	4単位	
	災害のリスクマネジメント	2	2～3			
選択必修	地震防災	2	2～3	全学教育科目（静岡）	4単位以上	
	地域社会と災害	2	2			
	地球科学	2	2			
	学校におけるリスク管理	2	3	教育学部		
	防災・減災論	2	2	グローバル共創科学部		
	安全とリスクの心理学	2	2			
	防災まちづくり	2	3			
選択	進化と地球環境	2	2	全学教育科目（静岡）	4単位以上	
	静岡県の防災・減災と原子力	2	3			
	社会資本マネジメント論	2	2			
	心理学概論	2	1	人文社会科学部		
	人文地理学	2	2			
	地誌学	2	2			
	認知心理学	2	3	教育学部		
	地誌学概論	2	1			
	地理学研究法	2	3			
	持続可能な地域社会と災害	2	3			
	地球ダイナミクス概論Ⅰ	2	2	理学部		
	地球ダイナミクス概論Ⅱ	2	2			
	生物環境科学概論Ⅰ	2	2			
	生物環境科学概論Ⅱ	2	2			
	堆積学	1	3			
	層序学	2	3			
	放射線計測・管理学概論	2	3～4			
	放射線管理実習	1	2～3			
	地質学概論	2	2	農学部		
	山地保全学	2	3			
	コミュニティ心理学	1	3	グローバル共創科学部		
	ウェルビーイングの哲学	1	3			
	総合人間科学概論	2	1			
	現代社会の認知科学	2	1			
	人間の尊厳と人権	2	1			
	基礎地学	2	2			
	生物多様性保全論	2	2			
	都市計画論	2	2			
	応用倫理学概論	2	2			
	臨床心理学概論	2	2			
	自然災害の現象	2	3			
	環境共生社会論	2	3			
	森林水文学	2	3			
	環境工学	2	3			
	博物館情報・メディア論	2	2	学芸員科目		
合計					12単位以上	

【浜松キャンパス】

区分	授業科目	単位	履修年次	対応学部等	必要単位	備　考
必修	災害のリスクマネジメント	2	2	全学教育科目（浜松）	4単位	
	大規模自然災害の科学	2	2			
選択必修	地震防災	2	2	全学教育科目（浜松）	4単位以上	
	静岡県の防災・減災と原子力	2	2			
	わが街・浜松の市政	2	2			
	地域社会連携を考える	2	2			
	安全工学	2	3～4	工学部		
選択	材料力学Ⅰ	2	1	工学部（機械工学科）	4単位以上	
	確率・統計	2	2			
	流体環境工学	2	3			
	経営システム工学	2	4			
	確率統計	2	2	工学部（電気電子工学科）		
	数値シミュレーション	3	3			
	経営システム工学	2	4			
	技術者倫理	1	4			
	センサ工学	2	4			
	電気法規および施設管理	2	4			
	環境工学	2	3	工学部（電子物質科学科）		
	経営システム工学	2	4			
	数値計算法	2	3			
	経営システム工学	2	4	工学部（化学バイオ工学科）		
	技術者倫理	1	3			
	移動現象論Ⅰ	2	2			
	環境化学	2	2			
	確率統計	2	1	工学部（数理システム工学科）		
	リスク分析	2	3			
	経営システム工学	2	4			
	技術者倫理	1	3			
	統計学入門	2	1	情報学部		
	社会モデル	2	2			
	社会調査論	2	1			
	地域コミュニティ論	2	2			
	Webデザイン	2	2			
	都市環境デザイン	2	2			
	情報・コミュニティ論	2	2			
合計					12単位以上	

（５）ＡＢＰ４月特別教育プログラム（ＡＢＰ４月）

区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	履修年次	必要単位	備　考
教養基礎科目	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	1	1単位	
教養展開科目	学際領域	Global Business Studies	2	選択必修	2～3	2単位以上	
		静岡でグローバルキャリアを考える	2	選択必修	1～3		
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択必修	1～2	4単位以上	
		日本語Ⅱ	2	選択必修	1～2		
		日本語Ⅲ	2	選択必修	1～2		
		日本語Ⅳ	2	選択必修	1～2		
		日本語Ⅴ	2	選択必修	1～2		
		日本語Ⅵ	2	選択必修	1～2		
	日本事情	日本事情	2	必修	1～2	2単位	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	2	2単位	教育学部は教育実習Ⅱで代替可
合計						11単位以上	

21 「数理・データサイエンス」教育プログラムについて

静岡大学では、文部科学省「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度（リテラシーレベル)」にもとづき、全学教育科目から構成される「数理データサイエンス」教育プログラムを設置しています。(認定の有効期限：令和８年３月３１日まで)

この認定制度は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより、学生の当該分野への関心を高め、かつ適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的としています。

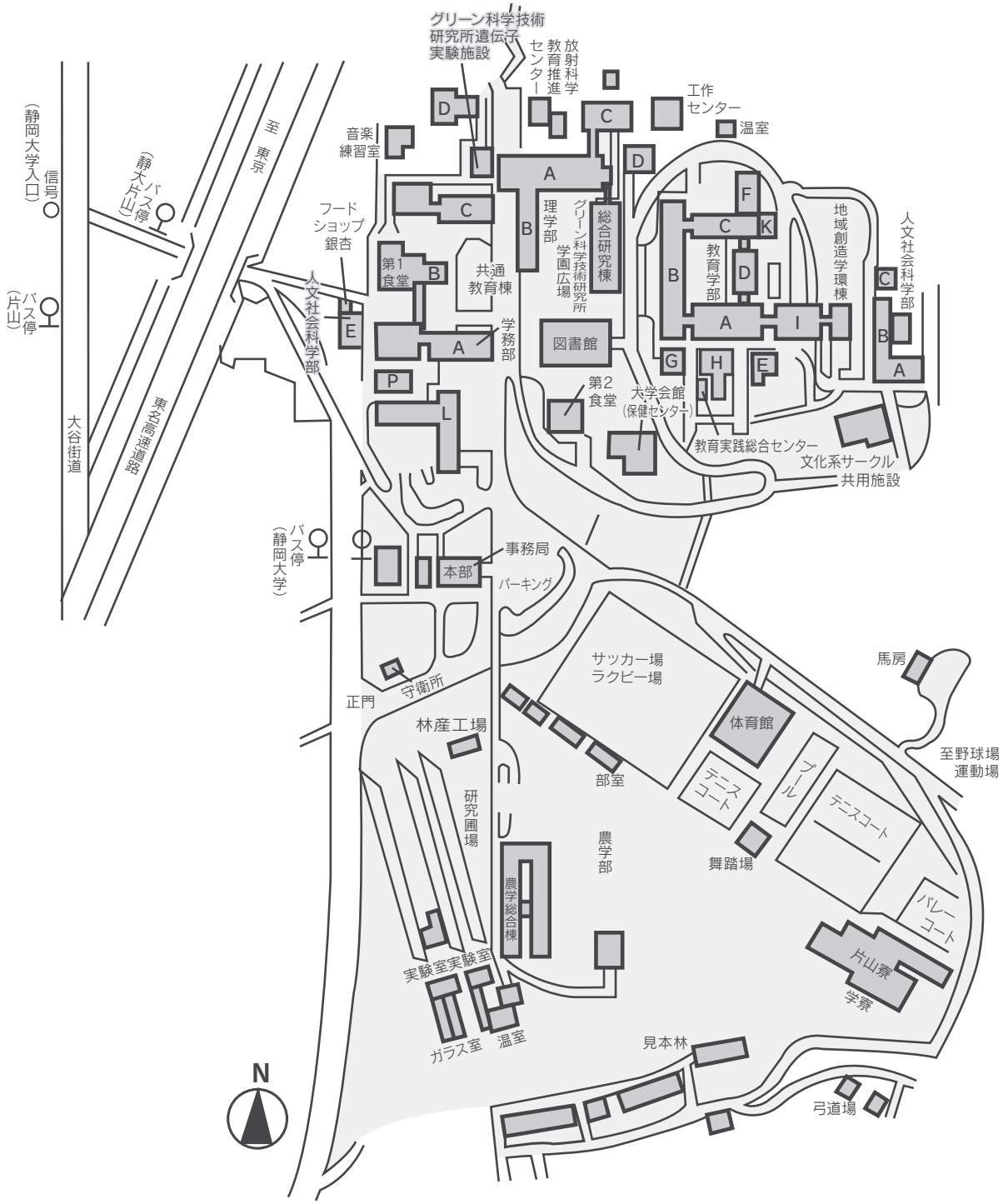
静岡大学において認定されている教育プログラムの概要は、以下のとおりです。

教育プログラムの概要		
1	受講対象学部等	全学部
2	必要単位数	３単位
3	修了要件	修了には下記「授業科目一覧」に記載の単位修得が必要です。
4	認定方法	必要単位を修得した時点で、教育プログラムの修了者として自動的に認定されます。

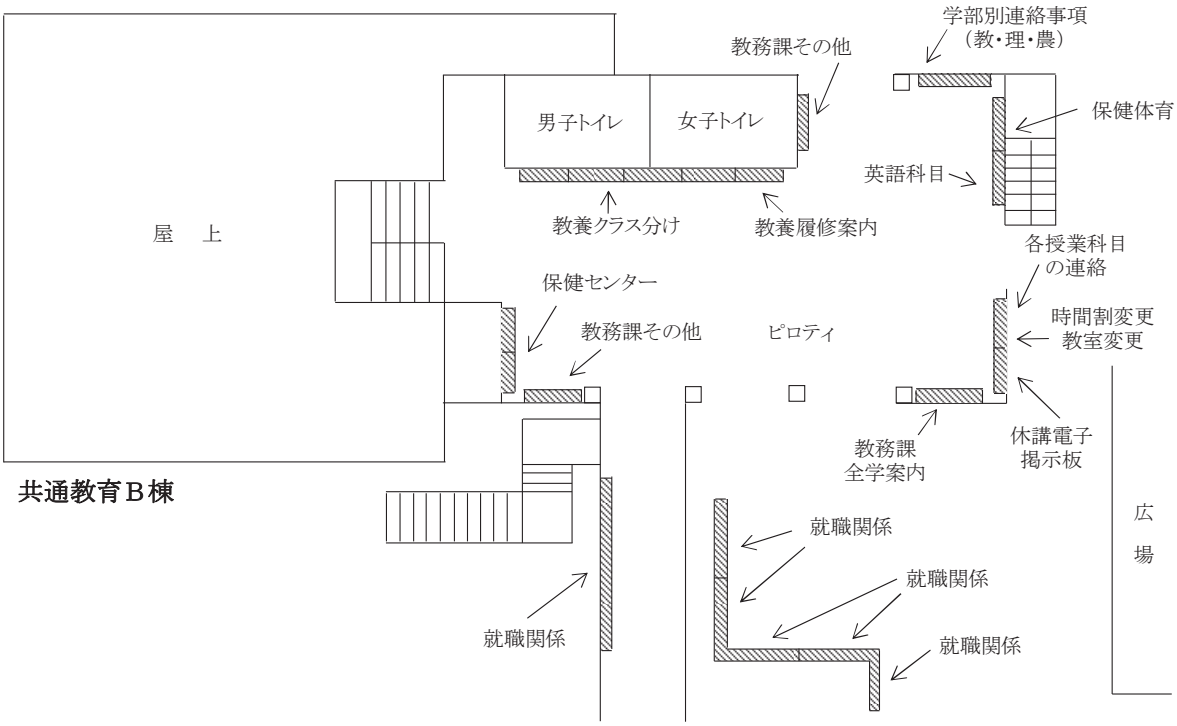
授業科目一覧

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次
教養基礎科目	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1
合計			3 単位			

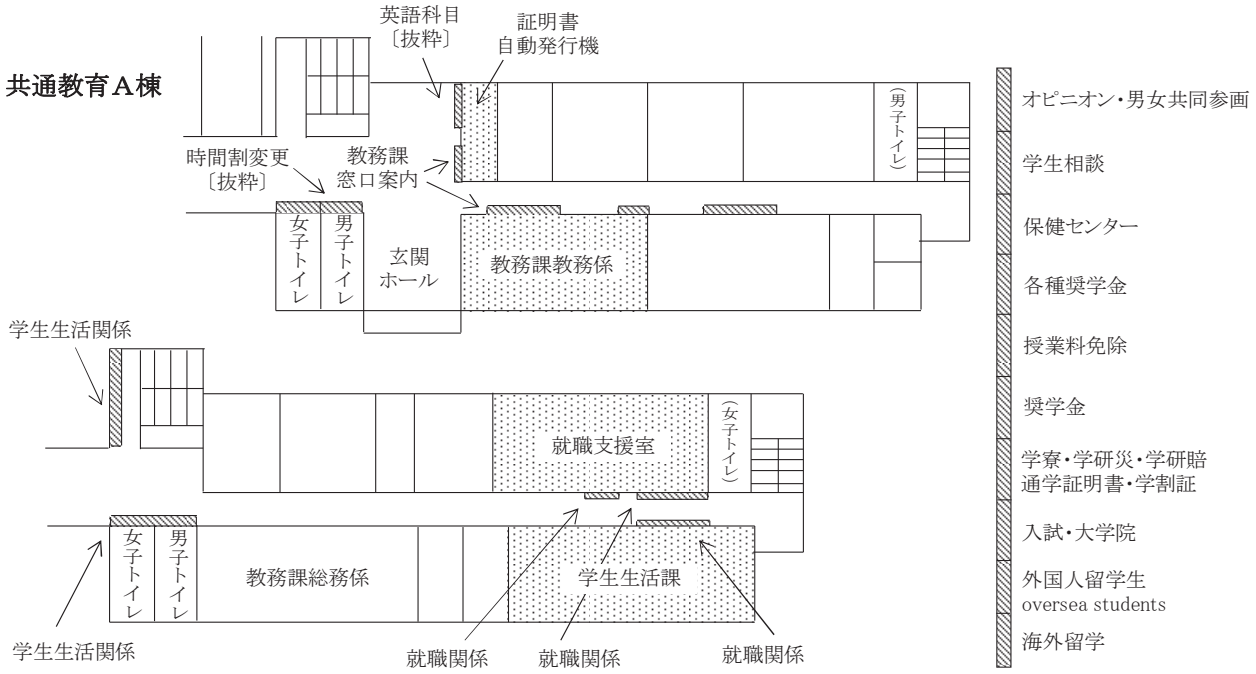
22　静岡キャンパス共通教育棟校舎配置図



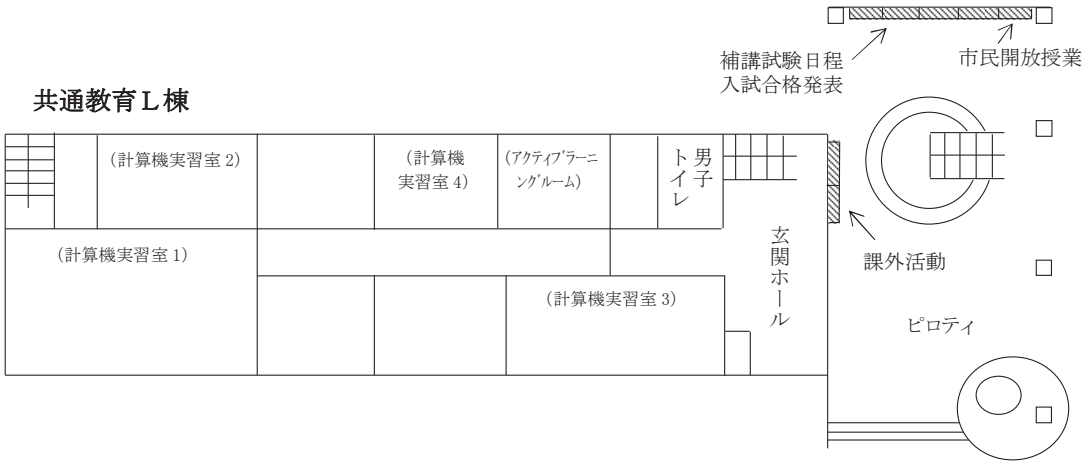
23 静岡キャンパス共通教育棟周辺掲示板



共通教育Ｂ棟

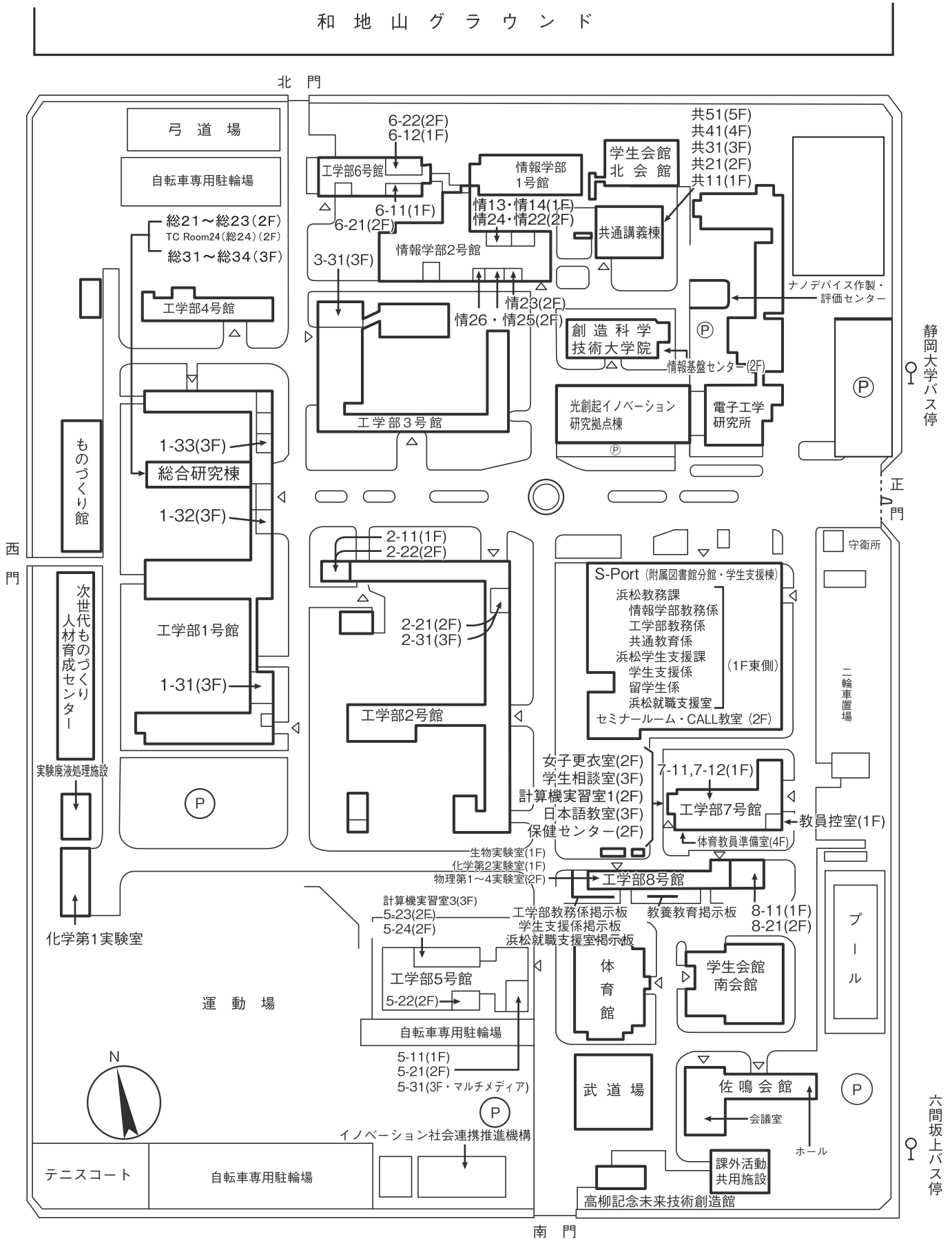


共通教育Ａ棟



共通教育Ｌ棟

24　浜松キャンパス建物配置図・教室名



全学教育科目の
学部別授業科目一覧
及び
必要単位数
（ＡＢＰ留学生コース）

2022(令和４年度) 10 月入学

ＡＢＰ留学生用

※ＡＢＰ留学生は p. 85～p. 102 までの授業科目一覧等を参照すること。

25 全学教育科目の学部別授業科目一覧（ABP留学生コース）

○「必修・選択の別」の用語説明
「必　　修」：卒業するために必ず修得しなければならない科目
「選択必修」：複数の授業科目のなかから定められている単位数を必ず修得しなければならない科目
「選　　択」：必ず修得しなければならない科目ではないが、卒業に必要な単位に含まれる科目

(1)人文社会科学部（ABP留学生コース）

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	英語コミュニケーション	2	選択	演習	1	
		英語演習	1	選択	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ＩA	2	選択	演習	1	
		総合英語ＩB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ＩC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	初修外国語入門Ⅰ及びⅡと併せて同一言語を履修すること。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	2	
	健康体育	健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	2単位までを卒業単位として認める。
		健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された教養領域科目から2科目4単位必修（英語・日本語のどちらの科目も履修可能） ※年度によりABP科目は異なる場合がある。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	

		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B (自然科学)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際領域A (地域志向科目)	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A(地域志向科目)とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	ABP科目として指定された学際領域科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) 学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」
	学際領域B			選択必修	講義、演習又は実習	1～3	
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABP基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	
	ABP基礎科目 (文系)	ABP日本の社会	1	選択必修	演習	1(初)	4科目4単位必修
		ABP日本の歴史	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の地理	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の政治	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の経済	1	選択必修	演習	1(初)	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	演習	1～3	

注意
1. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(2)教育学部（ABP留学生コース）

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		*情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育実技Ⅰ	1	選択必修	実技	1～4	選択必修科目は、1単位までを卒業単位として認める。
		*健康体育実技Ⅱ	1	選択必修	実技	1～4	
		*健康体育演習	1	必修	演習	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された教養領域科目から2科目4単位必修（英語・日本語のどちらの科目も履修可能） ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 ただし、上記4単位に日本国憲法を含めることができる。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際領域A （地域志向科目）	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A（地域志向科目）とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	ABP科目として指定された学際領域科目から2科目4単位必修（英語・日本語のどちらの科目も履修可能） 学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会（情報・福祉を含む）」 「生命・人間（文化・芸術を含む）」 「科学・技術」
	学際領域B			選択必修	講義、演習又は実習	1～3	
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABP基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	選択	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	選択	演習	1(初)	
	ABP基礎科目 （文系）	ABP日本の社会	1	選択必修	演習	1(初)	2科目2単位必修。
		ABP日本の歴史	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の地理	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の政治	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の経済	1	選択必修	演習	1(初)	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	演習	1～3	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	必修	講義	1	
		*発達と学習	2	必修	講義	1	
		*教育と社会	2	必修	講義	2	

注意
1. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が、必ず履修しなければならない科目である。（健康体育については、*印の授業科目のうち、実技から1単位、演習から1単位（*印、合計2単位）履修すること。）
2. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
4. 履修年次の「1(初)」とは、1年次（初学期・前学期・後学期）の初学期のことをいう。

(3)情報学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満(1～499)取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台(500～599)取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台(500～599)取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ(留学)	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ(地域)	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講(A、B:偶数年度、C、D:奇数年度)
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
	健康体育	健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～3	左記3科目のうち、2単位までを卒業単位として認める。
		健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～3	
		健康体育演習	1	選択	演習	1～3	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～3	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A (人文・社会科学)	思想と芸術A	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された教養領域科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。
		思想と芸術B	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史A	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史B	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動A	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動B	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済A	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済B	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会A	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会B	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B (自然科学)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
		先端の技術	2	選択必修	講義	1～3	
		数学の応用	2	選択必修	講義	1～3	

	学際領域A (地域志向科目)	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A(地域志向科目)とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	ABP科目として指定された学際領域科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) 学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」
	学際領域B			選択必修	講義、演習又は実習	1～3	
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABP基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	
	ABP基礎科目 (文系)	ABP日本の社会	1	行動選必、社会必修	演習	1(初)	科学:「ABP基礎数学」・「ABP基礎物理学」・「ABP基礎統計学」は必修 行動:「ABP基礎数学」・「ABP基礎統計学」は必修、「ABP日本の社会」・「ABP日本の歴史」・「ABP日本の地理」・「ABP日本の政治」・「ABP日本の経済」から1科目1単位必修 社会:「ABP日本の社会」は必修、「ABP基礎数学」・「ABP基礎統計学」・「ABP日本の歴史」・「ABP日本の地理」・「ABP日本の政治」・「ABP日本の経済」から2科目2単位必修 科学は情報科学科 行動は行動情報学科 社会は情報社会学科
		ABP日本の歴史	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の地理	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の政治	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の経済	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
	(理系)	ABP基礎数学	1	科学必修、行動必修、社会選必	演習	1(初)	
		ABP基礎物理学	1	科学必修	演習	1(初)	
		ABP基礎統計学	1	科学必修、行動必修、社会選必	演習	1(初)	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	演習	1～3	

注意
1. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
2. 学部横断セミナーとして開講する工学部のフィールドワーク科目「ものづくり・理科教育支援」の単位修得をした場合は、学際領域Aとして認定する。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
4. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		線形代数学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	科学は情報科学科 行動は行動情報学科 社会は情報社会学科
		線形代数学Ⅱ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅱ	2	科学選必、行動選必	講義	1	
		グラフ理論	1	科学必修、行動選必	講義	1	
		符号理論	2	科学選必	講義	2	

(4)理学部（ABP留学生コース）

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	2単位までを卒業単位として認める。
		健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A （人文・社会科学）	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された教養領域科目から2科目4単位必修（英語・日本語のどちらの科目も履修可能） ※年度によりABP科目は異なる場合がある。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B （自然科学）	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際領域A （地域志向科目）	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A（地域志向科目）とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	ABP科目として指定された学際領域科目から2科目4単位必修（英語・日本語のどちらの科目も履修可能） 学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会（情報・福祉を含む）」 「生命・人間（文化・芸術を含む）」 「科学・技術」
	学際領域B			選択必修	講義、演習又は実習	1～3	
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABP基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	
	ABP基礎科目 （理系）	ABP基礎数学	1	必修	演習	1(初)	3科目3単位必修 Mは数学科 Pは物理学科 Cは化学科 Bは生物科学科 Gは地球科学科
		ABP基礎物理学	1	P必修、MCBG選必	演習	1(初)	
		ABP基礎化学	1	C必修、MPBG選必	演習	1(初)	
		ABP基礎生物学	1	B必修、MPCG選必	演習	1(初)	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	演習	1～3	

注意
1. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次（初学期・前学期・後学期）の初学期のことをいう。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		数学Ⅰ（微分積分A）	2	PCBG必修	講義	1	Mは数学科 Pは物理学科 Cは化学科 Bは生物科学科 Gは地球科学科
		数学Ⅱ（線形代数A）	2	PCBG必修	講義	1	
		数学Ⅲ（微分積分B）	2	PC必修、BG選択	講義	1	
		数学Ⅳ（線形代数B）	2	PC必修、BG選択	講義	1	
		数学Ⅴ（統計）	2	PCBG選択	講義	2	
		数学Ⅵ（微分積分C）	2	PCBG選択	講義	2	
		物理学Ⅰ（力学）	2	MC選択、BG必修	講義	1	
		物理学Ⅱ（電磁気）	2	MCBG選択	講義	1	
		物理学Ⅲ（現代物理）	2	MCBG選択	講義	2	
		化学Ⅰ（物理化学A）	2	MP選択、BG必修	講義	1	
		化学Ⅱ（物理化学B）	2	MPBG選択	講義	1	
		化学Ⅲ（有機化学）	2	MPBG選択	講義	2	
		生物学Ⅰ（基礎A）	2	MPC選択、G必修	講義	1	
		生物学Ⅱ（基礎B）	2	MPCG選択	講義	1	
		地球科学Ⅰ（基礎A）	2	MPC選択、B必修	講義	1	
		地球科学Ⅱ（基礎B）	2	MPCB選択	講義	1	
		物理学実験	1	P必修、CBG選択	実験	2	
		化学実験	1	CB必修、PG選択	実験	1	
		生物学実験	1	B必修、PCG選択	実験	1～2	
		地学実験	1	G必修、PCB選択	実験	2	

(5)工学部（ABP留学生コース）

（教養科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満（1～499）取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台（500～599）取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ（留学）	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ（地域）	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	必修	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。（集中講義）
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講（A、B：偶数年度、C、D：奇数年度）
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	2	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	3	
	健康体育	健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	3～4	2単位までを卒業単位として認める。
		健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	3～4	
		健康体育演習	1	選択	演習	3～4	
	フィールドワーク	工学基礎実習	1	必修	実習	1	
		創造教育実習	1	必修	実習	1	
		ものづくり・理科教育支援	2	選択	演習	2～3	学部横断セミナーとして開講する。
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	2	
教養展開科目	教養領域A（人文・社会科学）	思想と芸術A	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された教養領域科目から2科目4単位必修（英語・日本語のどちらの科目も履修可能） ※年度によりABP科目は異なる場合がある。
		思想と芸術B	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史A	2	選択必修	講義	1～3	
		地域の文化と歴史B	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動A	2	選択必修	講義	1～3	
		心理と行動B	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済A	2	選択必修	講義	1～3	
		経営と経済B	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会A	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会B	2	選択必修	講義	1～3	
		＊日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		世界のことばと文化	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B（自然科学）	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

		先端の技術	2	選択必修	講義	1～3	
		数学の応用	2	選択必修	講義	1～3	
	学際領域A (地域志向科目)	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A(地域志向科目)とし、その他の科目を学際領域Bとする。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	ABP科目として指定された学際領域科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能)
	学際領域B	一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABP基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	選択	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	選択	演習	1(初)	
	ABP基礎科目 (理系)	ABP基礎数学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎物理学	1	ME必修 DCS選択	演習	1(初)	基礎物理・基礎化学・基礎生物から2科目2単位必修
		ABP基礎化学	1	M必修 EDCS選択	演習	1(初)	Mは機械工学科 Eは電気電子工学科 Dは電子物質科学科 Cは化学バイオ工学科 Sは数理システム工学科
		ABP基礎生物学	1	EDCS選択	演習	1(初)	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	演習	1～3	

注意
1. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		微分積分学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	Mは機械工学科 Eは電気電子工学科 Dは電子物質科学科 Cは化学バイオ工学科 Sは数理システム工学科
		微分積分学Ⅱおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅰおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		電磁気学	2	MC(環境)必修 S選択	講義	2	
		現代物理	2	MED必修	講義	2	
		熱統計力学	2	EC(環境)必修 S選択	講義	2	
		工学基礎化学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		工学基礎化学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		基礎無機化学	2	D必修	講義	1	
		生物学Ⅰ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		生物学Ⅱ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		物理・化学実験	1	MEDC(環境) S必修	実験	2	
		化学・生物実験	1	C(バイオ)必修	実験	2	

(6)農学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
教養基礎科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	必修	演習	1	
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス入門	1	必修	演習	1	
		情報処理・データサイエンス演習	2	必修	演習	1	
	英語	英語コミュニケーション	2	必修	演習	1	
		英語演習	1	必修	演習	2	
		基礎英語A	1	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「初級」のクラスの者が履修できる。
		基礎英語B	1	選択	演習	1	TOEIC500点未満(1～499)取得者が履修できる。
		基礎英語C	1	選択	演習	2	
		中級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」のクラスの者が履修できる。
		中級英語B	2	選択	演習	1	
		中級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC500点台(500～599)取得者が履修できる。
		中級英語D	2	選択	演習	2	
		上級英語A	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「上級」のクラスの者が履修できる。
		上級英語B	2	選択	演習	1	
		上級英語C	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		上級英語D	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅠA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅠB	2	選択	演習	2	TOEIC500点台(500～599)取得者が履修できる。
		総合英語ⅠC	2	選択	演習	2	
		総合英語ⅡA	2	選択	演習	1	
		総合英語ⅡB	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		総合英語ⅡC	2	選択	演習	2	
		総合英語Ⅲ	2	選択	演習	3	TOEIC700点以上取得者が履修できる。
		ESPⅠ(留学)	2	選択	演習	1	英語コミュニケーションで「中級」又は「上級」のクラスの者が履修できる。
		ESPⅡ(地域)	2	選択	演習	1	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	演習	2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語インテンシブC	2	選択	演習	1～2	※隔年開講(A、B:偶数年度、C、D:奇数年度)
		英語インテンシブD	2	選択	演習	1～2	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	健康体育実技Ⅰ	1	選択	実技	1～4	左記3科目のうち、2単位までを卒業単位として認める。
		健康体育実技Ⅱ	1	選択	実技	1～4	
		健康体育演習	1	選択	演習	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	1	
教養展開科目	教養領域A (人文・社会科学)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された教養領域科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	教養領域B (自然科学)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際領域A (地域志向科目)	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 また、その中から地域志向の内容を含む授業科目を学際領域A(地域志向科目)とし、その他の科目を学際領域Bとする。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」「教養ゼミ」「PBL」「インターンシップ」等として実施する。		選択必修	講義、演習又は実習	1～3	ABP科目として指定された学際領域科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) 学際領域のテーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」
	学際領域B			選択必修	講義、演習又は実習	1～3	
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	ABP基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	
	ABP基礎科目 (理系)	ABP基礎数学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎物理学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎化学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎生物学	1	必修	演習	1(初)	
	ABPインターンシップ	ABPインターンシップ	2	必修	演習	1～3	

注意
1. 必要単位数を超えて修得した選択必修科目の単位は教養選択科目として卒業単位に含めることができる。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備　考
理系基礎科目		数学概論A	2	Br必修	講義	1	Brは生物資源科学科、Alは応用生命科学科
		数学概論B	2	Br必修	講義	1	
		数学概論	2	Al必修	講義	1	
		統計学	2	Al必修	講義	1	
		物理学概論A	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論B	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論	1	Al必修	講義	1	
		化学概論A	2	Br必修	講義	1	
		化学概論B	2	Br必修	講義	1	
		化学概論	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学2A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1B	2	Al必修	講義	1	
		物理化学2B	2	Al必修	講義	1	
		生物学概論A	2	Br必修	講義	1	
		生物学概論B	2	Br必修	講義	1	
		生物学A	2	Al必修	講義	1	
		生物学B	2	Al必修	講義	1	
		物理学実験	1	Br必修	実験	1	
		化学実験	1	BrAl必修	実験	1	
		生物学実験	1	BrAl必修	実験	1	

26 各学部の教養科目必要単位数（ABP留学生コース）

(1)人文社会科学部（ABP留学生コース）

科目区分＼学科区分				社会学科	言語文化学科	法学科	経済学科	備考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際領域A・B	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
		留学生科目	ABP基礎日本語	10	10	10	10	
			ABP基礎科目	4	4	4	4	
			ABPインターンシップ	2	2	2	2	
		小　計		30	30	30	30	
	選択	教養基礎科目	英語	7	7	7	7	
			初修外国語					
			健康体育					
		教養展開科目	教養領域A・B					
			学際領域A・B					
		留学生科目	ABP基礎科目					
	合　計			37	37	37	37	
専門科目	合　計			72	68	66	62	専門科目の詳細は学部規則を参照。
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			15	19	21	25	
合　計（卒業単位数）				124	124	124	124	

(2)教育学部(ABP留学生コース)

科目区分		学科区分		学校教育教員養成課程	備考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	
			数理・データサイエンス	3	
			英語	3	
			健康体育	2	
			キャリア形成科目	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	ABP科目から2科目4単位
			学際領域A・B	4	ABP科目から2科目4単位
		留学生科目	ABP基礎日本語	8	
			ABP基礎科目	2	
			ABPインターンシップ	2	
		教職等資格科目	教職教養科目	6	
		小計		37	
	選択	教養基礎科目	英語	2	
			初修外国語		
			健康体育		
		教養展開科目	教養領域A・B		
			学際領域A・B		
		留学生科目	ABP基礎日本語		
			ABP基礎科目		
	合計			39	
専門科目	合計			78	専門科目の詳細は学部規則を参照。
自由科目	教育学部の専門科目、及び教養科目で各々の必要単位数を超えた単位数			7	
合計(卒業単位数)				124	

(3)情報学部(ABP留学生コース)

科目区分 ＼ 学科区分				情報科学科	行動情報学科	情報社会学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	3	
			英語	3	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際領域A・B	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
		留学生科目	ABP基礎日本語	10	10	10	
			ABP基礎科目	3	3	3	
			ABPインターンシップ	2	2	2	
		小　計		32	32	32	
	選択	教養基礎科目	英語	3	3	3	
			初修外国語				
			健康体育				
		教養展開科目	教養領域A・B				
			学際領域A・B				
		留学生科目	ABP基礎科目				
	合　　計			35	35	35	
専門科目	合　　計			83	83	83	専門科目の詳細は学部規則を参照
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			6	6	6	
合　計(卒業単位数)				124	124	124	

(4)理学部(ABP留学生コース)

科目区分 ＼ 学科区分				数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	3	
			英語	3	3	3	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際領域A・B	4	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
		留学生科目	ABP基礎日本語	10	10	10	10	10	
			ABP基礎科目	3	3	3	3	3	
			ABPインターンシップ	2	2	2	2	2	
		小　計		31	31	31	31	31	
	選択	教養基礎科目	英語	7	7	7	7	7	
			初修外国語						
			健康体育						
		教養展開科目	教養領域A・B						
			学際領域A・B						
		留学生科目	ABP基礎科目						
	合　計			38	38	38	38	38	
専門科目	合　計			77	77	79	80	82	専門科目の詳細は学部規則を参照。
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			9	9	7	6	4	
合　計(卒業単位数)				124	124	124	124	124	

(5)工学部(ABP留学生コース)

科目区分			学科区分	機械工学科	電気電子工学科	電子物質科学科	化学バイオ工学科	数理システム工学科	備考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			数理・データサイエンス	3	3	3	3	3	
			英語	5	5	5	5	5	
			フィールドワーク	2	2	2	2	2	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際領域A・B	4	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
		留学生科目	ABP基礎日本語	8	8	8	8	8	
			ABP基礎科目	3	3	3	3	3	
			ABPインターンシップ	2	2	2	2	2	
		小計		33	33	33	33	33	
	選択	教養基礎科目	英語	2	2	2	2	2	
			初修外国語						
			健康体育						
			フィールドワーク						
		教養展開科目	教養領域A・B						
			学際領域A・B						
		留学生科目	ABP基礎日本語						
			ABP基礎科目						
	合計			35	35	35	35	35	
専門科目	合計			89	89	89	91	87	専門科目の詳細は学部規則を参照。
自由科目	教養科目,学部専門科目で必要単位数を超えた単位数			2	2	2	0	4	
合計(卒業単位数)				126	126	126	126	126	

(6)農学部（ABP留学生コース）

科目区分 ＼ 学科区分				生物資源科学科	応用生命科学科	備　　考
教養科目	必修	教養基礎科目	新入生セミナー	2	2	
			数理・データサイエンス	3	3	
			英語	3	3	
			キャリア形成科目	1	1	
		教養展開科目	教養領域A・B	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際領域A・B	4	4	ABP科目から2科目4単位
		留学生科目	ABP基礎日本語	10	10	
			ABP基礎科目	4	4	
			ABPインターンシップ	2	2	
		小　計		33	33	
	選択	教養基礎科目	英語	6	6	
			初修外国語			
			健康体育			
		教養展開科目	教養領域A・B			
			学際領域A・B			
	合　　計			39	39	
専門科目	合　　計			78	80	専門科目の詳細は学部規則を参照。
自由科目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			7	5	
合　計（卒業単位数）				124	124	

令和5年度　行事予定表

令和５年２月２日　現在

令和5年（2023年）

4　月

日	曜日	行　事
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	入学式(静岡グランシップ)
5	水	ガイダンス※
6	木	ガイダンス※
7	金	ガイダンス※
8	土	
9	日	
10	月	ガイダンス※
11	火	
12	水	授業開始　水1
13	木	木1
14	金	金1
15	土	
16	日	
17	月	月1
18	火	火1
19	水	水2
20	木	木2
21	金	金2
22	土	春のビッグフェスティバル（静岡）
23	日	春のビッグフェスティバル（静岡）
24	月	月2
25	火	火2
26	水	水3
27	木	木3
28	金	金3
29	土	昭和の日
30	日	

5　月

日	曜日	行　事
1	月	月3
2	火	火3
3	水	憲法記念日
4	木	みどりの日
5	金	こどもの日
6	土	
7	日	
8	月	月4
9	火	火4
10	水	水4
11	木	木4
12	金	金4
13	土	
14	日	
15	月	月5
16	火	火5
17	水	水5
18	木	全学一斉地震防災訓練　木5
19	金	金5
20	土	
21	日	
22	月	月6
23	火	火6
24	水	水6
25	木	木6
26	金	金6
27	土	
28	日	
29	月	月7
30	火	火7
31	水	水7

6　月

日	曜日	行　事
1	木	創立記念日　木7
2	金	金7
3	土	
4	日	
5	月	月8
6	火	火8
7	水	水8
8	木	木8
9	金	金8
10	土	
11	日	
12	月	月9
13	火	火9
14	水	水9
15	木	木9
16	金	金9
17	土	
18	日	
19	月	月10
20	火	火10
21	水	水10
22	木	木10
23	金	金10
24	土	
25	日	
26	月	月11
27	火	火11
28	水	水11
29	木	木11
30	金	金11

7　月

日	曜日	行　事
1	土	
2	日	
3	月	月12
4	火	火12
5	水	水12
6	木	木12
7	金	金12
8	土	
9	日	
10	月	月13
11	火	火13
12	水	水13
13	木	木13
14	金	金13
15	土	補講（静岡、浜松）
16	日	
17	月	海の日
18	火	火14
19	水	水14
20	木	木14
21	金	金14
22	土	
23	日	
24	月	月14
25	火	前学期試験　火15
26	水	前学期試験　水15
27	木	午前：前学期試験 午後：TOEIC　木15
28	金	前学期試験　金15
29	土	
30	日	
31	月	前学期試験　月15

8　月

日	曜日	行　事
1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	山の日
12	土	
13	日	
14	月	夏季一斉休業(案)
15	火	夏季一斉休業(案)
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

9　月

日	曜日	行　事
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	秋季学位記授与式（静岡）
12	火	秋季学位記授与式（浜松）
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	敬老の日
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	秋分の日
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	

集中講義

10　月

日	曜日	行　事
1	日	
2	月	授業開始　月1
3	火	火1
4	水	水1
5	木	秋季入学式（静岡）木1
6	金	秋季入学式（浜松）金1
7	土	
8	日	
9	月	スポーツの日
10	火	火2
11	水	水2
12	木	木2
13	金	金2
14	土	
15	日	
16	月	月2
17	火	火3
18	水	水3
19	木	木3
20	金	金3
21	土	
22	日	
23	月	月3
24	火	火4
25	水	水4
26	木	木4
27	金	金4
28	土	
29	日	
30	月	月4
31	火	火5

11　月

日	曜日	行　事
1	水	水5
2	木	木5
3	金	文化の日 大学祭(静岡)
4	土	大学祭(静岡)
5	日	大学祭(静岡)
6	月	金曜授業　金5
7	火	火6
8	水	水6
9	木	木6
10	金	両キャンパスとも休講 対面授業等なし
11	土	テクノフェスタ・大学祭（浜松）
12	日	テクノフェスタ・大学祭（浜松）
13	月	月5
14	火	火7
15	水	水7
16	木	木7
17	金	金6
18	土	
19	日	
20	月	月6
21	火	火8
22	水	水8
23	木	勤労感謝の日
24	金	金7
25	土	
26	日	
27	月	月7
28	火	火9
29	水	水9
30	木	木8

12　月

日	曜日	行　事
1	金	金8
2	土	
3	日	
4	月	月8
5	火	火10
6	水	水10
7	木	木9
8	金	金9
9	土	
10	日	
11	月	月9
12	火	火11
13	水	水11
14	木	木10
15	金	金10
16	土	
17	日	
18	月	月10
19	火	火12
20	水	水12
21	木	木11
22	金	金11
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	冬季一斉休業(案)
29	金	
30	土	
31	日	

集中講義

令和6年（2024年）

1　月

日	曜日	行　事
1	月	元日
2	火	
3	水	
4	木	大学入学共通テスト監督者説明会　対面授業等なし
5	金	対面授業等なし
6	土	
7	日	
8	月	成人の日
9	火	月曜授業　月11
10	水	水13
11	木	木12
12	金	金12
13	土	大学入学共通テスト
14	日	大学入学共通テスト
15	月	月12
16	火	火13
17	水	水14
18	木	木13
19	金	金13
20	土	
21	日	
22	月	月13
23	火	火14
24	水	補講（静岡、浜松）
25	木	木14
26	金	金14
27	土	
28	日	
29	月	月14
30	火	後学期試験　火15
31	水	後学期試験　水15

2　月

日	曜日	行　事
1	木	後学期試験　木15
2	金	後学期試験　金15
3	土	
4	日	
5	月	後学期試験　月15
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	建国記念の日
12	月	振替休日
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	天皇誕生日
24	土	
25	日	前期日程試験
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	

3　月

日	曜日	行　事
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	後期日程試験
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	春分の日
21	木	学位記授与式（浜松）
22	金	
23	土	学位記授与式（静岡）
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

学期別の授業回数

	月	火	水	木	金
前学期	16	16	16	16	16
後学期	16	16	16	16	16
通　年	32	32	32	32	32

☆学年暦
前 学 期　　４月　１日～９月３０日
後 学 期　１０月　１日～３月３１日

※1　上記表の回数には、定期試験（実施する場合）を各学期に1回含む。
※2　原則として、半期ごとに1回以上のオンライン授業（オンデマンド型を想定。同時双方向型を除く。）を実施し、第14週までに15回分の授業を実施する。期末試験は第15週に行うことを原則とする。期末試験の代わりにレポート等で成績評価を行う場合は、オンライン授業は実施せず第15週に15回目の授業を実施することもできる。
※3　上記表の「対面授業等なし」の日は、対面授業及び同時双方向型のオンライン授業は実施しない日を指す。
※4　各学期の補講日（7/15、1/24）は、対面授業及び同時双方向型のオンライン授業を行う場合の補講日を指す。

・4月4日(火)　入学式　静岡グランシップ（大ホール）
・4月5日(水)～4月7日(金)　健康診断（静岡地区 新入生）
・4月11日(火),12日(水),14(金),17日(月),18日(火)　健康診断（浜松地区 新入生）
・5月18日（木）全学一斉地震防災訓練
・9月11日（月）秋季学位記授与式(静岡)
・9月12日（火）秋季学位記授与式（浜松）
・10月5日（木）秋季入学式（静岡）
・10月6日（金）秋季入学式(浜松)
・11月3日（金）～5日（日）大学祭(静岡)
・11月11日（土）～12日（日）テクノフェスタ・大学祭（浜松）
・3月21日（木）学位記授与式（浜松）(アクトシティ浜松)
・3月23日（土）学位記授与式（静岡）(グランシップ)
※1月12日（金）大学入学共通テスト設営に伴い，情報学部は7，8時限以降の専門科目を休講とする。補講は適宜実施する。
※2年生以上を対象としたガイダンスは3月中に実施することもある。実施日程は各部局からの指示に従うこと

2023（令和５年度）

静岡大学　全学教育科目

履　　修　　案　　内

発行　　静岡大学大学教育センター
〒422－8529　静岡市駿河区大谷836

編集　　静岡大学大学教育センター
授業計画実施専門委員会
教務課教務係・浜松教務課共通教育係

学籍番号	
氏　　名	